

授業科目等の概要														
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科										1年			
D P/ 学科人材育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。													
分類	必修	<input type="radio"/>	選択		配当年次	1	年	学期	通年		前期	<input type="radio"/>	後期	
種別	総論							授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習		実習	
授業科目	アパレル商品知識							単位	1単位					
担当教員	一明 豪							職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員	<input type="radio"/>	アパレル衣料、雑貨の企画制作、舞台衣装制作、ブライダル小物・雑貨のオーダーメイド、テレビ番組スタイリスト等で培った実践的な企画・デザイン、縫製技術、衣服の取扱い等を活かし、指導する。												
資格検定	一般財団法人 日本ファッション教育振興協会主催：ファッション販売能力検定3級										必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="radio"/>
授業概要	ファッション販売能力検定3級の商品知識を基準としてファッションアイテムの知識を身に付ける。シルエット、ディテール、名称などの基本知識に加え、そのアイテムの起源や流行した時代背景などのファッションカルチャーとしての知識も学ぶ。ファッションに対する造詣を深め、企画、生産、販売の分野で活用できる商品知識を身に付ける。													
学習成果	①	アイテム名、ディテールの知識習得。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果	70	%		
	②	サイズ表記 (JIS規格) の知識習得。							2	提出物/期限遵守		%		
	③	アイテムの起源、時代背景の知識習得。							3	独創性/習熟度		%		
	※	衣服のデザイン知識とサイズ知識 (JIS規格) の習得。							4	意欲・授業態度	30	%		
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ●一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：ファッション販売3 ●KFDオリジナルプリント配布 													

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容	
1	1-2	商品分類とサイズ知識	基本的商品分類を理解し、JIS規格をもとにしたサイズ表記の読み取りができるように学習する。ファッション販売3 3章-10に目を通しておくこと。	
2	3-4	ボトムスの知識 (スカート、パンツ)	ボトムス (スカート、パンツ) に関するアイテム名、丈の名称といった知識をメインに学習する。ファッション販売3 3章に目を通しておくこと。	
3	5-6	シャツブラウスの知識、カラーの知識	シャツのアイテム名とカラーの名称、種類を学ぶことで、商品デザインに対する知識を身に付ける。ファッション販売3 3章に目を通しておくこと。	
4	7-8	ワンピースの知識、シルエットの知識	ワンピースのアイテム名を押さえつつ、シルエット名を学ぶ。またシルエットを理解することでデザインの手法に関する知識も得る。ファッション販売3 3章に目を通しておくこと。	
5	9-10	カット&ソーンの知識、インナーウェアの知識 ニットウェア、ネックラインの知識	「編み物」としてのニット、カット&ソーン、インナーウェアの特殊性を理解する。アイテム名の理解だけではなくカルチャーとして捉え、時代背景も学ぶ。ファッション販売3 3章に目を通しておくこと。	
6	11-12	ジャケットの知識、スーツの知識	ジャケット、スーツの名称、ディテール名を学び、テーラードジャケットの内部構造も理解し、パターン、縫製、面における知識も学ぶ。ファッション販売3 3章に目を通しておくこと。	
7	13-14	コートの知識	アウターに関する知識としてコートの名称、ディテール名、そして機能面についての知識を身に付ける。コートに使われる素材についても理解する。ファッション販売3 3章に目を通しておくこと。	
8	15-16	服飾雑貨知識	靴、バッグ、アクセサリといったアパレル小物の知識を取り入れる。基本的なものに絞り、コーディネートを意識した品揃えの売り場知識を身に付ける。ファッション販売3 3章に目を通しておくこと。	
9	17-18	確認テスト・まとめ	半期の確認テスト、まとめを行う。	
10	19-20	確認テスト・まとめ	半期の確認テスト、まとめを行う。	
11				
12				
13				
14				
15				
準備学習 (予習・復習)	講義に関しては、1時間の講義に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、15時間の授業をもって1単位とする。			
その他 (授業に際しての注意点)	各学生が授業ごとにアイテムサンプルを持参し、手でアイテムサンプルを見ながら授業を受ける形が望ましい。また2回目以降の授業では、前回の授業内容を理解しているかの復習テストを実施するため、授業前に事前学習をすることが望ましい。			

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科										1年		
D P/ 学科人材育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。												
分類	必修	○	選択		配当年次	1	年	学期	通年		前期	○	後期
種別	総論						授業形態	講義	○	演習		実習	
授業科目	アパレル素材 I						単位	1単位					
担当教員	佐野 未来						職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員	○	アパレルメーカーのパタンナー職として、商品企画、パターン・サンプル作成、生産管理等の職務経験を活かし、実践的な商品企画、パターンメイキング、縫製技術、素材の取り扱いを指導する。											
資格検定											必修		選択
授業概要	アパレル製品の企画、デザイン、縫製、販売に必要な不可欠な知識である「テキスタイル」。1年次はその基礎知識として、繊維や糸からテキスタイルが出来るまで、ファッション動向を把握し、製品の管理や取り扱いに至るまでを幅広く学ぶ。そして実際に素材を扱いながら、テキスタイルへの理解を深め、手に取ったテキスタイルの素材名、組成、風合いなどをマスターし、そこから各分野（企画、デザイン、縫製、販売）に必要な判断が出来るようになることを目標とする。												
学習成果	①	繊維の種類について理解する。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果	80	%	
	②	織り、編み、加工について理解する。							2	提出物/期限遵守		%	
	③	繊維取り扱い表示記号について理解する。							3	独創性/習熟度		%	
	※	テキスタイルの使い方を提案できるスキルの習得。							4	意欲・授業態度	20	%	
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化学園 文化事業局 テキスタイルハンドブック ●KFDオリジナルプリント配布 												

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-2	アパレル素材とは、繊維とは、繊維の定義・種類・長さ別分類 各繊維の性能 繊維の種類1(天然繊維)について		アパレル素材とは何かその重要性を説き、天然繊維について知り、その長所と短所について理解を深め、実際に手に取りながら感覚を覚える。			
2	3-4	繊維の種類2(化学繊維)について		化学繊維について知り、その長所と短所について理解を深め、実際に手に取りながら感覚を覚える。			
3	5-6	糸とは布地とは(織物)		スパン糸、フィラメント糸、甘撫糸、強撚糸など、糸の構造を知り、布地になるとどうなるか実際の糸やテキスタイルを触り理解を深める。			
4	7-8	織物の仕組み		平織組織をサンプル製作し、糸から布地になる過程を学ぶ。			
5	9-10	柄について		基本的な柄を配布プリントや実際のテキスタイルを見て理解を深める。			
6	11-12	布地(加工)ステンシル加工について		ステンシル(型染め)の技法について理解を深める。			
7	13-14	布地とは(編み物、加工、レース、網地、ネット)素材感性(風合い)		編み(ニット)について構造を知り、その他レース、網地、ネットについて理解を深める。布地の加工について実際に手に取り確かめる。風合いと材質感感性軸に当てはめながら確認をする。			
8	15-16	天然染色について		糸や布地を染色する方法について学ぶ。			
9	17-18	洗濯表示の作り方、染み抜き、ドライクリーニング、繊維取り扱い表示記号		繊維取り扱い表示記号について理解を深めるが、古着も普及しているため旧JISについても学ぶ。各自の服に付いているタグも確認して理解を深める。			
10	19-20	アパレル素材のまとめ		これまでの学習の成果をまとめプリントを通して復習し、再度確認をする。			
11							
12							
13							
14							
15							
準備学習(予習・復習)	講義に関しては、1時間の講義に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、15時間の授業をもって1単位とする。						
その他(授業に際しての注意点)	実物の布地教材・生地スウォッチに触れるだけでなく、市場で取り扱われている商品を手に取り、繊維・糸・布地について素材への理解に取り組みさせる。						

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科										1年				
D P/ 学科人材育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	○	選択		配当年次	1	年	学期	通年		前期	後期	○		
種別	パソコン						授業形態	講義		演習	○	実習			
授業科目	グラフィック I						単位	1単位							
担当教員	中島 宏樹						職業実践専門課程：企業との連携								
※実務家教員	○	グラフィックデザイン企業で培ったグラフィックデザイナーの経験を活かした実践的なレイアウトデザイン・パッケージデザインに加え高い、より効率的なソフトウェア操作方法を教授する。													
資格検定												必修		選択	
授業概要	Adobe Illustratorの基本操作を前期で習得、Adobe Photoshopの基本操作を後期に習得する。1年を通して、パソコンの基本操作を学び、今日デザインの主軸となっている応用的なグラフィック演習まで学習することを目的とする。														
学習成果	① パソコン基本操作を理解し活用する。 ② AdobePhotoshopの使用方法を理解し、基本的画像編集能力を習得。 ③ 編集した画像を使用し、伝わりやすいデザインの構成力を習得。 ※ 各種グラフィックツールを利用してデザインする能力の習得。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1 定期試験結果 % 2 提出物/期限遵守 80 % 3 独創性/習熟度 10 % 4 意欲・授業態度 10 %						
使用教材	●KFDオリジナルデータ配布														

後期 授業計画 (10月-3月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-2	Ai イラストレーター基本操作・保存方法の徹底		新規ファイルの作成・ツール説明など基本操作の解説。習った操作方法を復習する。			
2	3-4	Ai 図形形成とカラーと文字打ち・フォント説明		図形の作成・カラー配置・文字の打ち方などの基本操作。			
3	5-6	Ai 図形形成とパスファインダー・ツール説明		パスファインダを理解することにより、図形の可能性を広げる。			
4	7-8	Ai パスの理解・ペンツールの使い方とレイヤー構造の理解		ペンツールを使ったトレース方法とレイヤーの解説。			
5	9-10	Ai ペンツールを使ったトレース (Tシャツ)		ペンツールを使ってトレースをする。			
6	11-12	Ai イラレでの画像のクリッピングマスクと画像配置		画像の用意と画像配置の方法とマスクの取り方の実践。			
7	13-14	Ai ポスタートレース 画像埋め込み・アウトライン		サンプルポスターをトレースすることで技術を定着させる。			
8	15-16	Ai オリジナルTシャツデザイン		オリジナルデザインを製作する。			
9	17-18	ps フォトショッップの基本操作 画像サイズと保存方法の徹底		新規ファイル作成・ツール説明など基本操作の解説。			
10	19-20	ps 画像の色の付け方 自動選択・ブラシ・色調補正		自動選択とブラシツールを使い分けて画像に色をつける。			
11	21-22	ps 写真画像のマスク・合成・レタッチ・色相調整 1		フォトショッップでのマスクの取り方やレタッチを理解する。			
12	23-24	ps 写真画像のマスク・合成・レタッチ・色相調整 2		フォトショッップでのマスクの取り方やレタッチを理解する。			
13	25-26	Ai_Ps ポスタートレース写真画像のマスク・合成など		Ai/Psを適切に使用しポスターをトレースする。			
14	27-28	Ai_Ps 企画書トレース レイアウト・アートボード		画面構成やレイアウトの構造を学ぶ。			
15	29-30	Ai_Ps 合成した写真画像をイラレに配置してポスターデザイン		習得した技術でオリジナルポスターをデザインする。			
準備学習(予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。						
その他(授業に際しての注意点)	パソコンを使用する際の、正しい使い方を理解し活用していく事。著作物の違法仕様など、デザイン制作におけるコンプライアンスを遵守するよう注意する。						

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 1年														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	1	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期			
種別	服飾造形						授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="radio"/>		
授業科目	ソーイング I						単位	8単位							
担当教員	岸川 真子						職業実践専門課程：企業との連携					<input type="radio"/>			
※実務家教員	<input type="radio"/>	OEMメーカーやレディースブランドの企画・デザイナー及び縫製工場の工場縫いの実務を活かした、実践的な知識と技術で指導を行う。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	服作りをする上で、欠かすことの出来ない基本知識とプロセスを実習の中で身につけ、部分的なディテール実習も含めながら衣服形成の基礎製作技術を習得する。1年次の進級作品として裏付きスーツ制作を目標とする。														
学習成果	①	構造を理解し、アパレルデザイナー基礎能力を身につける。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%				
	②	アパレル造形・仕様を理解する。						2	提出物/期限遵守	80	%				
	③	部分縫いで習得した技術を基にデザインの幅を広げる。						3	独創性/習熟度	10	%				
	※	基礎を身に付ける事により、服の構造の理解を深める。						4	意欲・授業態度	10	%				
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④ ●KFDオリジナルプリント配布 ●洋裁道具 実物定規 文化ボディ 														

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-10	ミシンの基礎トレーニング、縫い代始末	縫製技術の基礎となる、テクニックを正確に習得する。糸掛け、糸調子の合わせ方、ミシン縫製の手順と要点、針目ピッチの考え方を習得する。代表的な縫い代の始末方法を理解する。
2	11-20	手縫いの基礎	制作過程で必要となる、まつり縫い、ホック付け等のテクニックを習得する。習ったことの復習をする。
3	21-30	ミシントライアル (定規ケース)	ミシン縫製の基礎として、直線とカーブの縫い方、ゴムの通し方、縫い代の三つ折り、ロック始末、割りアイロンのかけ方、コバステッチのかけ方を習得し、完成させる。
4	31-40	スカート 部分縫い (ファスナー) 地直し 裁断	地直し方法の再確認、使用生地に合わせたミシン系の選定方法の理解、フラットニットファスナーのつけ方を理解する。予習として、教科書でファスナーのつけ方を確認する。
5	41-50	スカート 縫製1	合印の役割の理解、ダーツの縫い方、ファスナー付けを習得する。予習、復習として教科書でスカートの縫製手順を確認する。
6	51-60	スカート 縫製2	ベルトのつけ方、カギホックのつけ方、仕上げアイロンのかけ方を習得し、完成させる。予習、復習として教科書でスカートの縫製手順を確認する。
7	61-70	ディテール縫製 部分縫い (タック・ギャザー・額縁仕立て・紐・布ループ・ステッチ・スカルップ同型見返し)	ディテールにみられる仕立て方を習得する。
8	71-80	シャツブラウス 部分縫い (台襟付きシャツカラー) 裁断	台襟付きシャツカラーの縫製工程、表衿、裏襟の理解、前あきの理解、接着芯の貼り方、衿先の整え方、ステッチの入れ方を習得する。予習として、教科書で台襟付きシャツカラーの縫製手順を確認する。
9	81-90	シャツブラウス 縫製1	接着芯の選定方法の理解、身頃の縫い方を習得する。予習として、教科書で身頃の縫製手順を確認する。
10	91-100	シャツブラウス 縫製2	衿の付け方を習得する。予習として、教科書で衿のつけ方を確認する。見返しの仕組みを理解する。ステッチの完成度を上げる。
11	101-110	シャツブラウス 縫製3	袖付けの理解、ボタンホールとボタン付け方、仕上げアイロンのかけ方を習得し、完成させる。予習として、教科書で袖のつけ方を確認する。
12	111-120	部分縫いシームポケット・後ろ衿ぐりスラッシュあき	シームポケットの構造と仕様の理解。同型見返しスラッシュあきの理解。
13	121-130	文化祭作品 (ワンピース) 地直し・裁断	ワンピースのデザイン展開で、オリジナルデザインの商品を製作。使用素材の一部に伝統織物である、久留米餅を取り入れ、特徴とその取り扱いを理解する。生地幅を踏まえたマーキング方法を理解する。
14	131-140	文化祭作品 準備工程	条件に合わせた芯貼り・テープ貼りの箇所の理解、縫い代の始末方法の理解。素材に合わせたミシン針と糸の選定方法の理解。
15	141-150	文化祭作品 縫製1	針目ピッチの再確認。身頃の形成。商品としての視点で完成度を養う。

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-13	文化祭作品 縫製2	衿、袖の形成。商品としての視点で完成度を養う。
2	14-26	文化祭作品 縫製3	ステッチ、まとめ作業。ボタン付け等の手作業を習得する。商品としての視点で完成度を養う。
3	27-39	文化祭作品 縫製4	作品完成度の確認。手直し仕上げ。商品としての視点で完成度を養う。
4	40-52	部分縫い(斜め切り替えポケット・前あき)	斜め切り替えポケットの構造と前あきファスナー仕立ての仕様を理解する。
5	53-65	パンツ 地直し・裁断 準備工程	効率的なマーキング方法を考え、裁断を行う。案件に合わせた芯貼り・テープ貼りの箇所の理解、縫い代の始末方法の理解。素材に合わせたミシン針と糸の選定方法の理解。予習として、教科書でパンツの縫製手順を確認する。
6	66-78	パンツ縫製1	ダーツ・ポケットの仕立て方を習得する。
7	79-91	パンツ縫製2	前後パンツの合わせ方、股ぐりの構成、ファスナー付けを習得する。
8	92-104	パンツ縫製3	ベルト付け、裾の仕立て、まとめ作業を習得する。
9	105-117	部分縫い(テーラードカラー・片玉縁フラップポケット・セットインスリーブ)	テーラードカラーの構造の理解。片玉縁フラップポケットの構造の理解と縫製手順の習得。
10	118-130	一重ジャケット 裁断・芯貼り・準備工程	一重ジャケットにおける、マーキングについて理解する。ノッチの入れ方の理解。芯貼り工程の理解。予習として、教科書でジャケットの縫製手順を確認する。
11	131-143	一重ジャケット 縫製1	身頃の形成、ポケット付けを行う。
12	144-156	一重ジャケット 縫製2	衿の形成。衿付けと四つ留めの方法、衿外回りの縫製工程を理解し、身頃の仕立てを習得する。
13	157-169	一重ジャケット 縫製3	袖作り、いせころしの方法、袖の付け方の習得。肩パットの目的とくすみ肩パットの仕立てとつけ方を理解する。
14	170-182	一重ジャケット 縫製4	裾の始末とまとめ工程、ボタン付け、仕上げアイロンを行い完成させる。
15	183-195	まとめ	まとめ作業と作品完成後の確認と手直し仕上げ。
準備学習 (予習・復習)		ソーイングのような実習教室等における授業に関しては、教室外における1時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、30時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		実習日の初めに毎回10分間の縫製技術向上のためのトライアルを実施する。一つのアイテムを制作するためには、数週にわたっての継続的計画が必要である。作業の進め方についての手順を理解し、最終的には自ら計画的に達成できるように努めることが望ましい。	

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 1年														
D P/ 学科人材育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	1	年	学期	通年	<input type="checkbox"/>	前期	<input type="radio"/>	後期	<input type="checkbox"/>	
種別	総論				授業形態		講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>			
授業科目	デザイン基礎				単位		1単位								
担当教員	今村 大祐				職業実践専門課程：企業との連携										
※実務家教員	<input type="radio"/>	アパレル企業の営業企画での実務経験及び国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級取得にて培ってきた、実務性の高い服飾造形に関する知識を教授する。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	視覚伝達としてのコミュニケーション・デザイン。生産デザインとしてのプロダクト・デザイン。環境・空間デザインとしてのスペース・エンバイラメント・デザイン。それらを通して私たちの生活にどれだけ多くのデザインが浸透しているかを知り、五感を使いアイデア発想のソースを探すことを目的とする。後期では基本的な図形から発想した平面デザイン、移調の考えをベースにした配色構成、1枚の紙から立体をデザインする立体構成を行い、色、物、形の視点から造形のバランスを整える技術を習得する。														
学習成果	①	デザインの役割を理解する。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		%							
	②	五感を使った観察力の習得。			2	提出物/期限遵守	60	%							
	③	広い視野に基づくデザイン発想力の習得。			3	独創性/習熟度	30	%							
	※	適切なデザインを導きだす指針となる知識の習得。			4	意欲・授業態度	10	%							
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●クロッキーブック 														

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容	
1	1-2	デザインとは何か(美について)	アパレルから離れた、デザインの仕組みの理解。	
2	3-4	デザインの世界(観察力からのデザイン発想)	五感を使った観察の重要性、スケッチによる観察の仕方の習熟。	
3	5-6	デザインと芸術 デザイン史(産業革命~近代デザイン)	市場性を含めた、発想から形になる、という一連の流れへの理解。1800年代から近代に至るまでのデザインの歴史の概略の理解。	
4	7-8	デザインの起こり・西洋美術史	デザインの起こりを、産業革命以降の潮流から理解する。西洋美術史の概略を理解し、デザイン発想に活かす基礎知識を習得する。	
5	9-10	デザインと諸科学(デザインしたものには意味がある)、デフォルメ【そのデザインへの影響と相互関係】	観察からの発想、その転用や、より特徴的に形をとらえる、という事への理解習熟。	
6	11-12	図形の基礎。丸・四角・三角	基本となる幾何学模様、丸、四角、三角。それぞれが象徴する意味を知り、平面構成のデザイン発想につなげる。	
7	13-14	コンポジション基礎-対比・整列・シンメトリー・アシンメトリー・リズムの効果	構成における基本的理論の理解、習熟。	
8	15-16	コンポジション-平面構成(点・線・面)1	平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。	
9	17-18	コンポジション-平面構成(点・線・面)2	平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。また、コンセプトを意識した構成を行う。	
10	19-20	コンポジション-平面構成(点・線・面)3	平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。制作した作品を俯瞰で見ること、コンセプトとの矛盾点を見つけ修正する。	
11	21-22	作品に対するプレゼンテーション(合評会)1	作品プレゼンテーションの資料作成や演出についての理解、習熟。	
12	23-24	コンポジション-平面構成(配色)1	色彩計画を含めた、平面の基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。また、与えられた条件のデザイン活動への理解習熟を促す。	
13	25-26	コンポジション-平面構成(配色)2	色彩計画を含めた、平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。また、また、コンセプトを意識した構成を行う。	
14	27-28	コンポジション-平面構成(配色)3	色彩計画を含めた、平面での基本的構成を、実習作品から理解、習熟する。制作した作品を俯瞰で見ること、コンセプトとの矛盾点を見つけ修正する。	
15	29-30	作品に対するプレゼンテーション(合評会)2 まとめ	作品プレゼンテーションの資料作成や演出についての理解、習熟。学んだ内容をまとめ、反復する。	
準備学習(予習・復習)	講義に関しては、1時間の講義に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、15時間の授業をもって1単位とする。			
その他(授業に際しての注意点)	デザインの基礎的な部分を、色彩計画を含め、実習を通して理解する。同時に、与えられた条件でデザインを行い、正しく伝達するという実務としてのデザイン活動、プレゼンテーション活動についての基礎を学び、発想の活用を行う。			

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 1年														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	1	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期			
種別	服飾造形						授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習			
授業科目	ドレーピング I						単位	1単位							
担当教員	熊谷 朋美						職業実践専門課程：企業との連携								
※実務家教員															
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	トワルを用いて、ボディの上で服の形を造形し、立体構造を視覚的に捉えてパターンメイキングする力を養う。布目を通す重要性と、布の性質による垂や動き方を知り、シルエットの構築、バランス感覚を養うことを目的とする。また、ボディ上での立体構造、人体の凹凸を認識し、衣服としてのゆとりの考え方とテクニックを習得する。														
学習成果	①	布地の方向、布目を理解し立体的裁断の基礎を学ぶ。						成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%			
	②	人体の丸みを把握しダーツの位置を立体で把握する。							2	提出物/期限遵守	80	%			
	③	シルエット、ゆとりを把握する。							3	独創性/習熟度	10	%			
	※	立体的裁断をする事により人体の構造の理解を得る。							4	意欲・授業態度	10	%			
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾関連専門講座③ ●KFDオリジナルプリント配布 ●洋裁道具 実物定規 シーチング 製図用紙、ボディラインテープ、シルクピン 														

前期 授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-2	ドレーピングとは 組み立て方法について		使用する材料の取り扱い、トワルの扱い方、作業方法の注意点を理解する。胸ぐせの理解。予習として、教科書でドレーピングの道具とピンうち方法を確認する。			
2	3-4	トワルの地直しについて		シーチングを用いて、地直しの操作方法を学ぶ。予習として、教科書で地直しの仕方を再確認する。			
3	5-6	人体(身頃)の立体形状について1 ボディを布でくるむ		衣服制作のもとになる人体の凹凸ある立体形状を理解し、型紙とは何かを学ぶ。布の垂れる特性を知る。身幅の理解。予習として、人体のフォルムを把握する。			
4	7-8	人体(身頃)の立体形状について2 ボディを布でくるむ		衣服制作のもとになる人体の凹凸ある立体形状を理解し、型紙とは何かを学ぶ。ボディをトワルでくるみピンうちしながら形作ること胸の膨らみやウエストのくびれ等の形状を把握する。			
5	9-10	人体(身頃)の立体形状について3 ボディを布でくるむ		衣服制作のもとになる人体の凹凸ある立体形状を理解し、型紙とは何かを学ぶ。シルクピンでとめながら、立体形状を構成する。			
6	11-12	人体(身頃)の立体形状について4 ボディを布でくるむ		衣服制作のもとになる人体の凹凸ある立体形状を理解し、型紙とは何かを学ぶ。シルクピンでとめながら、立体形状を構成する。			
7	13-14	マーキングの方法について・ドラフティングについて		構成したトワルを平面におくすための、印のつけ方を学ぶ。ドレーピングから型紙として仕上げるための、チェック方法、修正方法を学ぶ。			
8	15	まとめ		発表会。製作物の振り返りを行う。			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	デザインドレーピング トップス1 準備工程	予習としてテーマを設定し、デザイン画を作成する。トワルの見積もり方の知識を深める。
2	3-4	デザインドレーピング トップス2 準備工程 地直し	トワルの見積もり方の知識を深める。トワルの地直し。
3	5-6	デザインドレーピング トップス3 組み立て	立体構造の理解。胸と肩甲骨のふくらみ、ウエストのくびれを全体的に捉え、衣服としてのゆとりを考慮してドレーピングする。
4	7-8	デザインドレーピング トップス4 組み立て	立体構造の理解。胸と肩甲骨のふくらみ、ウエストのくびれを全体的に捉え、衣服としてのゆとりを考慮してドレーピングする。
5	9-10	デザインドレーピング トップス5 ドレープ	完成した身頃に、ドレープを施す。ドレープの操作方法を習得する。
6	11-12	デザインドレーピング トップス6 マーキング・整理	トワルの形状に合わせて、マーキングをおこない縫い代整理を行う。
7	13-14	デザインドレーピング トップス 再組立て	再組立てを行い、形状を再確認する。
8	15	まとめ	ドレーピングの仕方について振り返る。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。		
その他 (授業に際しての注意点)	平面作図(フラットパターンメイキング)では、基本型のアイテムを中心とし、条件内でのデザインバリエーションによる応用方法を理解し、素材に適したパターンメイキング方法を習得する。また、工業用パターンに展開する方法を習得するため、反復練習を通して、パターンの実務を徐々に習得出来るようにする。		

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 1年													
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。													
分 類	必修	○	選択		配当年次	1	年	学 期	通年	○	前期		後期	
種 別	デザイン							授業形態	講義		演習	○	実習	
授業科目	ドローイングⅠ							単 位	2単位					
担当教員	舞田 章子							職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員	○	他校講師ならびに自身のコンクール入賞経験を経て評価を得ている。ドローイングの基礎力を伝授する。												
資格検定											必修		選択	
授業概要	人体のプロポーションを理解し基礎力をつけるため、短時間で特徴を掴むクロッキーを常に行い、平面画および素材表現に必要な基本的な着彩を学習する。1年次では基本的な描き方の練習を積みながら洋服の構造を読み取り、絵で表現する力を身につけることを目的とする。													
学習成果	① 人体のプロポーションを理解する。		② ボディバランスを理解し、様々なポーズの描き方を習得する。		③ ドローイングに必要な画材を使用し、基本的な着彩方法を習得。		※ 基礎能力を固めデザインを視覚的に伝える力を習得する。		成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%	
									2	提出物/期限遵守	80	%		
									3	独創性/習熟度	10	%		
									4	意欲・授業態度	10	%		
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●KFDオリジナルプリント配布 ●ドローイングセット ●コレクション雑誌 													

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-2	ドローイングとは 画材の説明/線の練習		一年次で習得するドローイング内容を確認し目標を自己設定する。使用する画材の説明。鉛筆、ミリペンを実際に使用してみる。予習、復習として画材を使い、画材の使い方に慣れる。			
2	3-4	人体のバランスの法則 ボディの描き方		人体バランスを8頭身で理解し、鉛筆を使用し線に慣れ、人体のプロポーションを理解する。習ったことを基に、書き方を復習する。			
3	5-6	様々なポーズバランスのととり方		人体のバランスの復習も兼ねて、様々なポーズを描く。支脚、遊脚の使い分けを理解する。			
4	7-8	顔、髪の描き方		顔、髪の細かい線の描き方を習得する。習ったことを基に、書き方を復習する。			
5	9-10	手、足、靴の描き方		手の指先の動きや角度の変化による見え方の違いを理解し、描き方を習得する。足の表情のつけ方、靴の描き方、バランスの取り方を習得する。習ったことを基に、書き方を復習する。			
6	11-12	人体を描く 陰影の入れ方		前回までのテクニックを用いて、人体を描く。鉛筆の強弱で描く事により陰影やラインの付け方を習得する。習ったことを基に、書き方を復習する。			
7	13-14	ディテールの描き方 (ギャザー・フレア・ドレープ・タック等)		各種ディテールの布の動きと構造を理解し、描き方を習得する。習ったことを基に、書き方を復習する。			
8	15-16	着装バランス		今まで描いてきたポーズに衣服を着装させる。習ったことを基に、書き方を復習する。			
9	17-18	着彩練習 (アクリル絵の具、水彩絵の具、水彩色鉛筆)		前回の着装バランスのデザイン画に様々な画材を用いて着彩方法を理解する。習ったことを基に、書き方を復習する。			
10	19-20	着彩練習 滲み、ぼかし、重ね塗りのテクニック		様々な画材を用いて滲み、ぼかし、重ね塗りのテクニックによる着彩方法を理解する。習ったことを基に、書き方を復習する。			
11	21-22	文化服装学院連鎖校ファッション画コンクール 下書き		文化服装学院連鎖校ファッション画コンクールに向けて下書きをい行う。B3サイズの大きさに配置バランスを考えて下書きを行う。予習、復習としてテーマの決定と深堀をする。			
12	23-24	文化服装学院連鎖校ファッション画コンクール 下書き～着彩		文化服装学院連鎖校ファッション画コンクールに向けて着彩方法や配色の計画を行う。予習、復習として、着彩方法のリサーチと試作をおこなう。			
13	25-26	文化服装学院連鎖校ファッション画コンクール 着彩1		文化服装学院連鎖校ファッション画コンクールに向けて着彩を行う。予習、復習として着彩を進める。			
14	27-28	文化服装学院連鎖校ファッション画コンクール 着彩2		文化服装学院連鎖校ファッション画コンクールに向けて着彩を行う。予習、復習として着彩を進める。			
15	29-30	文化服装学院連鎖校ファッション画コンクール 着彩3		文化服装学院連鎖校ファッション画コンクールに向けて着彩を行う。予習、復習として着彩を進める。			

後期 授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	コレクション雑誌から好きなスタイルを模写	不透明水彩の特徴を知り、絵の具の塗り方を習得する。予習としてコレクション雑誌から資料を収集し、下書き用にサイズ調整をおこなう。
2	3-4	平面画 スカート	デザイナーに必須である、平面画の描き方を習得する。スカートのディテールやシルエットを理解する。習ったことを基に、書き方を復習する。
3	5-6	平面画 ブラウス・シャツ	デザイナーに必須である、平面画の描き方を習得する。ブラウス・シャツのディテールやシルエットを理解する。習ったことを基に、書き方を復習する。
4	7-8	平面画 ワンピース	デザイナーに必須である、平面画の描き方を習得する。ワンピースのディテールやシルエットを理解する。習ったことを基に、書き方を復習する。
5	9-10	平面画 パンツ	デザイナーに必須である、平面画の描き方を習得する。パンツのディテールやシルエットを理解する。習ったことを基に、書き方を復習する。
6	11-12	平面画 スーツ・コート	デザイナーに必須である、平面画の描き方を習得する。スーツ・コートのディテールやシルエットを理解する。習ったことを基に、書き方を復習する。
7	13-14	素材・柄表現1 ストライプ・花柄	素材と柄をスーツのデザインに合わせて描く。素材にあった画材の使用方も習得する。習ったことを基に、書き方を復習する。
8	15-16	素材・柄表現2 千鳥格子	素材と柄をスーツのデザインに合わせて描く。素材にあった画材の使用方も習得する。千鳥格子の柄の配置も意識する。習ったことを基に、書き方を復習する。
9	17-18	素材・柄表現3 グレンチェック・ヒヨウ柄	素材と柄をスーツのデザインに合わせて描く。素材にあった画材の使用方も習得する。習ったことを基に、書き方を復習する。
10	19-20	素材・柄表現4 レース・ファー	素材と柄をスーツのデザインに合わせて描く。素材にあった画材の使用方も習得する。ファーの毛並みを意識する。習ったことを基に、書き方を復習する。
11	21-22	素材・柄表現5 キルティング	素材と柄をスーツのデザインに合わせて描く。素材にあった画材の使用方も習得する。キルティングの立体感を意識する。習ったことを基に、書き方を復習する。
12	23-24	素材・柄表現6 デニム	素材と柄をスーツのデザインに合わせて描く。素材にあった画材の使用方も習得する。材にあった画材の使用方も習得する。素材の織も意識し描く。
13	25-26	YKKファスニングアワード、各種コンテストに向けて 下絵	来年度コンテストに向けて、デザイン画の下絵を案だしする。予習、復習として過去コンテストのリサーチをおこない、傾向をさぐりテーマを導き出す。
14	27-28	YKKファスニングアワードに向けて	上記で描いた下絵の着色を行う。着装デザイン画のポーズング、バランス、着色方法を考える。
15	29-30	ファイル整理 ・まとめ	1年間の作品のまとめを行う。
準備学習 (予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。		
その他 (授業に際しての注意点)	各回授業開始時に、6分間の速描きを実施。バランス感覚とディテールを読み取るスキルを強化する。ドローイングは毎日描く事で精度が上がっていくため、常に線を描く習慣づけを意識することが望まれる。視覚的に入る情報をもとに表現するかを常に意識して表現方法を模索していくことが、上達に繋がる。		

授業科目等の概要														
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科										1年			
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。													
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	1	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期		
種別	服飾造形					授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>		
授業科目	パターンメイキングⅠ					単位	11単位							
担当教員	熊谷 朋美					職業実践専門課程：企業との連携						<input type="radio"/>		
※実務家教員														
資格検定	一般財団法人日本ファッション教育振興協会：パターンメイキング技術検定3級										必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	パターン制作の作図理論から始まり、各種アイテム、ディテールの基本作図、各種シルエットの展開方法やパターン操作を学ぶ。また、工業用パターンを作る上で必要な知識を身につけ、実務に繋がる技術を習得する。パターンメイキング技術検定試験3級の合格相当の力をつけることを目標とする。													
学習成果	①	線の引き方から、展開方法の基礎知識を習得する。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	80	%			
	②	各種アイテムの基本シルエットを把握し作図方法を身につける。						2	提出物/期限遵守	10	%			
	③	工業用作図方法を身につけ縫製仕様の知識を身につける。						3	独創性/習熟度		%			
	※	軽衣料を重点的にパターン作図の基礎知識を身につける。						4	意欲・授業態度	10	%			
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾関連専門講座①②③④、パターンメイキング技術検定試験3級ガイドブック ●KFDオリジナルプリント配布 ●縮尺定規 自在定規、トレーシングペーパー、メンディングテープ、方眼ノート 1/2ボディ 													

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-11	線の引き方、縫い代付け	衣服制作に必要な定規の使い方とその他道具の役割と機能、及び技巧を習得する。作図を通じて形状に応じた線の引き方を理解する。縫い代について理解する。
2	12-22	作図の基礎 原型について 造形ワーク	原型の理解、及び服の形成まで1/2ボディを用いて発展させる。人体の立体構造を認識し、ダーツの位置、分量、ゆとりなど衣服に対する機能を理解する。身幅の考え方を理解する。
3	23-33	セミタイトスカート 1/2作図・実物作図・工業用パターン	基本的なスカートの構成の理解。スカートの機能性と作図・工業用パターンへの展開方法を習得する。1/2ボディでスカートの構造を考える。教科書に目を通しひき方を予習、復習する。
4	34-44	スカートのデザイン展開 (ギャザー・ティアード・フレア・サーキュラー・ゴアード・ブリーツ) スカート	基本シルエットからの展作方法理解し、その操作方法を習得する。条件に合わせた縫い代のつけ方を理解する。教科書に目を通しひき方を予習、復習する。コレクション誌からデザインを拾う。
5	45-55	ドロップスリーブのシャツ (台襟付きシャツカラー・半袖) 1/2作図・実物作図 工業用パターン	シャツブラウスの基本シルエットの作図法を習得する。1/2ボディでシャツの構造を考える。仕立て方に合わせた工業用パターンの作成法を習得する。ポタンの考え方について理解する。コレクション誌からデザインを拾う。
6	56-66	セットインスリーブのシャツカラーブラウス	シャツの基本シルエットの構成と作図法を習得する。ヨーク切り替え・長袖カフス (タックの考え方) の作図法を習得する。セットインスリーブの引き方 (いせの計算) を習得する。教科書に目を通しひき方を予習、復習する。
7	67-77	衿各種 (スタンド・オブロング・オープン・セーラー) カラー袖各種 (フレア・ギャザー・フレンチ) スリーブ	衿各種・袖各種の作図法を理解する。衿ぐりの取り方・決め方を理解する。袖ぐりと身頃・袖の関係性を理解する。教科書に目を通しひき方を予習、復習する。コレクション誌からデザインを拾う。
8	78-88	Aラインシャツブラウス 1/2作図 袖口明き各種 (短冊・スラッシュ) 明き	シャツ袖口明きの作図法を理解する。Aラインのシルエットへの展開、裾紐バルーンへの応用デザイン及び前あき、袖口等あきの考え方について理解する。教科書に目を通しひき方を予習、復習する。
9	89-99	ワンピースの基本作図 (ノーカラー・ノースリーブ) 1/2作図・実物作図	ワンピースの基本シルエットの作図法を習得する。1/2ボディでワンピースの構造を考える。教科書に目を通しひき方を予習、復習する。
10	100-110	ワンピース 工業用パターン (縫代付け)ワンピースのデザイン展開1 (シルエット展開)	ワンピースの構造と原型からの引き伸ばし式の考え方と作図法及び、工業用パターン作成時の操作方法を習得する。基本シルエットからの展開方法を習得する。シルエットの求め方について理解する。
11	111-121	ワンピースのデザイン展開2 衿ぐり各種 (U/V/スクエア・ポート) ネックライン	ワンピースにおける基本シルエットからの展開方法を習得する。また、衿ぐりの様々なラインの作図法を習得する。パターン展開時の操作方法を理解する。各種ファスナーの縫い代のつけ方を理解する。
12	122-132	文化祭作品1 1/2作図	基本シルエットから展開し、文化祭作品の作図を行い、1/2で組み立て、パターン修正を行う。
13	133-143	文化祭作品2 実物作図	文化祭作品の実物作図を行う。
14	144-154	文化祭作品3 実物作図 型出し	型出しのシルエット、丈、ディテール等のバランスを確認し、修正を行う。
15	155-162	検定対策 アパレルパターンメイキング	パターンメイキング検定3級受験に向けたアパレルパターンメイキングの強化。

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-11	文化祭作品5 完成パターン・工業用パターン作成	型出しの修正を行い、工業用パターンを完成させる。
2	12-22	検定対策 デザインパターンメイキング 1	パターンメイキング検定2級受験に向けたパターンメイキングの強化。
3	23-33	検定対策 デザインパターンメイキング 2	パターンメイキング検定3級受験に向けたパターンメイキングの強化。
4	34-44	検定対策 デザインパターンメイキング 3	パターンメイキング検定4級受験に向けたパターンメイキングの強化。トワ ル組み立て技術の習得。
5	45-55	検定対策 デザインパターンメイキング 4	パターンメイキング検定5級受験に向けたパターンメイキングの強化。トワ ル組み立て技術の習得。
6	56-66	あきとは、ポケット各種	あき、ポケットについて様々な仕立て方を理解する。
7	67-77	パンツ 1/2作図 ストレートパンツとデザイン展開方法	1/2ボディでパンツの構造を考える。パンツのひき方を習得する。教科書に 目を通しひき方を予習、復習する。コレクション誌からデザインを拾う。
8	78-88	パンツ 実物作図～型出し	デザインパンツの実物作図～型出しを行う。
9	89-99	パンツ 工業用パターン作成 1/2作図～実物作図	デザインパンツの工業用パターンを完成させる。
10	100-110	単衣ジャケット 2面構成 1枚半袖 1/2作図	ジャケットの基本シルエットの作図法を習得する。1/2ボディでジャケット の構造を考える。ボタンの考え方についての再確認。いせの計算方法再確 認。教科書に目を通しひき方を予習、復習する。コレクション誌からデザ インを拾う。
11	111-121	ジャケットの身頃 3面構成・4面構成	3面構成におけるジャケットの作図法を理解する。マニプレーション方法 を習得する。テラードカラー(ピークトラベル)の作図法を習得する。 4面構成の身頃の考え方を理解する。
12	122-132	単衣ジャケット 実物ファースト作図	デザインジャケットの実物作図を行う。教科書に目を通しひき方を予習、 復習する。コレクション誌からデザインを拾う。
13	133-143	単衣ジャケット 実物作図～型出し、修正	デザインジャケットの型出しを行い、デザインに沿ってシルエットや バランスがとれているかを確認し、修正方法を習得する。
14	144-154	単衣ジャケット 実物作図 衿と見返しの展開 工業用パターン	デザインジャケットの工業用パターンを完成させる。表地、芯地パター ンの理解。
15	155-157	まとめ	習ったことを整理する。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20 時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際し ての注意点)		平面作図(フラットパターンメイキング)では、基本型のアイテムを中心とし、条件内でのデザインバリエーショ ンによる応用方法を理解し、素材に適したパターンメイキング方法を習得する。また、工業用パターンに展開する 方法を習得するため、反復練習を通して、パターンの実務を徐々に習得出来るようにする。	

授業科目等の概要																												
学 科	服飾専門課程			ファッションクリエイティブデザイン科					1年																			
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。																											
分 類	必修	○	選択	配当年次	1 年		学期	通年		前期	○	後期																
種 別	服飾造形						授業形態	講義		演習	○	実習																
授業科目	ハンドワーク						単 位	1単位																				
担当教員	高木 亜由美						職業実践専門課程：企業との連携																					
※実務家教員	○	劇団四季にて舞台衣装の製作に長年携わり、衣装製作に必要な手芸を伝授する。																										
資格検定																												
授業概要	手作業で装飾するための基礎的な技術を習得し、作品のデザイン性や商品価値を高める。また、市場でどのように使われているのかを知ることにより、応用できるテクニックを身に付け、制作物の一部にデザインし、図案を考え、作品に活かす。																											
学習成果	① 基礎的なハンドワーク技術の取得。 ② 自由作品課題に応用できるテクニックの習得。 ③ アパレル商品のデザイン性や商品価値を高める。 ※ 製造業における手作業の技術向上。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>定期試験結果</td> <td></td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>提出物/期限遵守</td> <td>70</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>独創性/習熟度</td> <td>20</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>意欲・授業態度</td> <td>10</td> <td>%</td> </tr> </table>				1	定期試験結果		%	2	提出物/期限遵守	70	%	3	独創性/習熟度	20	%	4	意欲・授業態度	10	%
1	定期試験結果		%																									
2	提出物/期限遵守	70	%																									
3	独創性/習熟度	20	%																									
4	意欲・授業態度	10	%																									
使 用 材	●文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧ ●KFDオリジナルプリント配布 ●裁縫道具 布、刺繍糸、ビーズ等手芸材料																											

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容	
1	1-2	エンブroidアリー 色系刺繍 基礎1/バックステッチ、サテンステッチ、レザーデジステッチ、ブランケットステッチ	エンブroidアリーの種類と基礎を学び、数ある技法の中で主な4種類の技法を実践・習得し作品に活用する。予習として、刺繍の構図を決定する。	
2	3-4	エンブroidアリー 色系刺繍 基礎2/アウトラインステッチ、チェーンステッチ、フレンチナッツステッチ、リーフステッチ、スモッキングとは、キャンバスワークとは	エンブroidアリーの種類と基礎を学び、数ある技法の中で主な4種類の技法を実践・習得し作品に活用する。	
3	5-6	エンブroidアリー 応用 (定規ケース)1	ソーイングIの制作物(定規ケース)と運動して、一部にオリジナルデザインの図案を配置し、技法・配色を計画し、刺繍を施す。予習としてデザイン決定をおこなう。	
4	7-8	エンブroidアリー 応用 (定規ケース)2	ソーイングIの制作物(定規ケース)と運動して、一部にオリジナルデザインの刺繍を施し、完成させる。	
5	9-10	エンブroidアリー 色系刺繍基礎3/ビーズエンブroidアリー・スパンゲルエンブroidアリー カットワーク刺繍 基礎	ビーズやスパンゲルの種類や基礎を学び、止付けの技法を実践・習得する。アイルワーク、カットワーク刺繍の技法を学び、実践・習得する。	
6	11-12	エンブroidアリー 応用 (シャツ)1	ソーイングIの制作物(シャツ)の一部にオリジナルデザインの図案を配置し、技法・配色を計画し、刺繍を施す。予習として、デザインを決定する。	
7	13-14	エンブroidアリー 応用 (シャツ)2	ソーイングIの制作物(シャツ)の一部に、刺繍を施し完成させる。	
8	15-16	マクラメレース 基礎 作品制作(キーホルダー)	マクラメレースの基本的な技法を習得し、携帯ケース紐部分の制作を行う。	
9	17-18	クロッシュレース 基礎 作品制作1	編み物の種類や道具を学び、クロッシュレースの基礎となる編み方を習得し、携帯ケース袋部分の制作を行う。	
10	19-20	クロッシュレース 基礎 作品制作2	編み物の種類や道具を学び、クロッシュレースの基礎となる編み方を習得し、携帯ケース袋部分の制作を行う。	
11	21-22	マクラメレース・クロッシュレースのまとめ	マクラメレース・クロッシュレースを携帯ケース作品に仕上げる。	
12	23-24	文化祭 売品制作1 クラフトバンド小物入れ	クラフトバンドを使って、小物入れを製作する。クラフトバンドの一部に紺素材を使用しデザインする。予習としてクラフトバンドの準備をおこなう。	
13	25-26	文化祭 売品制作2 クラフトバンド かご 紐カット~組み立て	クラフトバンドを使って、かごを製作する。クラフトバンドの一部に紺素材を使用しデザインする。予習としてクラフトバンドと紺紐の準備をおこなう。	
14	27-28	文化祭 売品制作3 クラフトバンド かご 組み立て	クラフトバンドを使って、かごを製作する。クラフトバンドの一部に紺素材を使用しデザインする。復習として巾着をセットして完成させる。	
15	29-30	まとめ	習った内容の振り返りを行う。	
準備学習(予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。			
その他(授業に際しての注意点)	制作物の一部にデザインし、図案を考え落とし込む。日頃から、市場でどのようにハンドワークが施されているのか商品を選び多く目にして感性を養ってほしい。			

授業科目等の概要														
学 科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科										1年			
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。													
分 類	必修	<input type="radio"/>	選択		配当年次	1	年	学 期	通年		前期	<input type="radio"/>	後期	
種 別	流通・販売							授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習		実習	
授業科目	ファッションビジネス知識 I							単 位	1単位					
担当教員	横内 裕子							職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員	<input type="radio"/>	小売業での接客経験と現場の知識技術をもとに、接客の基礎を検定合格を通して身につくよう指導。												
資格検定	一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：ファッション販売能力検定3級										必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="radio"/>
授業概要	12月に受験する検定で、ファッション販売能力検定3級の合格を目標とし、主に販売知識分野に特化して学ぶ。(商品知識分野は他の授業にて補填)「ファッション販売能力検定3級概論」として、ファッションビジネスの基本知識となる内容を通し、ファッション業界で、消費者との最前線で働く販売員の重要性を理解する。また、基礎的な計数知識を習得する。同時に、挨拶をはじめとした礼儀やマナーを身に付け、社会人として自信を持って行動できることを目指す。													
学 習 成 果	①	ファッションビジネスの川下の仕事の重要性を理解する。						成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	50	%		
	②	計数知識を理解する。							2	提出物/期限遵守	40	%		
	③	12月の検定試験合格を目指す。							3	独創性/習熟度		%		
	※	3級合格を通してファッションビジネスの基礎を習得する。							4	意欲・授業態度	10	%		
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：ファッション販売3 ●KFDオリジナルプリント配布 ●過去問題 													

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	自己紹介・1章ファッション販売知識	小売業の流れと販売の基礎知識を理解し、元気よい挨拶を習慣とする。 ファッション販売3・1章に目を通しておくこと。
2	3-4	5章マーケティング	マーケティングの概念と、その重要性を理解する。 ファッション販売3・5章に目を通しておくこと。
3	5-6	6章販売スタッフの業務	川下に位置する販売員の業務について理解する。 ファッション販売3・6章に目を通しておくこと。
4	7-8	A科目復習問題	授業で学んだことを実演、問題演習を復習することで定着させる。 ファッション販売3・1章、5章、6章を復習しておくこと。
5	9-10	2章ファッション販売技術	ファッション販売を通じて、購買心理や包装、贈答マナーを理解する。 ファッション販売3・2章に目を通しておくこと。
6	11-12	4章売り場づくり	売り場づくりの重要性を理解する。 ファッション販売3・4章に目を通しておくこと。
7	13-14	B科目復習問題	授業で学んだことを問題演習で復習することで定着させる。 ファッション販売3・2章、4章を復習しておくこと。
8	15-16	計数知識の理解	店舗で扱う基本的な計数知識を理解する。 ファッション販売3・6章-4に目を通しておくこと。
9	17-18	過去問題演習	授業で学んだことを問題演習で復習することで定着させる。
10	19-20	過去問題解説、復習、まとめ	問題解説、復習を通して全体のまとめを行う。
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)	講義に関しては、1時間の講義に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、15時間の授業をもって1単位とする。		
その他(授業 に際しての注 意点)	授業意欲として日頃から織研新聞や、雑誌、インターネットニュース等で「ファッションビジネス」の動きをとらえる、という視点で読む事を推奨する。講義内容に対しても積極的に質問をし、自己で理解することが望ましい。		

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 1年														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分 類	必修	○	選択	□	配当年度	1	年	学 期	通年	○	前期	□	後期	□	
種 別	デザイン							授業形態	講義	□	演習	○	実習	□	
授業科目	ファッション色彩							単 位	2単位						
担当教員	平井 優子							職業実践専門課程：企業との連携							
※実務家教員	○	財団法人日本色彩研究所色彩指導者であり、文部省認定色彩能力検定1級をはじめ各種色彩検定で1級を取得。中学校や専門学校での講師経験を活かし色彩の基礎知識、配色を指導。													
資格検定	一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：ファッション色彩能力検定3級										必修	○	選択	□	
授業概要	ファッション業界の各職種に必要な感性スキル「色＝カラーコーディネート」。1年次は業界で必要とされる基礎知識、色を使うための基本的スキル（三属性の理解）（物理的・心理的側面の理解）（色が齎すコンセプトの考え）（業界での色の役割）を習得することを狙いとする。実施方法は、講義及び、配色実習（カラーカード）を通して、ファッション色彩検定3級合格レベルの知識習得を目標とする。 ※前・後期イレギュラーな回数で行うが、通年で換算することとする。														
学習成果	①	色の効果、役割を理解する。						成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	20	%			
	②	色を見分け、色の三属性を理解し、表示できるスキルを取得。							2	提出物/期限遵守	60	%			
	③	色の特性を理解し、配色の効果を表現するスキルを取得。							3	独創性/習熟度	10	%			
	※	色の使い方を提案できるスキルの習得。							4	意欲・授業態度	10	%			
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●一般財団法人 日本ファッション教育振興協会：ファッション色彩〔I〕 ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●JIS BASIC COLOR140 														

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	生活における色彩の働き「生活の中の色彩」「色彩と価値観」「色彩の機能」	色が生活の中でどのような意味を持ちどのように効果を与えているのか。また、色が人間に働きかける力や色彩の機能を理解する。
2	3-4	ファッションにおける色彩の役割「服装と色彩」「ファッションと色彩」	ファッションにおける色彩の機能的な役割と心理的な役割や色彩の表現的な役割を理解する。
3	5-6	色の三属性「色を体系的にとらえるために」「有彩色と無彩色」	色を取り扱うために、演習を通して色を整理し体系的にとらえる。
4	7-8	色の三属性「色相(Hue)」①	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「色相＝色み」の基本を、色みを見分ける演習を通して理解を深める。
5	9-10	色の三属性「色相(Hue)」②	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「色相＝色み」の基本を、色みを見分ける演習を通して理解を深める。
6	11-12	色の三属性「明度(Value)」	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「明度＝明るさの違い」の基本を色の明るさを、演習を通して体感し理解を深める。
7	13-14	色の三属性「彩度(Chroma)」①	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「彩度＝鮮やかさの違い」の基本を色の強さを、演習を通して体感し理解を深める。
8	15-16	色の三属性「彩度(Chroma)」②	配色する上で必要な色の感覚「三属性」の属性「彩度＝鮮やかさの違い」の基本を色の強さを、演習を通して体感し理解を深める。
9	17-18	ヒュー&トーン	色を感覚的に利用する上で、「Hue&Tone」は必須である。形式的にトーンの配置とトーンのイメージを通して理解を深める。
10	19-20	色の成り立ちと光と色	色の成り立ちに必要な要素と物理的、心理的な色の理解。光の性質や物体と光源色を理解する。
11	21-22	三原色と混色	色料の三原色と色光の三原色の特徴と混色について演習を通して理解する。
12	23-24	眼球の仕組み	眼球の仕組みを知り、色を感じる仕組みを理解する。
13	25-26	色彩と心理「色の見え」①	隣接された色がどのように見えるのか色の相対的な現象を理解し、配色効果を知る。
14	27-28	色彩と心理「色の見え」②	隣接された色がどのように見えるのか色の相対的な現象を理解し、配色効果を知る。
15	29-30	覚え返し(半期のポイントをおさらい)	ノートのまとめをはじめ、受講した内容を再度おさらい。

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	色彩の感情効果①	三属性やトーンごとの色のイメージや感情効果を理解し、カラーコーディネートに活かせる知識を習得する。
2	3-4	色彩の感情効果②	三属性やトーンごとの色のイメージや感情効果を理解し、カラーコーディネートに活かせる知識を習得する。
3	5-6	配色の基礎	配色とは？類似の調和と対照の調和を理解する。
4	7-8	配色の基礎「色相を基準にした配色」	配色の基本でもある色相を基準にした配色効果を体感し理解する。
5	9-10	配色の基礎「トーンを基準にした配色」①	配色の基本でもあるトーンを基準にした配色効果を体感し理解する。
6	11-12	配色の基礎「トーンを基準にした配色」②	配色の基本でもあるトーンを基準にした配色効果を体感し理解する。
7	13-14	配色の基礎「色相とトーンを基準にした配色」①	実際に配色する上で、色相とトーンの二つの要素を組み合わせた配色パターンを理解する。
8	15-16	配色の基礎「色相とトーンを基準にした配色」②	実際に配色する上で、色相とトーンの二つの要素を組み合わせた配色パターンを理解する。
9	17-18	色彩構成の基礎「安定と変化」	配色の「構成」を知り、三属性を視点に置いた安定と変化の構成を理解する。
10	19-20	色彩構成の基礎「基調色と配合色」	色彩構成の基本的な考え方である「基調色と配合色」を理解する。コレクション雑誌等でどのような色彩構成が使われているのかを日頃から意識する。
11	21-22	色彩構成のテクニック①	色彩構成の様々なテクニックを理解する。コレクション雑誌等でどのような色彩構成が使われているのかを日頃から意識する。
12	23-24	色彩構成のテクニック②	色彩構成の様々なテクニックを理解する。コレクション雑誌等でどのような色彩構成が使われているのかを日頃から意識する。
13	25-26	ファッション産業における色彩の役割①	ファッション産業における色彩の役割を理解し、企画、デザイン、染色、販売する上で意識的に色彩を活用できるようにする。
14	27-28	ファッション産業における色彩の役割②	ファッション産業における色彩の役割を理解し、企画、デザイン、染色、販売する上で意識的に色彩を活用できるようにする。
15	29-30	覚え返し(半期のポイントをおさらい)	ノートのまとめをはじめ、受講した内容を再度おさらい。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		<p>○授業意欲として日頃からコレクション雑誌等を「色」という視点で見読する事を推奨する。講義内容に対しても、わからない事は積極的に質問をし、各自理解することが望ましい。</p> <p>○授業毎に配布される課題は、提出期限を厳守すること。また、採点后、再提出の際、何を見落としていたのかを理解し、積極的に質問し改善する事が望ましい。必要教材(配色カード)を忘れると受講困難になるので注意が必要である。</p>	

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程			ファッションクリエイティブデザイン科					1年			
D P/ 学科人材育成	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。											
分類	必修	○	選択	配当年次	1年		学期	通年	前期	後期	○	
種別	企画						授業形態	講義	演習	○	実習	
授業科目	ブランドプロデュース I						単位	1単位				
担当教員	城代 蘭						職業実践専門課程：企業との連携					
※実務家教員	○	国家資格技能検定、婦人子供服製造技能士1級の資格を活かした衣装製作ブランド、オリジナルスカーフブランドの運営実務を基に教授する。										
資格検定											必修	選択
授業概要	本授業では、ファッションブランドをプロデュースするために必要な基礎理論と実践的スキルを学びます。顧客に選ばれるブランドを構築するためには、マーケットの理解、ターゲット設定、ブランドアイデンティティの確立、差別化戦略、プロモーション手法などを総合的に考える力が求められます。1年次の授業では、グループでの事例研究やワークを通じて、顧客の心に響くブランド戦略を立案できるようになることを目指します。											
学習成果	① 顧客分析を基にターゲットに響くコンセプトを立案できる。 ② 競合との差異を築くための戦略的思考力を身につける。 ③ ブランド企画を発表しプレゼンテーションを通じて表現できる。 ※						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1 定期試験結果 2 提出物/期限遵守 50 % 3 独創性/習熟度 30 % 4 意欲・授業態度 20 %			
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布 ●織研新聞・雑誌・WWD											

後期 授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容	
1	1-2	「ブランド」とは何か?身近な例で考えてみる ファッションブランドの種類	「ブランド」の定義、ファッションブランドの種類と特徴を知り、身近なブランドを例に挙げて考える。	
2	3-4	ブランドを知る コレクションから様々なブランドを調べる	好きなブランドや気になるブランドを調査・分析し、特徴を他者に説明できる。ブランドの強みや独自性を分析、共有。	
3	5-6	ブランドコンセプト ブランドの世界観と理念・身近なブランドを例に学ぶ	自分のブランドの基本的な方向性を考え、言語化できる。	
4	7-8	ブランドを表現する要素 ロゴ、色、デザインなどの視覚的イメージをボードにする	ブランドの世界観を表現するデザイン要素を理解する。好きな有名ブランドのデザイン要素を比較・分析しまとめる。	
5	9-10	ファッションと消費者 顧客をイメージする・ペルソナの考え方	消費者視点を持ち、ブランドと顧客の関係を考えられる。幾つかの題に沿って、顧客像を考えるトレーニングをする。	
6	11-12	課題を見つけるワーク	ブランドの事例を知り、社会・業界に対し、ファッションで解決できることを考える。課題を見つける力、解決する力、提案力を養う。	
7	13-14	ブランドコンセプト キャッチコピー・簡単なブランドストーリーを作る	〈グループワーク〉ブランドの事例を知り、自分のブランドに共感してもらえる言葉や心に響くストーリーのアイデア出しをする。	
8	15-16	ブランドを表現する要素 ロゴ、色、デザインなどの視覚的イメージをボードにする	〈グループワーク〉ブランドの世界観を表現するデザイン要素を理解する。有名ブランドのデザイン要素を比較・分析しまとめる。	
9	17-18	ペルソナ作成演習 顧客像を作成	〈グループワーク〉自分達のブランドの服は誰に届けるのかペルソナを考える。	
10	19-20	ブランド調査と差をつける工夫 競合ブランドの情報収集と差別化	〈グループワーク〉自分達の設定する顧客がどこで服を購入するか、顧客が求めるベネフィットは何か?考える。	
11	21-22	商品企画に差をつける工夫	〈グループワーク〉自分達のブランドの独自性や差別化ポイントを見つけられる。自分のブランドの「強み」と「弱み」を整理。顧客が自分のブランドを選ぶ理由を考える。	
12	23-24	売り方を考える 買いたくなる仕組み・顧客とのコミュニケーション	〈グループワーク〉販売チャネルの違いを学ぶ。売り方の工夫を考え、具体的な販売イメージを描く。ブランドを効果的に伝える発信方法を理解し表現できる。	
13	25-26	ブランドの伝え方 作品をPRする資料づくり	〈グループワーク〉プレゼン資料作り。他者に伝わる資料構成の工夫。	
14	27-28	プレゼンテーション・合評	自分達のブランドをわかりやすく伝え、プレゼンを実践する。相互評価、合評を通じてフィードバックを行なう。	
15	29-30	プレゼンテーション・合評	自分達のブランドをわかりやすく伝え、プレゼンを実践する。相互評価、合評を通じてフィードバックを行なう。	
準備学習 (予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。			
その他 (授業に際しての注意点)	パソコンを使用する際の、正しい使い方を理解し活用していく事。著作物の違法仕様など、デザイン制作におけるコンプライアンスを遵守するよう注意する。			

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 1年														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	1	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期			
種別	流通・販売					授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>			
授業科目	市場調査 I					単位	1単位								
担当教員	熊谷 朋美					職業実践専門課程：企業との連携									
※実務家教員															
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	実際に現場に足を運び商品を手にする事で、デザインや衣服の構造、素材特性の知識を深め、市場に流通する商品や流行を探る。デザインする上で必要な、ディテールと全体バランスを構成するための情報収集を行い、作品制作につなげる。														
学習成果	①	制作するアイテムのデザインのヒントを市場から収集する。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果			%			
	②	市場の1年間の動向を把握する。						2	提出物/期限遵守	90		%			
	③	福岡市の市場を観察し、売れる商品を見極める力を付ける。						3	独創性/習熟度	5		%			
	※	市場を見る事でデザインと仕立てを考え、感性を養う。						4	意欲・授業態度	5		%			
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●ファッション雑誌 ●コレクション雑誌 ●WWD (新聞) ●KFDオリジナルプリント配布 														

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容			
1	1-2	市場調査とは		市場調査の定義と目的を理解し、手順・調査方法を学ぶ。情報誌を用いて説明し、理解を深める。			
2	3-4	好きなブランドを調査する1		好きなブランドは中価格帯以上のブランドとし、ブランドのコンセプト・ターゲット・販売方法を調査し、打ち出し商品を調査する。シャツとスカートのデザイン収集を行う。予習、復習としてデザイン収集を深める。			
3	5-6	好きなブランドを調査する2・まとめ		上記で見てきた商品をまとめる。			
4	7-8	アパレルの業態を知る1 百貨店 (デザイナーズブランド)		高価格帯のデザイナーズブランドを調査し、感度を高める。ワンピースのデザイン収集を行う。予習、復習としてデザイン収集を深める。			
5	9-10	アパレルの業態を知る2 百貨店 (デザイナーズブランド)		上記で見てきた商品をまとめる。			
6	11-12	文化祭作品に向けて、久留米絨をリサーチ1		伝統工芸久留米絨の商品を調査し、絨の柄や風合いをどんなアイテムに落とし込んでいるのか調査する。予習、復習としてデザイン収集を深める。			
7	13-14	文化祭作品に向けて、久留米絨をリサーチ2		上記の調査をまとめる。			
8	15	まとめ		前期調査の振り返りを行う。			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	アパレルの業態を知る3 ファッションビルの調査	ファッションビルのショップを調査し来客層を調査し、どんな商品が多く陳列しているか把握する。主にパンツのデザインを収集する。予習、復習としてデザイン収集を深める。
2	3-4	アパレルの業態を知る4 ファッションビルの調査	上記の調査をまとめる。
3	5-6	アパレルの業態を知る5 ファッションビルの調査	ファッションビルのショップを調査し来客層を調査し、どんな商品が多く陳列しているか把握する。主にジャケットのデザインを収集する。予習、復習としてデザイン収集を深める。
4	7-8	アパレルの業態を知る6 ファッションビルの調査	上記の調査をまとめる。
5	9-10	ディテール調査1	デザインを重点的に、複数のブランドでディテールと全体バランスの収集を行う。予習、復習としてデザイン収集を深める。
6	11-12	ディテール調査2	上記の調査をまとめる。
7	13-14	2年次の制作アイテムのデザイン収集	デザイン傾向、素材傾向と企画に伴う参考デザインの収集。予習、復習としてデザイン収集を深める。
8	15	まとめ	市場調査してきた内容を基に、一年の振り返りを行う。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		常に市場の動きと傾向を察知することは、デザイン・企画をする上で大変重要である。自らの目で見て、商品に触れる中で、素材、色使い、シルエット、ディテールを知り、デザイン活動に活かしていくことが望まれる。	

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 1年														
D P/ 学科人材育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	1	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期			
種別	デザイン						授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習			
授業科目	服飾デザイン I						単位	2単位							
担当教員	熊谷 朋美						職業実践専門課程：企業との連携					<input type="radio"/>			
※実務家教員															
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	服飾デザインの観点から、「着る」ことに着目しデザインする事を学ぶ。造形的技術の3要素である「形・色・素材」に機能的価値を加えて構成する力を身につける演習を行う。想像力を豊かにし、造形のシルエットやコンセプトワークを行いデザインの面白さや気付きを大切にする。														
学習成果	①	色・点・線・シルエット等の視覚的効果を理解する。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%			
	②	造形を作り、デザイン構成力を養う。							2	提出物/期限遵守	70	%			
	③	コンセプトを基に世界観を創造するノウハウを習得。							3	独創性/習熟度	20	%			
	※	ファッションデザインを考え、表現する力を養う。							4	意欲・授業態度	10	%			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑨服飾デザイン ●KFDオリジナル資料 ●雑誌(コレクション誌 等) 														

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容	
1	1-2	服飾デザインのプロセス 自分マップの作成	服飾デザインとは、自分の特性について考える。マップ制作でのビジュアル資料を収集し、紙面構成で視覚的にまとめる方法を考える。予習として自分の特徴について探る。	
2	3-4	スカート企画シート作成	ソーイングIで制作するスカートの形をベースに、企画シートを作成し、デザイン案を立案する。予習として、スカートのデザインリサーチを行う。	
3	5-6	自分マップ プレゼンテーション	自分の考えを相手に伝える方法を学ぶ。プレゼンテーションをどのようにまとめるか予習する。	
4	7-8	感性別コレクション分析	8大感性分類を理解し、コレクションをよく観察し感性別に収集する。予習、復習としてコレクション誌を熟読し、傾向を探る。	
5	9-10	シャツ企画シート作成	ソーイングIで制作するシャツの形をベースに、企画シートを作成し、デザイン案を立案する。予習として、シャツのデザインリサーチを行う。	
6	11-12	シルエット種類、効果	シルエットを理解し、シルエットが持つイメージを理解する。コレクションからシルエットを見つける。予習、復習としてコレクション誌で様々なシルエットに目を通す。	
7	13-14	シルエットを手掛かりにしたデザイン	バランスのとおり方を研究し、オリジナルのシルエットを考える。	
8	15-16	久留米絨の作品制作に向けて	久留米絨を使用した作品制作のための情報の収集。テーマコンセプト設定。予習、復習として久留米絨についての知識を得る。	
9	17-18	久留米絨の作品制作に向けて	久留米絨を使用した作品制作のためのデザインを考える。予習として、絨の使い方についてリサーチする。	
10	19-20	久留米絨の作品制作に向けてまとめ	久留米絨を使用した作品制作のデザイン決定。	
11	21-22	久留米絨の作品制作に向けてまとめ	久留米絨を使用した作品制作のデザイン決定。	
12	23-24	点・線がもたらす効果	点と線がもたらすデザインの視覚的効果を理解する。予習として服飾デザインのテキストに目を通す。	
13	25-26	点・線の作品	視覚的効果を活かした作品の1/2サイズの実物制作を行う。	
14	27-28	アイデア開発	テーマから発想してアイデアを出すトレーニング。	
15	29-30	トレンド分析・好きなデザイン収集	コレクション誌から好きを分析する。ブランドを知り、自分のデザイン発想の表現方法を探る。	

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	コンポジション1	ドミナント/セントラリティの演習を行い理解する。予習として服飾デザインのテキストに目を通す。
2	3-4	コンポジション2	シミュラリティ/コントラストの演習を行い理解する。予習として服飾デザインのテキストに目を通す。
3	5-6	コンポジションの効果まとめ	造形的な要素に機能性を持たせたデザインを考える演習を行う。
4	7-8	好きな世界観を掘り下げる/リサーチのまとめ	ビジュアル資料を収集しイメージをマップ化する。予習として資料収集をおこなう。
5	9-10	コンセプトの設定	リサーチから見えてきた世界観をコンセプトシートにまとめる。予習としてコンセプトを考える。
6	11-12	パンツ・ジャケット企画シート作成1(企画)	ソーイングIで制作するパンツ・ジャケットの企画シートを作成する。予習としてパンツ、ジャケットのデザインリサーチを行う。
7	13-14	パンツ・ジャケット企画シート作成1(デザインワーク)	ソーイングIで制作するパンツ・ジャケットのデザインを考える。予習としてパンツ、ジャケットのデザインリサーチを行う。
8	15-16	パンツ・ジャケット企画シート作成2(デザイン決定)	ソーイングIで制作するパンツ・ジャケットのデザイン案を立案する。予習としてパンツ、ジャケットのデザインリサーチを行う。
9	17-18	テキスタイル作り1	作品制作のための手法を研究。イメージ決定。
10	19-20	テキスタイル作り1	各自テーマをデザインソースとし、テキスタイル制作を行う。
11	21-22	デザインまとめ テキスタイル付き1	各自テーマを設定し、テキスタイルの選定と使い方を立案する。予習として技法のリサーチをおこなう。
12	23-24	デザインまとめ テキスタイル付き2	前回考えたテーマとテキスタイルの整合性はあるかを考え、テキスタイル制作を行う。予習、復習としてテキスタイルのブラッシュアップをおこなう。
13	25-26	デザインまとめ テキスタイル付き3	テキスタイル制作を行い、そこからのデザイン発想を行う。デザインを一型選定し、デザイン画を完成させる。
14	27-28	デザインまとめ テキスタイル付き4	構造線を使った作品を制作し完成させる。
15	29-30	ファイル整理・まとめ	各課題でのエスキースのまとめを行い、知識の覚え返しとともに、今後のクリエーションへ活用可能な資料の制作を行う。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		授業外でも沢山の物に触れ柔軟な発想を豊かにしてほしい。美術館、展示会には積極的に足を運び、評価されているものを知りバランスを見る。沢山の物を見て発見を増やし自身のモノづくりに向けて蓄えを増やす。	

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 1年														
D P/ 学科人材育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	1	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期			
種別	総論					授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>			
授業科目	服飾造形論 I					単位	2単位								
担当教員	熊谷 朋美・溝口 希弥子					職業実践専門課程：企業との連携									
※実務家教員															
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	衣服の起源から現代までファッションの歴史を学び、社会の変化とファッションの関係性の理解を深める。また、衣服制作において必要な用具の使用方や縫製用具の基礎知識を身につける。また、人体の構造を把握し衣服制作するに当たり必要な計測の仕方を学ぶ。さらには衣服制作において必要な素材の扱い方や付属材料、裁断縫製に関する知識を身につける。														
学習成果	①	衣服制作で重要な用具の種類と使用方法の知識を習得。					成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果	70	%				
	②	仕様・工程を把握し服作りの知識を高める。						2	提出物/期限遵守	20	%				
	③	布と糸の関係や縫製用具を理解する事で基礎知識を理解する。						3	独創性/習熟度		%				
	※	合理的な縫製技術を学ぶ。						4	意欲・授業態度	10	%				
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④ ●KFDオリジナルプリント配布 ●文化ボディ・ボディラインテープ、裁縫道具 														

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容	
1	1-2	導入、古代、中世、近世 (18世紀ロココスタイル~)	服装史の発展、服の役割、変遷の概要を理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。	
2	3-4	近世 (18-19世紀市民革命と産業革命) 第1~第2帝政時代 エンパイア、ロマンティック、クリノリン、バッスル等	政治、経済、文化が密接につながっていることを実感させる。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。	
3	5-6	現代 (1910~1940年代)	1910-1940年今のファッションにつながる20世紀の流れを理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。	
4	7-8	現代 (1950~1970年代)	1950-1970年今のファッションにつながる20世紀の流れを理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。	
5	9-10	現代 (1980~21世紀) と、まとめテスト実施	1980-21世紀 ファッションの全体の流れを俯瞰して理解する。該当箇所の教科書を読み、流れを理解しておくこと。	
6	11-12	衣服制作のための人体計測・用具と名称、及び使用方法の理解	衣服を制作するのに必要な最小限の人体寸法を計測する力をつけ、人体の各ポイントを把握し、理解を深める。また、衣服制作する用具の基礎知識の習得。人体各部の名称、用具の名称について見直しをおこなうこと。	
7	13-14	ミシン・アイロン・特殊ミシンの基礎知識・針と糸の種類と用途及び布地の関係	ミシン・アイロン・特殊ミシンの手入れ方法や糸のかけ方、ミシンの糸調子の合わせ方等の基礎知識を学ぶ。美しく仕上げる為に、布地にあった適切な針と糸の選定方法を学ぶ。工業用ミシンの糸かけ順序を再確認し覚えること。	
8	15-16	セミタイトスカートについて 裁断加工・縫製仕様・工程表	ソーイングで制作するセミタイトスカートの仕様を知る。また、下半身を覆う衣服の構造と人体の構造線に合わせたシルエットの理解、及び仕立てを学ぶ。詳細な仕様図の描き方を習得する。作図法の復習を行う。	
9	17-18	シャツブラウスについて・台衿付きシャツカラー (半袖シャツ) 裁断加工・縫製仕様・工程表	ソーイングで制作するシャツブラウスの仕様を知る。また、部分縫いで制作する台衿付きシャツカラーの縫製や構造を理解する。詳細な仕様図の描き方を習得する。	
10	19-20	まとめ	前期内容の復習とまとめ。	
11				
12				
13				
14				
15				

後期授業計画 (10月-3月)		授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-2	副資材について・マーキング・柄合わせ・ワンピースの仕様 副資材の役割と目的に応じた選定についての理解を深める。効率的な用尺見積もり、マーキング方法を理解する。ソーイングで制作するワンピースの仕様を知る。詳細な仕様図の描き方を習得する。
2	3-4	ボディラインを入れる ボディにガイドラインを入れる。人体を観察し立体的な構造を理解する。平面裁断や立体裁断で使用する布の特徴を理解し、布目を見分けられる力を養う。
3	5-6	一重パンツについて 裁断加工指図書 ソーイングで制作するパンツの仕様を知る。また、下半身を覆う衣服の構造と人体の構造線に合わせたシルエットの理解、及び仕立てを学ぶ。指図書の書き方を予習、復習する。
4	7-8	一重パンツについて 縫製仕様書 ソーイングで制作するパンツの仕様を知る。また、下半身を覆う衣服の構造と人体の構造線に合わせたシルエットの理解、及び仕立てを学ぶ。詳細な仕様図の描き方を習得する。仕様図を仕上げる。
5	9-10	一重パンツについて 工程表 ソーイングで制作するパンツの縫製工程について計画する。パンツの縫製工程順序を予習、復習する。
6	11-12	一重ジャケットについて 裁断加工指図書 ソーイングで制作するジャケットの仕様を知る。また、上半身を覆う衣服の構造と人体の構造線に合わせたシルエットの理解、及び仕立てを学ぶ。指図書の書き方を予習、復習する。
7	13-14	一重ジャケットについて 縫製仕様書 ソーイングで制作するジャケットの仕様を知る。また、上半身を覆う衣服の構造と人体の構造線に合わせたシルエットの理解、及び仕立てを学ぶ。詳細な仕様図の描き方を習得する。仕様図を仕上げる。
8	15-16	一重ジャケットについて 工程表 ソーイングで制作するジャケットの縫製工程について計画する。ジャケットの縫製工程順序を予習、復習する。
9	17-18	ジャケット・パンツ企画書 (マーキングのまとめ・パターンリスト作成) 制作したジャケット、パンツの企画書をまとめる。
10	19-20	まとめ 後期内容の復習とまとめ。
11		
12		
13		
14		
15		
準備学習 (予習・復習)	講義に関しては、1時間の講義に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、15時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)	作品制作に必要な、材料、副資材、制作工程の手順、構造を理解することは、最適な材料や方法を自ら選択できる力を養う能力を高めることに繋がる。条件に応じた手法の違いを理解することが望ましい。	

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。											
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期
種別	パソコン						授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習
授業科目	アパレルCAD I						単位	2単位				
担当教員	白濱 由佳理						職業実践専門課程：企業との連携					
※実務家教員	<input type="radio"/>	アパレル企業で培ったCADパタンナーの実務を活かし、実務性の高いアパレルCAD操作方法を教授する。										
資格検定												
授業概要	東レクレアコンポのソフトを使用しアパレルCADの基本操作の講義。主に原型操作・スカートのデザイン展開をしながらパターンマジックのメニューの基本操作を習得する。後期からは前期で習得したメニューを使用して、自ら企画したSKの作図をする。又それに準じた、マーキング・工程分析書・縫製仕様書を作成し工場に送り出す前の作業の流れを把握し、商品開発における実務の実践力を習熟する。											
学習成果	①	東レクレアコンポのアパレルCADの基本操作を身につける。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%	
	②	パターンを理解した操作方法を覚えていく。						2	提出物/期限遵守	40	%	
	③	アパレルCADに慣れ、工業用パターンを作図できるようになる。						3	独創性/習熟度	40	%	
	※	手引きより早く操作できるアパレルCADに慣れ基本操作を習得する。						4	意欲・授業態度	20	%	
使 用 材	●KFDオリジナル実習プリント配布											

前期 授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-2	アパレルCADについて・基本操作	東レCAD (パターンマジック II) の基本操作を学ぶ。
2	3-4	ダーツの移動1	身頃原型のダーツ展開をしながらCADの操作方法、主に線作成を理解する。並びにパターン操作を理解する。
3	5-6	ダーツの移動2	身頃原型のダーツ展開をしながらCADの操作方法、線作成の理解を深め展開方法など新しいメニューの操作を学ぶ。
4	7-8	ダーツの移動3	身頃原型のダーツ展開をしながらCADの操作方法、線の引き直し等新しいメニューの操作を学ぶ。
5	9-10	ダーツの移動4	身頃原型のダーツ展開をしながらCADの操作方法、ダーツ展開1~3を理解した上で基本操作に慣れる。
6	11-12	ダーツの移動5	ダーツ展開4までで習得した操作方法を復習しながら各自でダーツ展開の問題を解かせ、CADの操作方法、並びにパターン操作をより理解する。
7	13-14	タイトSKからセミタイトSKへ展開	タイトSKの展開で操作方法をより深く学ぶ。パターンチェックの方法もここで初めて操作し覚える。
8	15-16	セミタイトSKからプリーツSKへ展開1	切替があるデザインスカートを作成する。ヨークの展開方法や切り離し等新しいメニューも習得する。
9	17-18	セミタイトSKからプリーツSKへ展開2	プリーツ作成の操作方法を学ぶ。
10	19-20	タイトSKからゴアードSKへ展開	切り開く寸法を把握し、ゴアードスカートへ展開する。
11	21-22	タイトSKからマーメイドSKへ展開1	マーメイドSKへ展開しながらこれまで学んだ操作方法の応用を使い、丈の変更やパターンに合わせた線の引き方を学ぶ。
12	23-24	タイトSKからマーメイドSKへ展開2	マーメイドSKへ展開しながらこれまで学んだ操作方法の応用を使い、ミラーやコピー方法を学び効率の良い作図方法を習得する。
13	25-26	確認テスト対策1	これまで学んだ操作方法を反復学習し、よりCAD操作を身につける。
14	27-28	確認テスト対策2	反復学習を行い、パターンに合わせた操作方法を理解する。
15	29-30	確認テスト	テキストを見ずに確認テストを行うことで個人の理解度・苦手な部分を把握する。

後期授業計画 (10月-3月)		授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容	
1	1-2	確認テスト復習・裏地パターンの作成	確認テストでの間違った部分を復習させる。また裏地パターンの作成手順を学ぶ。
2	3-4	工業用パターンの作成	縫い代がついた工業用パターンへの作成手順を学ぶ。
3	5-6	縫い代付け練習・芯パターン作成方法	芯パターン作成の手順を学ぶ。縫い順序や縫製仕様に適した縫い代の付け方を理解し学ぶ。
4	7-8	トレース・パターン確認と修正	CADスキャナで取り込んだ手書きのパターンをCADパターンにするためのトレースを学ぶ。またトレースしたパターンの修正・確認方法を学ぶ。
5	9-10	スキャンデータを工業用パターンへ	手書きでパターンのスキャンデータからトレースを行ない、工業用パターンまで作成することで、前回までに学習したトレース・工業用パターン作成までの流れの理解を深める。
6	11-12	マーキング	東レの(マーカーマジック)を使用したマーキングを行ない、操作方法、並びにマーキングを理解する。
7	13-14	有型からのデザイン展開1	企業でよく行われる有型からの修正を行い、実践力を身につける。
8	15-16	有型からのデザイン展開2	マーキングや仕様書の記入方法についての理解も深める。
9	17-18	平面画作成方法	平面画の作成方法を学ぶ。
10	19-20	オリジナルスカート 平面画作成	スカートのデザインを各自考え、その平面画を作成する。
11	21-22	オリジナルスカート パターンメイキング1	基礎操作を理解し、今まで作図してきたスカートの操作方法を利用し作図を行う。
12	23-24	オリジナルスカート パターンメイキング2	パターンに適した操作方法を考慮しながら作業を進める。
13	25-26	オリジナルスカート パターンメイキング3	縫合する寸法を確認し作業を行なう。
14	27-28	オリジナルスカート 工業用パターン	工業用パターンにする操作方法を学ぶ。パーツ化からの流れを習得する。
15	29-30	オリジナルスカート 工業用パターン完成	縫製仕様を理解し縫い代寸法を入れ、角処理を行い完成させる。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		パソコンに操作に慣れた学生は、やや習得が早く見受けられるが、パターンの基礎能力が基となるためパターンメイキングを理解した上でCADを操作することが好ましい。確認テストの練習を沢山することにより、より習熟度が高くなる。	

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。											
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期
種別	流通・販売					授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>
授業科目	キャリアトレーニング					単位	2単位					
担当教員	月橋 一浩・三好 真代					職業実践専門課程：企業との連携						
※実務教員	<input type="radio"/>	月橋：人事業務経験者。人事評価や就職情報提供を行う会社を経営。実践的ビジネスマナーの知識・技術を教授する。 三好：人材紹介、再就職支援経験者。個と組織のウェルビーイングを支援する事業を展開。キャリア開発を教授する。										
資格検定												
授業概要	学生自身が、自分の将来をより良いものにするためには「何が必要か」「どんな職業に就きたいか」などを考え、就職をゴールではなく、スタートであり通過点である事を認識する。 授業内容は講師の話を一方向的に聞くのではなく、グループ内で考えたり、発表したり、ゲーム形式でのワークを行い、頭や体・口を動かしながら授業を進める。											
学習成果	①	今後のキャリアプラン（ゴール）を明確にし行動につなげる。	成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%					
	②	人生設計において有効なコミュニケーションスキルを身につける。		2	提出物/期限遵守	60	%					
	③	難易度の高い就活をクリアするためのノウハウを学ぶ。		3	独創性/習熟度		%					
	※	就職活動に有効なビジネスマナーの習得。		4	意欲・授業態度	40	%					
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ●オリジナルプリント（テキスト）配布 ●ゲームやロープレ、グループワークを多用した授業内容 											

前期授業計画（4月-9月）			授業目的・準備学習（予習・復習）内容
1	1-2	オリエンテーション（アイスブレイク・自己紹介・ビジネスマナーとは・ゴール提示）	ゴールを提示し、これから何を考え、勉強していくのかを明確にする。自分自身のゴールを見据えることで、今後の行動につながる。（マナーと発声練習の復習）
2	3-4	人生100年時代のキャリア形成	将来のキャリアについて考える。（キャリアプラン）（復習：キャリアシミュレーションゲーム終了後の自分の課題を整理しておくこと）
3	5-6	ライフプランニング、マネープランニング	人生の各ステージにおけるプランニングとマネープランニングについて考える。（予習：自分なりの10年後、20年後、30年後どうなりたいか、未来を考えておく。）
4	7-8	社会人とは（社会人と学生の違い）、仕事をするこの意味とは	社会人と学生の違いを自ら考えることで認識し、社会人になる心構えができるようになる。仕事の意味を問うことで、自分で答えを見つけていく。（復習：仕事をするこの意味を各自深める）
5	9-10	質問力・価値観分析シート作成	ワークショップを通じてコミュニケーションスキル向上を目指す。自分の価値観について考える。（復習：自分の価値観を就職にどう結びつけるかを整理しておくこと）
6	11-12	ほめるワーク・座学（報連相のポイント）・カードゲーム	ワークショップを通じてコミュニケーションスキル向上を目指す。報連相のポイントを学ぶ。（復習：報連相&ほめる）
7	13-14	自己理解・カードゲーム・座学（アサーティブ）	ワークショップを通じてコミュニケーションスキル向上を目指す。コミュニケーション手法について学ぶ。
8	15-16	自己分析を深掘りする、1~8小テスト	これまでの自己分析を整理して深掘りする。
9	17-18	言葉遣いの基本（敬語、クッション言葉、間違った日本語）	敬語の基本的な形から場面に応じた敬語、ビジネス敬語も取り入れる。ビジネスで必要なクッション言葉の習得や間違った日本語の違いを理解する。（復習：日々の生活で実践する）
10	19-20	プレゼンテーション手法	自分の考えや言いたい事を、他の人に分かりやすく伝えるスキルを習得する。①目的意識、②まとめ方、③事例で語る、④質問する、⑤動く（復習：発表での自身の課題を明確にすること）
11	21-22	ワークショップ・文章作成の基本	ワークショップを通じてコミュニケーションスキル向上を目指す。伝わりやすい文章作成方法を学ぶ。
12	23-24	プレゼンテーション・スピーチの基本（表現力、伝える力、人前で話す力、発表練習）	プレゼンテーションの基本を学び、グループで自分の意見を人前で発表できるように練習を実施する。（予習：PPTや制作物を準備・復習：発表での自身の課題を明確にすること）
13	25-26	プレゼンテーション・スピーチの基本（表現力、伝える力、人前で話す力、発表練習）	プレゼンテーションの基本を学び、グループで自分の意見を人前で発表できるように練習を実施する。（予習：PPTや制作物を準備・復習：発表での自身の課題を明確にすること）
14	27-28	9~13小テスト、グループディスカッション（1）	集団の中で自分の資質に合った言動や振る舞いができる能力を身に付け、チームワークの重要性を理解する。（復習：グループディスカッションでの自身の課題を明確にすること）
15	29-30	模擬グループディスカッション（2）（課題認識、役割認識、グループ発言、フィードバック）	グループディスカッションでの課題認識、役割認識、表情、発言、声の大きさなど、面接官と学生側両方を体験し、相互に評価し合い学んでいく。（復習：模擬ディスカッションでの自身の課題を明確にすること）

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	就職活動の基本(企業研究・職種理解)	就職活動の基本を学ぶ。企業研究のポイントを学び、職種理解を深める。 (予習:事前に企業研究シートの記入を課題とする)
2	3-4	自己分析から自己PRへ(PREP法)	自己分析の結果から、自己PRへ展開する手法を学習する。文章の作成後、PREP法に分解し、実際に履歴書内に書き込んでいく。 (復習:履歴書の見直し)
3	5-6	自己PR・志望動機のための自己分析(マインドマップ・ロジックツリー作成)	自己PR・志望動機で、正しく自分を知ってもらうには、いかに自分を知り得るかが重要となる。マインドマップやロジックツリーを作成することで、自己の信念や資質、要求を深掘りし、把握・理解する。(復習:作成物の見直し)
4	7-8	自己PR・志望動機のための自己分析(自分史作成)	正しく自分を知ってもらうには、いかに自分を知り得るかが重要となる。自分史を作成することで、自己の信念や資質、要求を深掘りし、把握・理解する。(予習:小中高時代を振り返っておく)
5	9-10	自己分析まとめ1およびフィードバック	2~4のまとめと講師からのフィードバック (復習:フィードバック理解をさらに深めること)
6	11-12	自己分析まとめ2およびフィードバック	2~4のまとめと講師からのフィードバック (復習:フィードバック理解をさらに深めること)
7	13-14	履歴書・エントリーシート、ビジネス文書の書き方1、写真撮影のコツ(ルール、項目の意味、表現方法)	履歴書とエントリーシートを書くために必要なルール、項目を知り、理解できるようになる。項目ごとに書き込む内容を自分で文作でき、就職するに望ましい表現力を身に付ける。
8	15-16	履歴書・エントリーシート、ビジネス文書の書き方2(ルール、項目の意味、表現方法)	履歴書とエントリーシートを書くために必要なルール、項目を知り、理解できるようになる。項目ごとに書き込む内容を自分で文作でき、就職するに望ましい表現力を身に付ける。
9	17-18	模擬集団面接1 (自己分析、面談態度、発言、フィードバック)	集団面接での適切な言葉遣い、表情、発言、立ち居振る舞い、声の大きさなど、面接官と学生側両方を経験し、相互に評価し合い学んでいく。(予習:自身の長所短所を具体的な事例で語る)
10	19-20	はがきの書き方・手紙やメールの書き方・御礼状	マナーを習得し、実践で学んだ事を就職活動で活用出来る。 (復習:資料を見直し、理解を深めること)
11	21-22	模擬集団面接2 (自己分析、面談態度、発言、フィードバック)	集団面接での適切な言葉遣い、表情、発言、立ち居振る舞い、声の大きさなど、面接官と学生側両方を経験し、相互に評価し合い学んでいく。(予習:一生懸命取り組んだ事を具体的な事例で語る)
12	23-24	模擬WEB面接 (通信環境、視線、自己分析、発言、フィードバック)	WEB面接での通信環境整備、言葉遣い、表情、自己分析、声の大きさなど、面接官と学生側両方を経験し、相互に評価し合い学んでいく。(予習:ZOOMやTEAMSを使っておく)
13	25-26	模擬個人面接 (面接態度、笑顔、自己分析、発言、フィードバック)	個人面接での適切な言葉遣い、表情、立ち居振る舞い、声の大きさなど、面接官と学生側両方を経験し、相互に評価し合い学んでいく。(復習:模擬面接の自身の課題を明確にすること)
14	27-28	就活向けグループディスカッション1	企業側の視点を理解し、必要となる心構え・役割・評価ポイントを習熟。また、集団の中で自分の考えを伝えるスキルを身につける。
15	29-30	就活向けグループディスカッション2	企業側の視点を理解し、必要となる心構え・役割・評価ポイントを習熟。また、集団の中で自分の考えを伝えるスキルを身につける。
準備学習 (予習・復習)		1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		全体を通して参加型授業のため、積極的に参加、発言出来るよう心がける。	

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期			
種別	パソコン				授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>				
授業科目	グラフィックⅡ				単位	2単位									
担当教員	中島 宏樹				職業実践専門課程：企業との連携										
※実務家教員	<input type="radio"/>	グラフィックデザイン企業で培ったグラフィックデザイナーの経験を活かした実践的なレイアウトデザイン・パッケージデザインに加え、より効率的なソフトウェア操作方法を教授する。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	Adobe Illustratorの基本操作を前期で習得する。また、画像をスキャンしAdobe Photoshopの復習も兼ねる。制作物を写真撮影しデータ化、ロゴ・台帳等の制作を通してグラフィックデザインを学ぶ。また、株式会社ハードの職業実践で取り組んだ姉妹ブランドのロゴを制作し、その後の広報物に活用する事でブランディング意識を高め、実務的提案力を習熟する。服飾デザインと連動し、データ化した際に魅力的になる資料作りを目指す。														
学習成果	①	Adobe Illustratoの基本操作を身につける。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%					
	②	見やすいレイアウト力を身につける。					2	提出物/期限遵守	50	%					
	③	資料制作する、グラフィック技術を高める。					3	独創性/習熟度	40	%					
	※	効果的なグラフィックデザインの可能性を広げる。					4	意欲・授業態度	10	%					
使 用 材	●KFDオリジナル実習プリント配布														

前期 授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	1年次の復習まとめ	始めに、昨年の学びを振り返り、反復学習を行うことで学びを定着させる。
2	3-4	画像配置・埋め込み・文字アウトライン	パスファインダを理解することにより、図形の可能性を広げる。
3	5-6	デザイン：バンフーデザインコンテスト・Tシャツデザイン	バンフーデザインコンテストTシャツ部門へのエントリーを念頭に置いた、フォーマットに合わせたグラフィックデザインを行う。
4	7-8	デザイン：バンフーデザインコンテスト・トートバッグ	バンフーデザインコンテストトートバッグ部門へのエントリーを念頭に置いた、フォーマットに合わせたグラフィックデザインを行う。
5	9-10	デザイン：バンフーデザインコンテスト・まとめ	デザイン提出に際するデータのやり取りにおける実務の実践力を習熟する。
6	11-12	パスファインダ(分割/合体など)・縫製仕様トレース	ペンツールの復習を兼ねて、縫製仕様をAdobe Illustratorで書く。
7	13-14	ヌードボディ制作(6ブロック)・パスファインダ	ヌードボディを制作し平面画の土台を作ると共に、線の引き方の反復練習をする。
8	15-16	平面画練習Tシャツ・ブラウス パスファインダ	ヌードボディを下敷きにして、アイテムの平面画を描く。線の引き方の反復練習をする。
9	17-18	画像加工の方法・オリジナルポスターデザイン1	コンセプトに基づいたビジュアル発想、文字・写真等を組み合わせた構成を行う。視覚的インパクトと情報伝達のバランスを理解する。
10	19-20	オリジナルポスターデザイン2	コンセプトに基づいたビジュアル発想、文字・写真等を組み合わせた構成を行う。視覚的インパクトと情報伝達のバランスを理解する。ポスターとしての訴求力・表現力を養う。
11	21-22	職業実践専門課程：ブランドロゴづくり1	職業実践専門課程で取り組む企業様とのブランドロゴを制作。ブランドのテイストに合ったロゴづくりを行う。
12	23-24	職業実践専門課程：ブランドロゴづくり2	職業実践専門課程で取り組む企業様とのブランドロゴを制作。ブランドのテイストに合ったロゴづくりを行う。最終的に使用されるロゴデザインの選出を行う。
13	25-26	オリジナルポスター版下制作	実際の印刷物として成立させるための版下製作の知識と技術を習得する。入稿データの作成方法や印刷工程を理解し、実務に対応できる制作力を養う。
14	27-28	企画書レイアウトトトレース1	既存の企画書レイアウトをトレースすることで、情報整理の方法やレイアウト構造を理解し、伝わりやすい企画書のデザイン力を身につける。
15	29-30	企画書レイアウトトトレース2	文字組み、段組み、余白設計などの基礎レイアウトを踏まえて、企画書に適したデザイン構成を習熟する。

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	前期の復習まとめ	前期の学びを振り返り、反復学習を行うことで学びを定着させる。
2	3-4	企画書制作 マイブランドロゴ	ブランドを識別し、その価値観やイメージを視覚的に表現する方法を学ぶ。ブランドイメージを整理し、コンセプトに基づいたロゴデザインを構築する力を習得する。
3	5-6	企画書制作 ジャケット・ボトムス平面画	制作アイテムを撮影した写真をAdobe Photoshopで修正加工し資料にまとめる。
4	7-8	企画書制作 ジャケット・ボトムス企画書レイアウト	撮影した写真をAdobe Photoshopで修正加工し資料にまとめる。仮想ブランドに合ったレイアウトデザインを行う。
5	9-10	企画書制作 コレクション分析1	最新のコレクション情報を1枚にまとめる。
6	11-12	企画書制作 コレクション分析2	最新のコレクション情報を1枚にまとめる。想定競合ブランドに合ったレイアウトデザインを行う。
7	13-14	企画書制作 文化祭制作物作品まとめ1	文化祭で制作した作品の資料を制作する。
8	15-16	企画書制作 文化祭制作物作品まとめ2	文化祭で制作した作品の資料を制作する。撮影した写真の選出・レタッチを行い、まとめる。
9	17-18	企画書制作 表紙・裏表紙デザイン1	2年次で制作した資料をまとめるファイルの顔となる表紙デザインを制作。
10	19-20	企画書制作 表紙・裏表紙デザイン2	2年次で制作した資料をまとめるファイルの顔となる裏表紙デザインを制作。
11	21-22	企画書制作 合同展示会作品のテーマコンセプトのまとめ1	進級作品展で発表するコンセプトやテーマをまとめ、紙面上で伝わるレイアウトを学ぶ。
12	23-24	企画書制作 合同展示会作品のテーマコンセプトのまとめ2	進級作品展で制作するコンセプトやテーマをまとめ、紙面上で伝わるレイアウトを学ぶ。ブランド内の統一感を意識し、世界観のまとめを行う。
13	25-26	展示パネル 合同展示会作品のテーマコンセプトのまとめ3	進級作品展に向けて、来場者へブランドの世界観が伝わるデザインレイアウトを考え展示パネルを作成する。
14	27-28	展示パネル 合同展示会作品のテーマコンセプトのまとめ4	進級作品展に向けて、展示ブース内すべてのレイアウト能力の習熟。
15	29-30	企画書制作 まとめ	企画書のファイル制作、まとめ。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		授業外でもAdobe Illustratorを使用することにより上達が見込める。また、常に雑誌などからレイアウト構成を見ることにより、感性を伸ばすことが出来る。	

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。											
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期
種別	服飾造形					授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="radio"/>
授業科目	ソーイングⅡ					単位	7単位					
担当教員	岸川 真子					職業実践専門課程：企業との連携 <input type="radio"/>						
※実務家教員	<input type="radio"/>	OEMメーカーやレディースブランドの企画・デザイナー及び縫製工場の工場縫いの実務を活かした、実践的な知識と技術で指導を行う。										
資格検定	必修 <input type="checkbox"/> 選択 <input type="checkbox"/>											
授業概要	パタンナーやデザイナーの意図を汲み取り、縫製仕様書に従い、裁断した生地を素材特性や柄などに配慮しつつ、ミシン操作、アイロン作業、最終仕上げまで、各種部分縫いを交えながらより実務的な技術を習得する。薄物素材、ニット素材、厚地ウール、特殊素材などで製品を製作し、多種多様な素材を使用しての慣性力のある表現力を習得する。											
学習成果	①	構造を理解し服作りが出来るアパレルデザイナー実務能力の習熟。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%	
	②	パターンメイキングと連動したアパレル造形・仕様への理解習熟。						2	提出物/期限遵守	75	%	
	③	縫製職に就くための基盤となる基礎能力の習熟。						3	独創性/習熟度	15	%	
	※	衣服の制作及び他カリキュラムとの連動成果が得られる。						4	意欲・授業態度	10	%	
使 用 材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●KFDオリジナル実習プリント配布											

前期 授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容	
1	1-8	カットソー：裁断、準備工程、縫製、まとめ、仕上げ	ニット素材縫製仕様への理解及び活用法の習熟。イメージするニット素材の調査及び準備。	
2	9-16	部分縫い：片玉縁ポケット、フラップ付き両玉縁ポケット、箱ポケット	裏付きジャケットへの理解。各種ポケット構造・仕様への理解及び活用法の習熟。	
3	17-24	部分縫い：テラードカラー	テラードカラーの構造の理解及び効率的な縫合を習得する。イメージするテキスタイルの調査及び準備。	
4	25-32	部分縫い：マシンメイド裏付きファスナー・ベンツ、ウエスト同型見返しコンシールファスナー	より立体的な下衣への理解。各部位の仕様への理解及び活用法の習熟。イメージするテキスタイルの調査及び準備。	
5	33-40	マシンメイドジャケット：地直し、マーキング、裁断、準備工程	既製品仕様のジャケットに適した素材の取り扱い方、厚地素材の縫製技能の習熟。	
6	41-48	マシンメイドスカート：地直し、マーキング、裁断、準備工程	既製品仕様の下衣への理解及び厚地素材の縫製技能の習熟。	
7	49-56	マシンメイドジャケット：縫製1 身頃、ポケット	既製品仕様厚地重衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。ポケット構造・仕様への理解及び活用法の習熟。	
8	57-64	マシンメイドジャケット：縫製2 袖形成、表地袖付け	既製品仕様厚地重衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。厚地仕様身頃の縫製技術の習得。	
9	65-72	マシンメイドジャケット：縫製3 上衿形成、見返し・ラペル形成、衿縫合	既製品仕様厚地重衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。効率的な衿の付け方を習熟。	
10	73-80	マシンメイドジャケット：縫製4 裏地身頃・袖付け、表裏地裾	既製品仕様厚地重衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。美しい袖付けを理解し効率的な縫合を習熟。	
11	81-88	マシンメイドスカート：縫製1 身頃、明き	既製品仕様の下衣への理解及び各部位の仕様の習熟。効率的な縫合を習得。	
12	89-96	マシンメイドスカート：縫製2 ベンツ形成、ウエスト始末	既製品仕様の下衣への理解及び各部位の仕様の習熟。	
13	97-104	マシンメイドジャケット・スカート：まとめ	既製品仕様厚地重衣料への理解、厚地素材の縫製技能の習熟。既製品出荷時におけるまとめ作業の習熟。	
14	105-112	職業実践専門課程取組作品 地直し、裁断、縫製1	職業実践専門課程における商品化を目的とした実務技能の習熟。授業時間外でナチュラル系婦人既製服へのディテール・仕様・シルエット調査。	
15	113-120	職業実践専門課程取組作品 縫製2	商品化を目的とした実務技能の習熟。軽衣料素材知識の習熟。商品として販売できる美しい縫製のために、授業時間外で縫製のトレーニングを行う。	

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-11	職業実践専門課程取組作品 縫製3	商品化を目的とした実務技能の習熟。既製品出荷時におけるまとめ作業の習熟。
2	12-22	職業実践専門課程取組作品 縫製4	商品化を目的とした実務技能の習熟。既製品出荷時におけるまとめ作業の習熟。ナチュラルブランドアイテムの仕上げアイロンのかけ方。
3	23-33	売品制作 まとめ	校内を市場に見立てニーズのある商品を意識した売品作り。コストを考えた上での調査及び提案。
4	34-44	オリジナルブランドクリエイション作品 地直し 裁断	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。テキスタイル製作・選定・準備。
5	45-55	オリジナルブランドクリエイション作品 縫製1	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。制作するコーディネートアイテム (アウター) への適切な縫製技術の習得。
6	56-66	オリジナルブランドクリエイション作品 縫製2	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。制作するコーディネートアイテム (アウター) への適切なまとめ技術の習得。
7	67-77	オリジナルブランドクリエイション作品 縫製3	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。制作するコーディネートアイテム (ボトムス) への適切なまとめ技術の習得。
8	78-88	オリジナルブランドクリエイション作品 縫製4	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。制作するコーディネートアイテム (トップス) への適切な縫製技術の習得。
9	89-99	オリジナルブランドクリエイション作品 縫製5	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。制作するコーディネートアイテム (トップス) への適切なまとめ技術の習得。
10	100-110	オリジナルブランドクリエイション作品 縫製6	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。基本アイテムへバランスを取るための取捨選択。
11	111-121	オリジナルブランドクリエイション作品 縫製7 まとめ・仕上げ	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。効率的な縫製仕様・工程の構成力習熟。基本となるアイテムへのまとめ・仕上げ。
12	122-132	オリジナルブランドクリエイション作品 小物・コーディネート物	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。コーディネート物を含む、各種小物への仕様・工程の構成力習熟。
13	133-143	オリジナルブランドクリエイション作品 トータルコーディネート	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。全身コーディネートでのバランス修正に伴う適切な仕様の選択能力の習得。
14	144-154	オリジナルブランドクリエイション作品 まとめ	創造的アパレルデザイン企画の一連の流れへの理解。最終チェックとして作品全体のまとめを行う。
15	155-165	まとめ	2年次ソーイングのまとめ、個別に習熟不足な項目を復習する。
準備学習 (予習・復習)		ソーイングのような実習教室等における授業に関しては、教室外における1時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、30時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		効率的・合理的作業方法を含めた縫製、既製服製造を目的とする検品、アパレル企画業に必要とされるプレゼンテーション能力を養う。	

授業科目等の概要												
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。											
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期
種別	服飾造形					授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>
授業科目	ドレーピングⅡ					単位	1単位					
担当教員	竹内 真由美					職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員	<input type="radio"/>	アパレルブランド企画職での実務経験及び、企業パタンナーの指導育成、大学講師や個人向け教室を行ない、学ぶ人の習得度に合わせてきめ細やかな教育を実践。実用性の高い衣服制作の基礎的なドレーピング技術を伝授する。										
資格検定												
授業概要	服飾の作図の1つの方法としてドレーピングを学ぶ。骨格、服作りの基本的な理論を踏まえたワルを直接ボディに合わせながらフォルムを形成していくドレーピング基礎技術を習得する事により、衣服の成り立ち、布の特質をより把握する。自らシルエットバランスを読み取れる実務的能力と、より直感的な衣服表現を行うことで感性を養う。											
学習成果	①	ドレーピングによる再現性の高いパターンメイキング技術の習得。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%		
	②	布の質感、流れ、ボリューム等を読み取れるスキルを付ける。					2	提出物/期限遵守	90	%		
	③	アパレル企画職に就くための基盤となる基礎能力の習熟。					3	独創性/習熟度	5	%		
	※	立体の基礎を習得しパターン力の幅を広げる。					4	意欲・授業態度	5	%		
使教材	●文化ファッション大系 服飾関連専門講座④											

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容	
1	1-2	ドレーピングの基礎理論	ドレーピングを始める前の確認事項。裁ちばさみの使用方法と、シーチングの見積もり方、ボディの種類を把握しピンの打ち方、経糸と緯糸の関係性などドレーピングの根本的な理論を学ぶ。	
2	3-4	後ろ身頃原型	骨格を理解しながら、文化ボディの原型後ろ身頃をドレーピング。ピンを挿す場所や角度を理解する。ダーツの位置とボディのふくらみを理解する。	
3	5-6	前身頃原型	骨格を理解しながら、文化ボディの原型前身頃を組み上げ、ピンを挿す場所や角度を再確認する。ピンの挿す位置を再度理解を深めよう。	
4	7-8	Aラインスカート1	タイトスカートから展開分量を含んだ基本的なドレーピング技術及びピン打ち方技術の習得。	
5	9-10	Aラインスカート2	タイトスカートから展開分量を含んだ基本的なドレーピング技術及びピン打ち方を復習しながら完成させる。	
6	11-12	ヨーク切替フレアスカート1	切替、展開分量を考えピンの打ち方を再確認し理解を深める。	
7	13-14	ヨーク切替フレアスカート2	切替、展開分量を考えピンの打ち方を再確認し理解を深め完成させる。	
8	15	まとめ	これまで学んだことを、再確認する。	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	スタンドカラー	衿ぐり線にそって衿を作る方法を習得する。ピンの挿す方向、カットする部分を理解する。
2	3-4	上衿	上衿をドレーピング。前回のスタンドカラーに上衿を付ける。ピンの打ち方を学ぶ。
3	5-6	プリンセスラインのショート丈ワンピース1	着崩れすることを踏まえ、ゆとりの入れ方の手つきやピンの打ち方を習得し、後ろ身頃を完成させる。切り替え線のバランスや感性もここで発揮する。
4	7-8	プリンセスラインのショート丈ワンピース2	ゆとりの入れ方を習得し、後ろ身頃を組み立てる。
5	9-10	プリンセスラインのショート丈ワンピース3	前身頃を作る。後ろ身頃同様にゆとりの入れ方を習得し組み立てる。
6	11-12	プリンセスラインのショート丈ワンピース4	前後身頃を完成させる。ピン打ちを習得する。
7	13-14	プリンセスラインのショート丈ワンピース5	組み上げたものを上げたものを、外し印の入れ方、ピン打ちを習得する。
8	15	まとめ	立体裁断で行った製図をまとめ、平面作図でのラインの意味をより深く理解する。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		基礎であるハサミの使用方法、ピンの打ち方等を習得し、自らシルエットバランスを読み取れる力と感性を養う。授業外でもドレーピングを活用することにより、技術向上する。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。												
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期	
種別	デザイン				授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>		
授業科目	ドローイングⅡ				単位	2単位							
担当教員	舞田 章子				職業実践専門課程：企業との連携								
※実務家教員	<input type="radio"/>	他校講師ならびに自身のコンクール入賞経歴を経て評価を得ている能力を基に、ドローイングの表現力を各種コンテストに向け応用的に伝授する。											
資格検定													
授業概要	イメージしたデザインを視覚的に表現することを目的とし、一年次に学んだ基本的なテクニックを踏まえて様々な画材での着彩方法を学ぶ。学生独自の感性を磨き、表現することで外部への提案力を養う。各種コンテストへの応募・入選を目標とする。 ※コンテスト作品への対応を行う為、前後期イレギュラーな回数で行うが、通年で換算することとする。												
学習成果	①	適切なアパレルデザイン画を描けるドローイング能力の習熟。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%			
	②	他者に伝わるデザイン画を描ける表現力の習熟。					2	提出物/期限遵守	80	%			
	③	訴求力の高いデザイン画を描けるスキル及びデザイン発想力の習熟。					3	独創性/習熟度	10	%			
	※	平面画を含む、デザイナーとして実務に必要なスキルの習得。					4	意欲・授業態度	10	%			
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●ドローイングセット ●各種コレクション雑誌 												

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容		
1	1-2	プロポーション表現方法/トレーニング/ YKKファスニングアワード 下絵	より表現力・訴求力の高いデザイン画を描くための基礎知識の習熟。コンテスト毎に計画的に行える戦略的デザイン発想力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。		
2	3-4	YKKファスニングアワード 着彩	機能性を含めたデザインの提案を行える実務的ドローイング能力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。デザインに対して適切な表現を選択する能力の習得。		
3	5-6	YKKファスニングアワード 着彩・仕上げ	機能性を含めたデザインの提案を行える実務的ドローイング能力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。デザインに対して適切な表現を選択する能力の習得。		
4	7-8	ナゴヤファッションコンテスト 下絵	デザイン画として訴求力の高い提案を行えるドローイング能力の習熟。誘目性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。		
5	9-10	ナゴヤファッションコンテスト 着彩	デザイン画として訴求力の高い提案を行えるドローイング能力の習熟。誘目性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。デザインに対して適切な表現を選択する能力の習得。		
6	11-12	ナゴヤファッションコンテスト 仕上げ	デザイン画として訴求力の高い提案を行えるドローイング能力の習熟。誘目性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。自身のデザインに対して、他者に適切に伝わるレイアウトデザインの習得。		
7	13-14	日暮里ファッションデザインコンテスト 下絵	オリジナリティの高い提案を行えるドローイング能力の習熟。誘目性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。基本となるコンセプトを各自考えてくる事。		
8	15-16	日暮里ファッションデザインコンテスト 着彩	オリジナリティの高い提案を行えるドローイング能力の習熟。誘目性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。デザインに対して適切な表現を選択する能力の習得。		
9	17-18	日暮里ファッションデザインコンテスト 仕上げ	オリジナリティの高い提案を行えるドローイング能力の習熟。誘目性の高いデザイン画を描ける構成力の習熟。自身のデザインに対して、他者に適切に伝わるレイアウトデザインの習得。		
10	19-20	文化服装学院連鎖校協会ファッションデザイン画コンクール 下絵	トレンド性・構成的バランス・デザイン画としてのクオリティ・テキスタイルの再現性等を考慮したデザイン画を描けるドローイング能力の習得。基本となるコンセプトを各自考えてくる。		
11	21-22	文化服装学院連鎖校協会ファッションデザイン画コンクール 着彩	トレンド性・構成的バランス・デザイン画としてのクオリティ・テキスタイルの再現性等を考慮しドローイング能力の習得。基本となるコンセプトを各自考えてくる。		
12	23-24	文化服装学院連鎖校協会ファッションデザイン画コンクール 着彩	トレンド性・構成的バランス・デザイン画としてのクオリティ・テキスタイルの再現性等を考慮したドローイング能力の習得。デザインに対して適切な表現を選択する能力の習得。		
13	25-26	文化服装学院連鎖校協会ファッションデザイン画コンクール 仕上げ	トレンド性・構成的バランス・デザイン画としてのクオリティ・テキスタイルの再現性等を考慮したドローイング能力の習得。自身のデザインに対して、他者に適切に伝わるレイアウトデザインの習得。		
14	27-28	全国服飾学校ファッション画コンクール 下絵	指定された感性で魅力的なデザイン画を描ける実務的ドローイング能力の習熟。指定された感性についての理解をコレクション雑誌等から深めておく事が望ましい。		
15	29-30	全国服飾学校ファッション画コンクール 着彩 まとめ	指定された感性で魅力的なデザイン画を描ける実務的ドローイング能力の習熟。デザインに対して適切な表現を選択する能力の習得。		

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	全国服飾学校ファッション画コンクール 仕上げ	指定された感性で魅力的なデザイン画を描ける実務的ドローイング能力の習熟。自身のデザインに対して、他者に適切に伝わるレイアウトデザインの習得。
2	3-4	ゼンタングル1	特異な世界観をドローイングで表現するための技術の習熟。ファッションデザイン画よりも、より感性的なレイアウトを学ぶ。
3	5-6	ゼンタングル2	特異な世界観をドローイングで表現するための技術の習熟。特殊なレイアウトの中でのアクセントや余白のバランス感覚を習熟する。
4	7-8	ゼンタングル3	特異な世界観をドローイングで表現するための技術の習熟。密と疎のバランスを考え、場合によっては着彩を加え、トータルなレイアウト感覚を学ぶ。
5	9-10	制作ジャケット・スカートデザイン画 下絵	制作したアイテムを正しく表現するためのドローイング能力の習熟。制作したアイテムのシルエット・テキスタイル・カラー等を仕様を含め正しく理解しておく事が望ましい。
6	11-12	制作ジャケット・スカートデザイン画 着彩	制作したアイテムを正しく表現するためのドローイング能力の習熟。デザインに対して適切な表現を選択する能力の習得。
7	13-14	制作ジャケット・スカートデザイン画 仕上げ	制作したアイテムを正しく表現するためのドローイング能力の習熟。自身のデザインに対して、他者に適切に伝わるレイアウトデザインの習得。
8	15-16	クリエイション制作アイテムデザイン画 下絵	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。
9	17-18	クリエイション制作アイテムデザイン画 着彩1	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。デザインに対して適切な表現を選択する能力の習得。
10	19-20	クリエイション制作アイテムデザイン画 着彩2	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。オリジナリティの高いテキスタイルを表現するための技術習得。
11	21-22	クリエイション制作アイテムデザイン画 仕上げ1	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。自身のデザインに対して、他者に適切に伝わるレイアウトデザインの習得。
12	23-24	クリエイション制作アイテムデザイン画 仕上げ2	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。個人のオリジナリティを活かしつつ、企画内での統一感を出す表現方法の模索。
13	25-26	クリエイション制作アイテムデザイン画 仕上げ3	制作物について魅力的に描くドローイング力、集団の中で注目を集める為の訴求力、構成を含む表現力の習熟。現実的なトータルコーディネートを含め平面表現に落とし込む。
14	27-28	次年度コンクールに向けて	様々な表現をサンプルから理解し、情報の整理を行い自らのデザイン発想のストックにする。次年度クリエイションを含め、コンテストに向けた企画を立案する。
15	29-30	まとめ	本過程での各制作物をまとめ、次年度に活かすための計画性を得る。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		各種コンクールの事前準備として、基本となるコンセプトを各自考えてくる事。ソーイングIIと連動しているデザイン画については、制作物の素材、ディテール、仕様等を正確に理解しておく。	

授業科目等の概要

学 科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。												
分 類	必修	○	選択	配当年次	2	年	学 期	通年	○	前期	後期		
種 別	服飾造形					授業形態	講義	演習	○	実習	○		
授業科目	パターンメイキングⅡ					単 位	10単位						
担当教員	鈴木 綾					職業実践専門課程：企業との連携					○		
※実務家教員	○ 企画・デザイン・製造・販売の一連の業務で培ってきた知識を活かし、実用性の高い衣服制作の基礎技術を伝授する。												
資格検定	一般財団法人日本ファッション教育振興協会：パターンメイキング技術検定試験2級										必修	○	選択
授業概要	人体の構造、体形を理解して、服種別・シルエット各種のパターンメイキングを習得する。また素材に応じて、ゆとりや厚み分量を考慮したパターン展開法を身に付け、生産に向けた量産パターン（縫い代付け、合印、グレーディング）の知識・技術を習得する。テキスタイルや仕様を考慮した作図を学ぶことで、アパレルデザイン業における実務能力を身に付け、モノづくりに関する表現力を習熟する。												
学習成果	①	アパレル企業パタンナーに必要な基礎的技術の習熟。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	80	%		
	②	縫製、及びテキスタイルと連動した造形・仕様への理解習熟。						2	提出物/期限遵守	10	%		
	③	企画者としての基礎的実務能力を習得する。						3	独創性/習熟度		%		
	※	衣服の制作及び他カリキュラムとの連動成果が得られる。						4	意欲・授業態度	10	%		
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●パターンメイキング技術検定試験2級ガイドブック 												

前 期 授 業 計 画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-14	カットソー：縮尺作図、実物作図	ニット素材平面作図への理解習熟。イメージするニット素材の調査及び準備。
2	15-28	マシンメイドジャケット：表地縮尺作図 パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策	マシンメイドのテーラードジャケットの正確な平面作図能力の習得。授業時間外でもパターンメイキング技術検定2級筆記試験学習を行う。
3	29-42	マシンメイドジャケット：裏地縮尺作図 パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策：4面パネルライン	マシンメイドのテーラードジャケット(4面パネルライン)の裏地の作図、仕様知識習得。パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行なう。
4	43-56	マシンメイドジャケット：表地・裏地縮尺作図 パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策：4面プリンセス	マシンメイドのテーラードジャケット(4面プリンセスライン)の表地・裏地の作図、仕様知識習得。パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行なう。
5	57-70	マシンメイドジャケット：実物作図、タオル パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策：3面マニピレーション	応用的なマシンメイドジャケットの平面作図及び仕様への構成力の習熟。正確な平面作図能力の習得。パターンメイキング技術検定試験2級筆記対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行なう。
6	71-84	マシンメイドスカート：実物作図、タオル パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策：衿各種	応用的なマシンメイドスカートの平面作図及び仕様への構成力の習熟。正確な平面作図能力の習得。パターンメイキング技術検定試験2級筆記対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行なう。
7	85-98	マシンメイドジャケット：実物作図、工業用パターン パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策：衿各種	テーラードジャケットを基本とする平面作図への理解習熟。重衣料展開作図への理解習熟。パターンメイキング技術検定2級筆記試験過去出題問題のデザインを基本に授業を行う。
8	99-112	マシンメイドスカート：実物作図、工業用パターン パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策：変形デザイン	マシンメイドスカートを基本とする平面作図への理解習熟。パターンメイキング技術検定2級筆記試験過去出題問題のデザインを基本に授業を行う。
9	113-126	パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策：2枚袖(ノーマル・ギャザー・タック)	テーラードジャケットを基本とする各種ディテールの平面作図への理解習熟。パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行なう。
10	127-140	パターンメイキング技術検定2級筆記試験対策：グレーディング(身頃・袖・スカート)	基本的なグレーディング技術への理解習熟。パターンメイキング技術検定試験2級筆記対策を理論問題、製図問題に対し恒常的に行なう。
11	141-154	ドロップショルダー縮尺作図 職業実践専門課程取組作品 実物作図～タオル	実務的な婦人既製服の平面作図への理解及びデザイン展開からの応用力の習得。ナチュラル系婦人既製服へのディテール・仕様習熟。
12	155-168	職業実践専門課程取組作品 パターン修正～工業用パターン作成 パターンメイキング技術検定試験2級実技対策	実務的な婦人既製服の平面作図への理解及びデザイン展開からの応用力の習得。
13	169-182	パターンメイキング技術検定試験2級実技対策1	パターンメイキング技術検定試験2級実技対策をトライアル形式で行う。正確性を重視したジャケットアイテム作図能力の習熟。
14	183-196	パターンメイキング技術検定試験2級実技対策2	パターンメイキング技術検定試験2級実技対策をトライアル形式で行う。効率の良い作業を重視し、実務的問題解決能力を習得する。
15	197-210	前期試験対策	半期を通して得た知識、技術を反復練習し、パターンメイキングにおける基礎能力・応用力を高める。時間内に仕事を行う設計力の習熟。

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-13	職業実践専門課程取組作品 工業用パターン	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。縮尺作図を行い、平面作図上での試行錯誤を行う。
2	14-26	フード各種：ダーツなし・ダーツ入り・マチ入り・衿付き	各種アウターに対応可能なデザインフードの平面作図及び仕様への知識習得。
3	27-39	オリジナルブランドクリエイション作品 実物作図1	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。仕様等を考慮した作図を行う。
4	40-52	オリジナルブランドクリエイション作品 実物作図2	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。仕様等を考慮した作図を行う。
5	53-65	オリジナルブランドクリエイション作品 トワル1	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。トワルに使用する素材は実際に使用する素材に近しい物を使用する。
6	66-78	オリジナルブランドクリエイション作品 トワル2	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。制作アイテムへの基本的な仕様の理解を習得する。
7	79-91	オリジナルブランドクリエイション作品 トワル3	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。各種使用素材に対する適切な作図の選定能力の習熟。特殊なアイテムへの仕様を考え、試作を行い理解する。
8	92-104	オリジナルブランドクリエイション作品 トワル4 補正1	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。イメージするシルエットと実物との差異を修正するためのパターンメイキングにおける考察力の習熟。
9	105-117	オリジナルブランドクリエイション作品 トワル5 補正2	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。使用素材に対する適切な作図の習熟。全身のバランスを整える。
10	118-130	オリジナルブランドクリエイション作品 工業用パターン1	副資材を含めた、適切な仕様を選定した上でのパターンメイキング技術の習得。縫製に際して正確性を重視しパターンチェックを密に行う。
11	131-143	オリジナルブランドクリエイション作品 工業用パターン2	応用的かつ提案的な作品の平面作図及び仕様への構成力の習熟。副資材を含めた、適切な仕様を選定した上でのパターンメイキング技術の習得。
12	144-156	オリジナルブランドクリエイション作品 工業用パターン3	副資材を含めた、適切な仕様を選定した上でのパターンメイキング技術の習得。素材、デザインに適した縫い代付けなども考慮する。
13	157-169	後期試験対策1	二年次を通して得た知識、技術を反復練習し、パターンメイキングにおける基礎能力・応用力を高める。時間内にパターンメイキングを行う設計力の習熟。授業時間外でも試験対策学習を行う。
14	170-182	後期試験対策2	二年次を通して得た知識、技術を反復練習し、パターンメイキングにおける基礎能力・応用力を高める。パターンメイキングにおける基礎的な技術の繰り返しも行う。
15	183-195	3年次に向けてのトライアル講習 まとめ	基礎的パターン能力の確認と応用問題。ノートまとめ。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		環境を整え効率的・合理的作業方法を含めた製図、アパレル企画業に必要とされるプレゼンテーション能力を養う。	

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	<input type="checkbox"/>	後期	<input type="checkbox"/>	
種別	企画					授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>			
授業科目	ブランドプロデュースⅡ					単位	2単位								
担当教員	城代 蘭					職業実践専門課程：企業との連携									
※実務家教員	<input type="radio"/>	国家資格技能検定婦人子供服製造技能士1級の資格を活かした衣装制作ブランド、オリジナルスカーフブランドの運営実務を基に教授する。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	本授業では、ファッションブランドをプロデュースするために必要な基礎理論と実践的スキルを学ぶ。顧客に選ばれるブランドを構築するためには、マーケットの理解、ターゲット設定、ブランドアイデンティティの確立、差別化戦略、プロモーション手法などを総合的に考える力が求められる。 2年次の授業では、1年次で学んだブランドの基礎をさらに発展させ、市場性・競合・流通・プロモーションなど実践的な視点を取り入れビジネスプランを発表できることを目指す。														
学習成果	①	実習作品と連動しシリーズとしてのブランド企画を行なえる。					成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%				
	②	「ブランドらしさ」を複数の作品で表現できる力を養う。						2	提出物/期限遵守	50	%				
	③	実務的な視点(価格・販売・プロモーション)を考えられる。						3	独創性/習熟度	30	%				
	※	ミニブランド展示・発表会を行なう。						4	意欲・授業態度	20	%				
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●織研新聞・雑誌 														

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	目標共有 自分ブランド設定	1年次に設定したブランドを整理。1年間のマイルストーンを設計する力を養う。
2	3-4	市場分析1 市場動向・競合ブランドのリサーチ	今の時代に求められるマーケティングをリサーチ。市場動向や競合ブランドを調査し、現代のファッション市場の特徴とブランドの立ち位置を考える力を習熟。
3	5-6	市場分析2 商圏を考える 価格・顧客層・売り方	売る時代から共創する時代へ。顧客が「お得」と感じる価格は？ストレスなく快適に購入できる環境は？顧客が商品やサービスに求める価値は何か？顧客視点で考え分析する力を習熟。
4	7-8	ブランドコンセプトの再構築	リサーチ結果を踏まえ、ブランドの世界観やコンセプトを再整理しブランドアイデンティティを明確にする。実習作品に連動し、統一感あるブランドを作る力を養う。
5	9-10	ターゲット分析	ペルソナ設定を行い、ブランドが想定する顧客像を具体的に設計する力を習熟。
6	11-12	商品企画1 入り口商品	ブランドの入り口となる商品の役割を理解し、商品企画を立てる力を養う。
7	13-14	商品企画2 商品台帳	商品の仕様や構成を整理し、商品情報を体系的にまとめる力を養う。
8	15-16	商品企画3 アイテム展開	ブランドの世界観を反映した商品展開やコーディネート提案力を習熟。
9	17-18	商品企画4 商品台帳	シリーズ商品を整理し、商品構成を計画的に管理する力を習熟。
10	19-20	シリーズ全体の整合性	ブランドの統一感を意識し、シリーズ全体を調整する力を習熟。
11	21-22	アイテム価格戦略	市場やターゲットを踏まえた適切な価格設定を考える力を養う。
12	23-24	商品企画5 ジャケット・ボトムス	ブランドを象徴する主力商品の企画力とデザイン展開力を習熟。
13	25-26	商品企画6 ジャケット・ボトムス 商品台帳	ブランドを象徴する主力アイテムを企画し、商品台帳として整理する力を習熟。
14	27-28	ブランドの伝え方1 ビジュアル表現・ルックブック	ブランドの世界観を視覚的に表現し、ルックブックなどのビジュアル資料を制作する力を習熟。
15	29-30	ブランドの伝え方2 SNS・広告・プロモーション	SNSや広告などの媒体を活用し、ブランドの魅力を効果的に発信するプロモーション力を習熟。

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-4	ブランド企画書 ドラフト作成1	自分のブランドストーリーと商品構成を整理し、ブランドの目的・世界観・コンセプトを言語化する力を習熟。
2	5-8	ブランド企画書 ドラフト作成2	商品構成、ターゲット、価格帯など整理し、企画書の基礎構成を作成する力を養う。
3	9-12	進捗発表・フィードバック	企画内容を発表し、客観的な意見を受けながらブランド企画の方向性を検証・改善する力を習熟。
4	13-16	販売促進企画	ブランドの魅力を伝えるためのプロモーション方法や販売ツールを企画する。どの媒体・チャネルで顧客に届けるかを考える。販売までの流れを具体的に設計する。
5	17-20	ブランド予算と収支の基礎	原価・価格設定・利益構造を理解し、ブランド運営に必要な収支計画を考える。
6	21-24	ブランド企画の整理	ブランドストーリー、商品構成、販売戦略を整理し、企画全体の一貫性を高めまとめる力を習熟。
7	25-28	ブランドホームページ・WEBショップ作成1	ブランド情報を発信するためのWEBショップもしくはHPなどの発信ツールを制作する。
8	29-32	ブランドホームページ・WEBショップ作成2	ブランド情報を発信するためのWEBショップもしくはHPなどの発信ツールを制作する。
9	33-36	合同展示会準備1 ブースイメージ作成	ブランドの世界観を伝える展示ブースの構成や空間演出を計画する力を養う。
10	37-40	合同展示会準備2 資料作成	ブランド説明資料や展示パネルなど、展示会に必要な資料制作を進める。情報伝達方法を熟考し、訴求力のある資料を構成する力を習熟。
11	41-44	合同展示会準備3 資料作成	ブランド説明資料や展示パネルなど、展示会に必要な資料制作を進める。情報伝達方法を熟考し、訴求力のある資料を構成する力を習熟。
12	45-48	合同展示会準備4 資料作成	ブランド説明資料や展示パネルなど、展示会に必要な資料制作を進める。情報伝達方法を熟考し、訴求力のある資料を構成する力を習熟。
13	49-52	合同展示会準備5 発表会リハーサル	展示とプレゼンテーションのリハーサルを行い、伝達力を高める。プレゼン内容や練習は服飾デザインⅡと連動する。
14	53-56	合同展示会・合評	展示と発表を通してブランド企画を発信し、評価や意見を受けて理解を深める。
15	57-60	フィードバック整理・修正ワーク・今後の展開について	発表後のフィードバックを整理し、企画の改善点と今後のブランド展開を考える。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		授業外でもAdobe Illustratorを使用することにより上達が見込める。また、常に雑誌などからレイアウト構成を見ることにより、感性も伸ばすことができる。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。												
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期	
種別	流通・販売				授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習	<input type="checkbox"/>		
授業科目	市場調査Ⅱ				単位	1単位							
担当教員	鈴木 綾				職業実践専門課程：企業との連携							<input type="radio"/>	
※実務家教員	<input type="radio"/>	企画・デザイン・製造・販売の一連の業務で培ってきた経験を活かし、様々な販売チャネルに合わせて企画立案するためのリサーチ方法を伝授する。											
資格検定												必修	選択
授業概要	ECをふくめた、ジャンルを問わず幅広いブランド、ショップ等を調査する事で、今の市場のニーズ、トレンドをとらえる。また、服飾デザインⅡ、ソーイングⅡ、パターンメイキングⅡと連動し、自身の制作物に設定されたブランドの競合ブランドのリサーチを行い、比較検討の材料、方向性決定の根拠の一つとする。既製品への知識を増やし、根拠のある提案を行うことで、商品開発の実務に対応できる実践力を養う。												
学習成果	①	市場から購買傾向を読み取る観察力の習熟。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点を 算出)	1	定期試験結果		%			
	②	市場からカラー・デザイン展開、物価等を読み取る理解力の習熟。					2	提出物/期限遵守	80	%			
	③	VMDやアパレル以外の感覚的情報からデザイン発想力を養う。					3	独創性/習熟度	10	%			
	※	実務において有効な商品の提案力の習得。					4	意欲・授業態度	10	%			
使 用 材	●各種雑誌、WWD等ファッション情報媒体												

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-2	アパレル企業リサーチ	就職先を意識しリサーチを行う。デザインだけではなく、カラー、素材、価格、実購買層等を理解し、提案力を習得する。 自己の希望する職種、企業を明確にしておく。
2	3-4	アイテムリサーチ：カットソー	カットソー企画制作にあたり、市場性のあるアイテムの調査を行う。次項目のジャケット・スカートとのブランドとしての統一性、コーディネートを含めて調査する。
3	5-6	アイテムリサーチ：ジャケット	ジャケット企画制作にあたり、市場性のあるアイテムの調査を行う。前項目のカットソーとのブランドとしての統一性、コーディネートを含めて調査する。
4	7-8	アイテムリサーチ：スカート	スカートの企画制作にあたり、市場性のあるアイテムの調査を行う。前項目のカットソー・ジャケットとのブランドとしての統一性、コーディネートを含めて調査する。
5	9-10	ブランドリサーチ：ハイブランド	百貨店を中心に高価格帯ブランドのアイテムを調査することで、ブランドに高い付加価値を与えるデザイン・素材・副資材・VMDを学ぶ。
6	11-12	アイテム・ディテールリサーチ	高価格帯の店舗へ出向き、素材と仕様を調査し、職業実践専門課程でのアイテム提案へ活かす。
7	13-14	アイテムリサーチ：オリジナルブランド1	オリジナルブランドクリエイション作品制作にあたり、参考となるアイテムのリサーチを行う。競合ブランドの実地調査を行うのが望ましい。
8	15	アイテムリサーチ：オリジナルブランド2	オリジナルブランドクリエイション作品制作にあたり、参考となるアイテムのリサーチを行いまとめる。競合ブランドの実地調査を行うのが望ましい。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	アパレル企業リサーチ：就職検討企業1	高価格帯であるセレクトショップを調査し、感度の高い商品展開から、デザイン、素材、縫製仕様を調査する。
2	3-4	アパレル企業リサーチ：就職検討企業2	高価格帯であるセレクトショップを調査し、感度の高い商品展開から、デザイン、素材、縫製仕様を調査しまとめる。
3	5-6	ショップリサーチ：セレクトショップ1	3年次のマイブランドを企画するにあたり、競合ブランドを4~5調査する。ブランドの成り立ち、コンセプト、ロゴ等を調べる。
4	7-8	ショップリサーチ：セレクトショップ2	3年次のマイブランドを企画するにあたり、競合ブランドを4~6調査する。ブランドの成り立ち、コンセプト、マーケティングを調べまとめる。
5	9-10	ブランドリサーチ：ブランドプロデュース企画競合ブランド1	実際に競合ブランド店舗へ出向き、顧客の把握。商品アイテムのバランス、カラー展開、打ち出し商品等を調査。
6	11-12	ブランドリサーチ：ブランドプロデュース企画競合ブランド2	実際に競合ブランド店舗へ出向き、顧客の把握。商品アイテムのバランス、カラー展開、打ち出し商品等を調査しまとめる。
7	13-14	ブランドリサーチ：ブランドプロデュース企画競合ブランド3	競合ブランドの分析を行い、マイブランドの戦略案を計画。
8	15	まとめ	集めた情報を適切にまとめ、今後活用できる資料にする編集能力の習熟。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		調査にあたってのマナーの徹底を行う。収集した情報は、ソーイング、パターンメイキング、服飾デザイン等において多角的に活用する。	

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年														
D P/ 学科人材育成	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期			
種別	デザイン						授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習			
授業科目	服飾デザインⅡ						単位	4単位							
担当教員	鈴木 綾						職業実践専門課程：企業との連携					<input type="radio"/>			
※実務家教員	<input type="radio"/>	企画・デザイン・製造・販売の一連の業務で培ってきた経験を活かし、人の為のデザインとは、社会に必要なとされる服とは、コンセプトを他者に伝わる作品としてどのように表現していくか等、学生に伴走しながらアイデア発想の方法を伝授する。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	この授業ではプロジェクトワークを主軸とし自分自身の研究課題を見つけ、マイブランドのクリエイション作品へと発展させる。各自が設定する研究課題に対して、リサーチ・分析を行ったのち服に落とし込み、訴求感ある作品へと表現していく方法を探究する。幅広い柔軟なアイデア発想を強化する事で、独自の感性を活かした提案力を養う。また、職業実践専門課程では、クライアントワークとしてアパレルメーカーもしくは異業種との連携を行い、実際に企画提案企画・デザイン・商品開発における実務能力の習熟も行う。														
学習成果	①	クリエイティブかつ実現可能なデザイン発想力の習熟。						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)	1	定期試験結果		%			
	②	イメージを視覚的及び文章で伝えられる表現力の習熟。							2	提出物/期限遵守	40	%			
	③	コンセプトからデザインを形にしていくまでの設計力の習熟。							3	独創性/習熟度	50	%			
	※	他者に伝わる客観性のあるデザイン力を習得する。							4	意欲・授業態度	10	%			
使教材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾関連専門講座④ ●各種雑誌類 ●KFDオリジナル実習プリント配布 														

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-4	コンテストワーク1		YKKファスニングアワードに応募するためのコンセプト選定及び深掘りを行う。授業時間外でブラッシュアップを図る。			
2	5-8	プロジェクトワーク1		最終的にはこのプロジェクトワークがマイブランドのクリエイション企画へと繋がっていく。日頃から社会問題・時事等から自分が気になることを抽出し、研究課題を見つける。			
3	9-12	プロジェクトワーク2 リサーチ・キーワード抽出		研究課題を複数案検討し、その中から主軸にする事柄に対し、キーワードを抽出する。授業時間外でもリサーチを行う。			
4	13-16	コンテストワーク2		ナゴヤファッションコンテスト・リクロースカップ等のコンセプト選定及び深掘りを行う。授業時間外でブラッシュアップを図る。			
5	17-20	プロジェクトワーク3 テキスタイル リサーチ		抽出したキーワードに対し素材、技法、デザインの観点から、適する類似したもの、ファッションに限らず幅広い分野からリサーチする。特に素材表現に関しては授業時間外でも試作を繰り返す。			
6	21-24	プロジェクトワーク4 テキスタイル エスキース		自分のプロジェクトを表現するに相応しいテキスタイルを考案する。エスキースを行い、特に素材表現に関しては試作を繰り返す。			
7	25-28	職業実践専門課程 クライアントワーク1 リサーチ・分析		クライアントのニーズを的確に把握し、目指すゴールの確認。リサーチや企業へのヒアリングを通し、分析を行う。また、提案する商品のイメージを共有する。			
8	29-32	職業実践専門課程 クライアントワーク2 商品企画		商品提案を行う客観性を育成する。同時に限られた条件の中で如何にオリジナリティを発揮するかの経験となす。また、グループメンバーとの意思伝達、コミュニケーション能力を養う。			
9	33-36	職業実践専門課程 クライアントワーク3 商品企画		提案するデザイン画を制作する。採用量を超えるラフから抽出することが望ましい。			
10	37-40	職業実践専門課程 クライアントワーク4 中間プレゼンテーション		制作するデザインを選定する為に、各グループプレゼンテーションを行う。提案した企画から具体的な各種設定を決定する能力を育成する。			
11	41-44	プロジェクトワーク5 テキスタイルデザインブラッシュアップ		様々な視点から再度リサーチを行う。特に使用素材に関しては具体性、オリジナリティの追求を重視する。			
12	45-48	プロジェクトワーク6 イメージマップ制作・トレンド分析		トレンド分析を行い、企画の有用性についての裏付けをとる実務的能力の習熟をする。			
13	49-52	プロジェクトワーク7 プレゼンテーションドラフト制作		企画したものを魅力的にプレゼンテーションする表現力、編集能力を習熟する。			
14	53-56	プロジェクトワーク8 プレゼンテーション・合評		コンセプトの伝達、具体化に向けての表現力、コミュニケーション能力の習熟。前期に学んだことを包括的に復習しまとめを行う。			
15	57-60	職業実践専門課程 最終プレゼンテーション・合評		クライアントのニーズを的確に理解し、それに応える成果物を提供できたか評価いただく。			

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-4	テキスタイル1 染色	ファッションデザインを学ぶうえでテキスタイルの表現は不可欠となる。素材表現の一つとして染色を学ぶ。予習として、染めの種類を大まかに把握しておく。
2	5-8	テキスタイル2 染色	ファッションデザインを学ぶうえでテキスタイルの表現は不可欠となる。素材表現の一つとして染色を学び、オリジナル染色を試す。
3	9-12	テキスタイル3 加工	ファッションデザインを学ぶうえでテキスタイルの表現は不可欠となる。生地凹凸、風合い、重なり等、異なる表現方法の加工を探究。
4	13-16	クリエイション1 プロジェクトワーク～エスキース	前期で行ったプロジェクトワークから派生し、マイブランドのクリエイション作品を制作するためのデザイン発想を行う。
5	17-20	クリエイション2 デザイン選定	決定したコンセプト、素材をもとに色彩計画、デザインを考える客観性のある発想力を習熟する。
6	21-24	クリエイション3 デザインブラッシュアップ	決定したコンセプト、素材をもとに色彩計画、デザインを考える客観性のある発想力を習熟する。作品のトータルチェック後や仮縫い後など、都度作品を見直し、他者に伝わる表現になっているか確認し修正を図る。
7	25-28	クリエイション4 コーディネート	制作物に対して、テーマに沿った適切なコーディネートを行う。コーディネートで世界観が変わる為、訴求感をより高められる色彩、フォルムを計画する。
8	29-32	合同展示会に向けて 展示計画	研究課題の選定から始まり、マイブランドのクリエイション企画へとつながるまでの一連の成果物を展示する。進級作品展において合同展示会を計画する。
9	33-36	合同展示会に向けて 資料制作1	全てのエスキースや資料を出し、整理・編集する。企画の全体を振り返り、客観的視点でまとめる力を養う。資料制作はブランドプロデュースⅡと連動する。
10	37-40	合同展示会に向けて 資料制作2	他者への伝わりやすさや、如何に自身のオリジナリティを発揮するかを考えながら試行錯誤を行う。
11	41-44	合同展示会に向けて 資料制作3	それぞれの企画についてのデザイン発想力・コミュニケーション能力・客観的視点の習得。伝達のための資料を編集しておく事が望ましい。
12	45-48	合同展示会に向けて プレゼン練習	企画したものを魅力的にプレゼンテーションする表現力、編集能力を習熟する。合同展示会と評価は連動するブランドプロデュースⅡにて行う。
13	49-52	3年次クリエイション企画に向けて 検討	2年次の制作を振り返り、3年次でのブランド計画を行う。制作する企画についてのデザイン発想力・コミュニケーション能力・客観的視点の習得。試行の結果をまとめ、コンセプトの根幹を見出す。
14	53-56	3年次コンテストに向けて コンセプト・技法	3年次コンテストワークに向けてコンセプト選定及び深掘りを行い、技法を研究する。
15	57-60	まとめ	2年次マイブランドのクリエイション企画から3年次へのスムーズなノウハウの移行を行うため、面談を含めたデザイン発想のまとめを行う。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		グループワークがあるため、資料の保管・管理、製作にあたる経費の管理、制作物の管理の徹底を行う事。 また、徹底した報告・連絡・相談を心がけ、個人及びグループワークがスムーズに行えるよう細やかな修正を行える実務的実行力、注意力を持つよう心がける必要がある。 また、連動するブランドプロデュースⅡでも必要となる為、全エスキースは保管・編集を行う。	

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 2年														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	2	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	<input type="checkbox"/>	後期	<input type="checkbox"/>	
種別	総論				授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習	<input type="checkbox"/>				
授業科目	服飾造形論Ⅱ				単位	1単位									
担当教員	鈴木 綾				職業実践専門課程：企業との連携										
※実務家教員	<input type="radio"/>	企画・デザイン・製造・販売の一連の業務で培ってきた知識を活かし、実用性の高い衣服制作の基礎知識を伝授する。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	プロダクト全般に関する仕事を理解して、製造工程・縫製方法に関する知識、縫製機器の取り扱い、服飾付属品関連知識、素材の種類や生地の特徴に対応した裁断・芯貼り・縫製、また、補正に関する知識・技術を習得し、企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養う。														
学習成果	①	衣服制作の完成度を高める為の知識と技術を養う。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	80	%					
	②	効率的に衣服制作出来る方法を理解する。					2	提出物/期限遵守	10	%					
	③	仕様書を始めとする企画実務に必要な不可欠な書類作成能力を養う。					3	独創性/習熟度		%					
	※	衣服制作上の基礎知識を正確に習得する。					4	意欲・授業態度	10	%					
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●文化ファッション大系 服飾関連専門講座① ●KFDオリジナル実習プリント配布 														

前期授業計画 (4月-9月)					授業目的・準備学習(予習・復習)内容				
1	1-2	カットソー：伸縮素材の知識（種類・特徴）裁断、芯貼り、印しつけ方法 【カットソー仕様書】			伸縮素材取り扱いへの知識習熟。授業時間外で市場のカットソーアイテムを調査する。				
2	3-4	裏付きジャケット・スカート：アイテム知識、素材知識（種類・特徴・デザイン）、仕様書			裏付きジャケット・スカート制作における知識・技術の習熟。授業時間外で教科書の該当箇所を読んでおくこと。				
3	5-6	既製品仕立ての裏付きスーツ：素材の知識（薄手～中肉ウール）補正、地直し、マーキング～裁断について			薄手～中肉ウールを主とした素材知識及び取り扱いについての知識の習熟。地直し～裁断工程についての知識・技術の習熟。授業時間外で教科書の該当箇所を読んでおくこと。				
4	7-8	芯地・裏地について			既製品仕立てのジャケットやコートに使用される副資材についての知識・技術の習熟。授業時間外で教科書の該当箇所を読んでおくこと。				
5	9-10	軽衣料について：薄手天然素材 素材知識			綿・麻を代表した軽衣料によく使用される薄手天然素材についての知識習得。授業時間外で教科書の該当箇所を読んでおくこと、また市場の素材を調査する。				
6	11-12	軽衣料について：薄手天然素材 仕様知識			ナチュラル系婦人既製服軽衣料についての仕様・使用される薄手天然素材についての知識習熟。授業時間外で市場の薄手天然素材の仕様を調査する。				
7	13-14	軽衣料について：薄手天然素材 仕様書・工程分析表制作			ナチュラル系婦人既製服軽衣料についての仕様・使用される薄手天然素材についての知識習熟。及び工程分析についての知識習熟。授業時間外で1年次の軽衣料の仕様を復習し、工程分析を下書きする。				
8	15	まとめ			前期に学んだことを包括的に復習し、まとめを行う。				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-2	厚手衣料について：補正	厚手素材についての知識・技術の習得。授業時間外で市場の裏付きコートを調査する。
2	3-4	厚手衣料について：素材の知識、準備工程、各種仕様について	厚手素材の使用方法及び厚手素材アイテムでの準備工程・副資材選定およびポケット等ディテール選定についての知識・技術の習得。授業時間外で市場の裏付きコートを調査する。
3	5-6	厚手衣料について：ふらし仕立て、縫製仕様	厚手素材を使用したふらし仕立てコートの縫製仕様の知識・技術の習熟。授業時間外で仕様の復習を行う。
4	7-8	オリジナルブランドクリエイション作品 (特殊素材について) 素材知識、準備工程	クリエイション作品で使用する素材取り扱いについての知識・技術の習得。授業時間外で市場のブランドにおける参考となる特殊素材アイテムの仕様等の調査を行う。
5	9-10	オリジナルブランドクリエイション作品 (特殊素材について) マーキング・裁断する際の留意点	クリエイション作品で使用する素材の特性に合わせたマーキングと裁断方法を理解する。授業時間外で市場のブランドにおける参考となる特殊素材アイテムの仕様等の調査を行う。
6	11-12	オリジナルブランドクリエイション作品 縫製仕様書	クリエイション作品として制作するアイテム仕様についての知識・技術の習得。授業時間外で市場のブランドにおける参考となるアイテムの仕様等の調査を行う。
7	13-14	オリジナルブランドクリエイション作品 工程分析	クリエイション作品として制作するアイテムの縫製工程についての知識・技術の習得。授業時間外で市場のブランドにおける参考となるアイテムの仕様等の調査を行う。
8	15	まとめ	集めた情報を適切にまとめ、復習する事で理解度を高める。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)		講義に関しては、1時間の講義に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、15時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		アパレル企業の企画職に必要な不可欠な加工出しについての基礎的な能力の習熟を目指すため、提出書類の不備に対するチェックの徹底を、各人で出来るよう意識を高める。	

授業科目等の概要

授業科目等の概要															
学 科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 3年														
D P / 学科人材育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パターンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分 類	必修	<input type="radio"/>	選択		配当年次	3	年	学 期	通年	<input type="radio"/>	前期		後期		
種 別	パソコン					授業形態	講義		演習	<input type="radio"/>	実習				
授業科目	アパレル3DCAD					単 位	2単位								
担当教員	秋吉 麻理子					職業実践専門課程：企業との連携									
※実務家教員	<input type="radio"/>	アパレル企業にて企画、デザイン、パターン、生産管理など一連の実務を行なった後、フリーランスとしてパターンを中心にファッション3D、縫製指導を行なっている経験を活かし技術を伝授する。													
資格検定												必修		選択	
授業概要	これからのウェブマーケットを拓いていく人材の育成を基に、デジタルを活かしてサスティナブルな服作りが出来るパターンナーを目指す。デザイナーが思い描くデザインをよりリアルでスピーディに、バーチャル空間でサンプリングできるようになる。また、企画や販売においてもデジタル活用によるマーケット拡大を狙い、必要スキルを身に付ける。														
学習成果	①	パターンナーとしてデジタルモデリング基礎技術を身に付ける。				成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%					
②	バーチャルファッションへの理解を深めデザインに活用する。				2		提出物/期限遵守	40	%						
③	スピードをもってデザイン提案ができるスキルを身に付ける。				3		独創性/習熟度	50	%						
※	3Dモデルソフトを活用しバーチャル空間での服作りを実践				4		意欲・授業態度	10	%						
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●KFDオリジナルプリント配布 ●KFDオリジナルデータ配布 														

前期 授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	3Dモデリング活用事例 基本原理 デザイン変更 素材について	3DCADで出来る機能を知り、デジタルデザインのもたらす可能性を学ぶ。
2	3-4	基本操作を習得しよう	3DCADソフトCLOの基本操作を行う。画面の動かし方から一部のメニューを理解する。
3	5-6	ワンピースドレス組立て1	配布パターンを使用し、縫合指示を行う。ここでパターンに合わせた縫合メニューを把握する。予習でワンピースのパターンの把握をしておく。
4	7-8	ワンピースドレス組立て2	配布パターンを使用し、2週にわたり組み立てを行う。パターンに合わせた縫合指示を使い分け習熟度を高める。
5	9-10	ワンピースドレス組立て3	組み立てを完成させる。細かなディテール表現の操作方法を習得する。復習で反復練習を行い習熟度を高める。
6	11-12	ブラウスの組み立て1	配布パターンを使用し、縫合指示を行う。前回の復習も兼ねパターンに合わせた縫合メニューを理解し深める。予習でブラウスのパターンの把握をしておく。
7	13-14	ブラウスの組み立て2	配布パターンを使用し、2週にわたり組み立てを行う。細かなディテール表現の操作方法を習得する。
8	15-16	ブラウスの組み立て3	組み立てを完成させる。ブラウスのデザイン表現において効果的な操作方法を理解し、習得する。復習で反復練習を行う。
9	17-18	パンツの組み立て1	配布パターンを使用し、縫合指示を行い、習得する。ゴムなどの仕様に応じた表現方法を把握する。
10	19-20	パンツの組み立て2	アパターの関節を動かし、姿勢を変化させることを習得する。復習でアパターのメニューを見ておく。
11	21-22	縫い代の始末、ディテール、ステッチ	ディテールの表現方法や、縫い代の始末の表現方法を習得する。
12	23-24	レイヤー(パンツ+ブラウス)1	レイヤーの考え方を理解し、上下やインナーの着せ付け方法を学ぶ。予習・復習で操作方法を反復練習を行う。
13	25-26	レイヤー(パンツ+ブラウス)2	レイヤーの考え方を理解し、上下やインナーの着せ付け方法の理解を深め完成度を上げる。
14	27-28	アバター関節、ポージング	アバターの関節を動かし、姿勢を変化させることを習得する。衣服にあったポージングを考えることで表現力を養う。
15	29-30	レンダリング	よりリアルな表現方法を学ぶ。提出課題となる。復習で反復練習を行う。

後期 授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	ディテール プリーツ・タック	山折り、谷折りの指示を理解し様々なディテールを使用できるようになる。復習で資料をまとめ、自身の力で操作できるようにまとめる。
2	3-4	ディテール ダウン・ファスナー	圧力のかけ方、ファスナー付け等を理解し様々なディテールを使用できるようになる。
3	5-6	テーラードジャケット 着せ付け1	配布パターンを使用し、縫合指示を行う。縫合指示が自ら使用できるよう、予習復習し習熟度を高める。
4	7-8	テーラードジャケット 着せ付け2	配布パターンを使用し、着せ付けを行う。衿の折り返し指示を学ぶ。
5	9-10	肩パット レイヤークローン 部分芯1	テーラードジャケットを使用しデザインに合わせた、肩パットの入れ方や芯地や見返しの操作方法を理解する。
6	11-12	肩パット レイヤークローン 部分芯2	デザインに合わせた、肩パットの入れ方や芯地や見返しの操作方法を理解を深める。
7	13-14	デザインアイテム展開 副資材	様々な副資材の操作方法を学ぶ。復習で反復練習を行う。
8	15-16	デザインアイテム展開 テクスチャーの基礎操作	テキスタイルの操作方法を学ぶ。よりリアルな表現方法を学ぶ。
9	17-18	職出し作品 組み立て1	今まで学んだ事を生かし自身のデザインパターンを着せ付ける。予習で操作方法を見直し作業手順を考えて挑む。
10	19-20	職出し作品 組み立て2	レイヤークローンや芯貼り等の操作を行い、よりリアルな着せ付けを行う。復習で反復練習を行う。
11	21-22	職出し作品 テクスチャ	復習見踏まえテクスチャーを入れ完成度を高める。
12	23-24	職出し作品 ディテール表現	ディテールの表現方法を行うことにより、よりリアルに表現することができ、作品の完成度を高める。デザインに合わせた表現方法の再復習にもなる。
13	25-26	職出し作品 背景	作品を生かした背景デザインを考える。3Dならではの360度意識して完成度を高める。
14	27-28	職出し作品 全体調整	ライティングを把握し、全体の完成度を高める。
15	29-30	プレゼンテーション 講評	作品のプレゼンテーションを行うことで、着せ付け方を共有し自身の作品に対して客観視することが出来る。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		CLOのホームページやYouTube他に掲載されている世界中の作品をたくさん見て、デジタルファッションの動きを知る。基礎的なパターンの理解力が必須となり、積極性を持ち授業に参加する。授業外にCLOを使用することにより技術向上が図れる。	

授業科目等の概要														
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科										3年			
D P / 学科人材育成	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。													
分類	必修	○	選択		配当年次	3	年	学期	通年	○	前期		後期	
種別	パソコン						授業形態	講義		演習	○	実習		
授業科目	アパレルCAD II						単位	2単位						
担当教員	白濱 由佳理						職業実践専門課程：企業との連携							
※実務家教員	○	アパレル企業で培ったCADパタンナーの実務を活かし、実務性の高いアパレルCAD操作方法を教授する。												
資格検定												必修		選択
授業概要	東レクレアコンポのソフトを使用したアパレルCADの操作方法の講義。主に〈パターンマジックII〉を使用し、2年次に学んだパターンメイキングの応用を行う。スピードと正確さを求め、デザインや仕様に合わせたパターンメイキングを行うために必要なメニューの使い分けを習得する。後期ではブランドプロデュースと連動し、企画している既製品のパターンをCADで作成しデータ化、マーキングや平面画作成・縫製仕様書なども作成し、パターンメイキングだけではない工場出しをするために必要な総合的な知識を習得する。													
学習成果	① 東レクレアコンポIIのCAD操作をスキルアップし習得する。 ② CADを使用し縫い代と仕様を理解した工業用パターン制作。 ③ 仕様・デザインに適した、作図の操作方法を理解する。 ※ 工場生産できるパターンを作図することを目標とする。				成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)				1 定期試験結果 % 2 提出物/期限遵守 40 % 3 独創性/習熟度 40 % 4 意欲・授業態度 20 %					
使 用 材	●KFDオリジナル実習プリント配布													

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容			
1	1-2	Aラインのブラウス作成・シャツカラーの作図		各自のスピードでブラウス原型を展開し、作図を行う。受講する前にパターンの理解を踏まえ、操作方法に重点をおく。			
2	3-4	ヨーク切替シャツ作成		パターンチェックを行うメニューが多種あるため、ヨーク切替シャツを作図する中で多種使用し、適したメニューを理解する。			
3	5-6	ウエスタン調ブラウス作成1		パターンチェックを行うメニューが多種あるため、ウエスタン調ブラウスを作図する中で多種使用し、適したメニューを理解する。予習・復習で反復練習を行い操作方法に慣れる。			
4	7-8	ウエスタン調ブラウス作成2		縫合線の寸法を合わせ完成させる。線の傾斜を美しく仕上げる方法を習得する。			
5	9-10	フリルタックブラウス作成		ギャザー倍率を考えた作図を行う。切り替え線の入力方、展開方法を習得する。復習で再度操作をすることで習熟度を高める。			
6	11-12	台衿付きシャツカラーの作図		身頃に合わせた台衿付きシャツカラーの作図を行う。台衿シャツカラーの引き方を事前に把握し、繰り返し操作を行う。			
7	13-14	シングルカフスの作図		シングルカフスパターンの理解を深め、仕様に合わせた作図を行う。			
8	15-16	袖山の作図・袖山ノッチ作成		有型を使用しない袖山の作図を行い、CAD独自のノッチのメニューを使い袖山ノッチを作成する。			
9	17-18	シフト型ワンピースドレスの作図1		平面作図でワンピースを作図し、自身で使用するメニューを考え作図を行う。			
10	19-20	シフト型ワンピースドレスの作図2		パターンチェックのメニューを使い分け、理解する。			
11	21-22	確認テスト対策1		時間内で正確に仕様書に合わせた工業用パターンが作成できるよう練習を行う。同じパターンでも繰り返し作業することで、操作方法の理解を高める。			
12	23-24	確認テスト対策2		時間内で仕様書に合わせたパターンが出来るよう練習を行う。自身の習熟度を把握し基本操作が出来るように習得する。			
13	25-26	確認テスト対策3		どんなパターンでもCAD操作ができるよう習熟度を上げる。予習・復習で繰り返し作業することで、操作方法の理解を高める。			
14	27-28	確認テスト		今まで学んだことを生かし作図を行う。自身の習熟度を把握する。			
15	29-30	確認テスト復習・平面画作成		確認テストでの間違った部分を復習させる。(パターンマジックII)で、ブランドプロデュースで企画している既製品の平面画を作成する。後に仕様書で使用する。			

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	平面画作成	(パターンマジックⅡ)で、ブランドプロデュースで企画している既製服の平面画を完成させる。後に仕様書で使用する。
2	3-4	トレース・パターン確認と修正	CADスキャナで取り込んだ手書きのパターンをCADパターンにするためのトレースを学ぶ。またトレースしたパターンの修正・確認方法を学ぶ。
3	5-6	スキャンデータを工業用パターンへ1	手書きパターンのスキャンデータからトレースを行い工業用パターンまで作成することで、2年次で学習した工業用パターンへの流れを再度復習する。
4	7-8	スキャンデータを工業用パターンへ2	スキャンの基本操作を理解し、正確性のあるパターンを制作する。
5	9-10	パターンメイキング1	ブランドプロデュースで企画している既製服のパターンメイキングを行う。予習で手順を確認する。
6	11-12	パターンメイキング2	パターンに合った操作方法を理解し作業する。復習で資料にまとめる事で次回に活かす事ができる。
7	13-14	パターンメイキング3	パターンチェック等、正確性を持ち基本操作の理解を深める。パターンに合わせた操作方法を把握する。
8	15-16	パターンメイキング4	工業用パターンにする前に不備がないか確認作業も習得しパターンメイキングを完成させる。
9	17-18	工業用パターン作成1	ブランドプロデュースで企画している既製服のパターンを工業用パターンにする。パーツ化からの流れを復習し縫い代付けを行う。
10	19-20	工業用パターン作成2	縫製仕様を理解し縫い代寸法を入れる。縫い代付けの手順と操作方法を習得する。予習・復習で反復練習を行う。
11	21-22	工業用パターン作成3	縫製仕様を理解した角処理を行う。予習で仕様を把握しておく。
12	23-24	マーキング・パターンリスト作成	(マーカージック)を使用し、作成したパターンをマーキングする。また使用するパターンをExcelを使用し表にまとめる。マーキングの操作方法を習得する。
13	25-26	縫製仕様書の作成1	illustratorを使用し企画書に使用する仕様書を作成する。予習で仕様の把握をしておく。
14	27-28	縫製仕様書の作成2	指示が全てできているか確認し提出する。CADで確認作業を行う。
15	29-30	確認テスト・まとめ	基本操作の習熟度を理解し、再度理解を深める。
準備学習 (予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。		
その他 (授業に際しての注意点)	各自課題を進めていく授業が多いため、課題への取り組み状況により、学習の進行に個人差が生じる場合がある。パターンや縫製の基礎知識が基になるため、他授業での十分な学習が必要になる。課題を進める際にはテキスト通りやるだけでなく、きちんと操作の意味を理解・想像しながら進めることで習熟度が高くなる。		

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 3年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。												
分類	必修	○	選択		配当年次	3	年	学期	通年	○	前期	後期	
種別	服飾造形						授業形態	講義		演習		実習	○
授業科目	ソーイングⅢ						単位	8単位					
担当教員	内田 智子						職業実践専門課程：企業との連携			○			
※実務家教員	○	アパレル会社の企画デザイナーにて、デザイン、パターン、生産管理など一連の実務を行なった後、DTP業務、販売経験を培ってきた、実務を生かし教授する。											
資格検定												必修	選択
授業概要	アパレル企業において企画職として仕事をする上で、必要な衣服の造形を1.2年で習得した技術を基に実習を通して学ぶ。既製服仕立て、応用テクニックの習得を目的とする。デザイナーとしての資質を高める事を目標に提案力、表現力を問われる衣服の造形技術を実習を通して学ぶ。												
学習成果	①	服の構造を理解し服作りが出来るアパレルデザイナーの育成。						成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果			%
	②	将来的にモデリストとして活躍出来る人材育成。							2	提出物/期限遵守		10	%
	③	縫製職に就くための基盤となる基礎能力をつける。							3	独創性/習熟度		80	%
	※	衣服の制作及び多カリキュラムとの運動成果が得られる。							4	意欲・授業態度		10	%
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑧ ●KFDオリジナル実習プリント配布 												

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-8	基礎部分縫い 本比翼明き コート向きの箱ポケット		重衣料制作に先立ち、部分縫いを通して縫製技術を学ぶ。復習として縫製手順を再確認し、理解が不十分な箇所を把握することで技術の習熟度を高める。			
2	9-16	基礎部分縫い 無飾リアウトポケット ふらし仕立て パイピング始末		重衣料制作に先立ち、部分縫いを通して縫製技術を学ぶ。復習として縫製手順を再確認し、理解が不十分な箇所を把握することで技術の習熟度を高める。			
3	17-20	my brand 重衣料の裁断・芯貼り・副資材の準備		製造に入る準備を整え、生産管理技術を習得する。予習段階で数量の見積もりなどを行っておく。			
4	21-40	my brand 重衣料の縫製1		縫製の初期段階では工程分析に沿って正確に効率よく進むスキルを身に付ける。			
5	41-50	my brand 重衣料の縫製2		縫製の中盤仕上がり予測し中間工程を丁寧に進める技術を習得する。			
6	51-60	my brand 重衣料の縫製3		縫製の後期段階では最終仕上がり具合を予測しながら丁寧に進めていく技術を習得する。			
7	61-70	my brand 重衣料の縫製4・完成		完成段階で仕上げアイロン、まとめ作業等仕上りの完成度を上げる。復習で再度糸処理なども行う。			
8	71-80	基礎部分縫い 角縫い 剣ボロ		デザインの幅を広げるために復習も兼ねて基礎力の定着を図る。予習で仕様を見直す。復習で再度制作することで習熟度を高める。			
9	81-90	基礎部分縫い いってこい明き ピークドラペル		デザインの幅を広げるために復習も兼ねて基礎力の定着を図る。予習で仕様を確認しておく。			
10	91-100	my brand LOOK1裁断・芯貼り・副資材の準備		作品制作の手順を効率的に設計するスキルを身に付ける。製造に入る準備を整え、生産管理技術を習得する。予習段階で数量の見積もりなどを行っておく。			
11	101-110	my brand LOOK1の縫製1		効率性を考えて作業を進めるスキルを身につける。予習段階で工程表を熟読しておく。			
12	111-120	my brand LOOK1の縫製2		縫製の中盤仕上がり予測し中間工程を丁寧に進める技術を習得する。各パーツの仕上がりを確認する力を養う。			
13	121-130	my brand LOOK1の縫製3		全体の縫製作業を行う。縫製手順と自身のスピードを把握し計画性もち効率よく仕上げる事を習得する。			
14	131-140	my brand LOOK1の縫製4		全体の縫製作業を行う。仕上げ前に完成度を客観的に評価し、必要な修正や調整を行う力を養う。			
15	141-150	my brand LOOK1の縫製5		完成段階で仕上げアイロン、まとめ作業等仕上りの完成度を上げる。復習で効率を考慮した手順であったか確認し、次回への縫製作業に活かす。			

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-12	職業実践作品 ブランド作品 裁断・芯貼り	縫製者に渡す重要な裁断を丁寧にを行う。ズレがあると完成度に影響する。正確性が求められる。
2	13-23	my brand LOOK2・3 素材制作	制作物で使用する素材の特性を理解し、デザインに適切に反映できる力を養う。素材制作の表現力を高めるスキルを身につける。予習で材料の見積もりと準備を行う。
3	24-35	my brand LOOK2・3 裁断・芯貼り	作品制作の手順を効率的に設計するスキルを身に付ける。製造に入る準備を整え、生産管理技術を習得する。予習で裁断枚数を把握しておく。
4	36-47	my brand LOOK2 縫製1	効率性を考えて作業を進めるスキルを身につける。予習段階で工程表を熟読しておく。
5	48-59	my brand LOOK2 縫製2	縫製の中盤仕上がりを予測し中間工程を丁寧に進める技術を習得する。各パーツの仕上がりを確認する力を養う。
6	60-71	my brand LOOK2 縫製3	全体の縫製作業を行う。縫製手順と自身のスピードを把握し計画性も持ち効率よく仕上げる事を習得する。
7	72-83	my brand LOOK2 縫製4	全体の縫製作業を行う。仕上げ前に予習として完成度を客観的に評価し、必要な修正や調整を行う力を養う。
8	84-95	my brand LOOK2 縫製5	完成段階で仕上げアイロン、まとめ作業等仕上がりの完成度を上げる。予習で裏の糸切作業を行う。
9	96-107	my brand LOOK3 縫製1	効率性を考えて作業を進めるスキルを身につける。予習段階で工程表を熟読しておく。
10	108-119	my brand LOOK3 縫製2	縫製の中盤仕上がりを予測し中間工程を丁寧に進める技術を習得する。各パーツの仕上がりを確認する力を養う。
11	120-131	my brand LOOK3 縫製3	全体の縫製作業を行う。縫製手順と自身のスピードを把握し計画性も持ち効率よく仕上げる事を習得する。
12	132-143	my brand LOOK3 縫製4	全体の縫製作業を行う。仕上げ前に予習として完成度を客観的に評価し、必要な修正や調整を行う力を養う。
13	144-155	my brand LOOK3 縫製5	完成段階で仕上げアイロン、まとめ作業等仕上がりの完成度を上げる。
14	156-167	my brand LOOK1・2・3 最終縫製確認	3体の仕上がりを確認し、縫製による表現力を向上させる。裏の糸処理等、細部まで確認と検針を行い納品する。
15	168-180	まとめ	習得した内容の理解を深め、学んだ技術をまとめる。
準備学習 (予習・復習)		ソーイングのような実習教室等における授業に関しては、教室外における1時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、30時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		日々の作業における周辺環境、準備物にも注力し回を重ねるごとに精度を上げる。 企業デザイナーとしての実践である職出しを学ぶ。	

授業科目等の概要																								
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科										3年													
D P/ 学科人材育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。																							
分類	必修	○	選択		配当年次	3	年	学期	通年		前期	○	後期											
種別	服飾造形						授業形態	講義		演習	○	実習												
授業科目	ドレーピングⅢ						単位	1単位																
担当教員	竹内 真由美						職業実践専門課程：企業との連携																	
※実務家教員	○	アパレルブランド企画職での実務経験及び、企業パタンナーの指導育成、大学講師や個人向け教室を行ない、学ぶ人の習得度に合わせたきめ細やかな教育を実践。実用性の高い衣服制作の基礎的なドレーピング技術を伝授する。																						
資格検定												必修		選択										
授業概要	服飾の作図の1つの方法としてドレーピングを学ぶ。骨格、服作りの基本的な理論を踏まえトワルを直接ボディに合わせてながらフォルムを形成していくドレーピング技術を習得する事により、衣服の成り立ち、布の特質をより把握する。自らシルエットバランスを読み取れる力と感性を養う。平面パターンに展開するための作業における正確な技術を身につける。																							
学習成果	<ul style="list-style-type: none"> ① アパレルパタンナーとしてドレーピング基礎能力をつける。 ② 布の質感、流れ、ボリューム等を読み取れるスキルを付ける。 ③ バランスを感覚を読み取れる感性を身に付ける。 ※ 立体の基礎を習得しパターンカの幅を広げる。 						成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果		%	2	提出物/期限遵守	90	%	3	独創性/習熟度	5	%	4	意欲・授業態度	5	%
使 用 材	●KFDオリジナル実習プリント配布																							

前期 授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-2	4面構成のパネルラインワンピース1	2	2年次で行ったことの復習も兼ねてピンの打ち方を再度学び深める。後ろ身頃を組み立てる。ゆとりの入れ方の手の動きを復習する。ピンの打ち方を予習し繰り返すことで習熟させる。			
2	3-4	4面構成のパネルラインワンピース2	3	パネルラインのワンピースをドレーピング。ゆとりの入れ方ピンの打ち方を再確認し後ろ身頃を完成させる。			
3	5-6	4面構成のパネルラインワンピース3	4	前身頃をドレーピング。バランスを裏前から見たバランスと横から見たバランスを見れる感性を發揮させる。			
4	7-8	4面構成のパネルラインワンピース4	5	前後完成させる。組み上げたものを外し印の入れ方、ピン打ちを習得する。復習で再度確認することにより習熟度を高める。			
5	9-10	シャツカラー1	6	パネルラインのワンピースに衿を付ける。折り返しを考えながらピンの打ち方を学ぶ。予習でシャツカラーのパターンを把握しておく。			
6	11-12	シャツカラー2	7	衿幅の考え方を理解し、衿を完成させて印付けを行う。復習で反復練習を行う。			
7	13-14	基本の袖 袖の目	8	袖の考え方理解し、プリンセスラインのショート丈ワンピースのアームホールに袖の目の作図を行う。			
8	15-16	基本の袖 2枚袖	9	前回学んだ、袖の目の作図を利用し2枚袖を制作。パネルラインのワンピースに袖を付ける。			
9	17-18	ラグランスリーブのデザインアイテム1	10	デザインに合わせ、フレア分量やゆとりを考え後ろ身頃を制作する。予習でラグランスリーブパターンの把握をしておく。			
10	19-20	ラグランスリーブのデザインアイテム2	11	デザインに合わせ、フレア分量やゆとりを考え前身頃を制作する。			
11	21-22	ラグランスリーブのデザインアイテム3	12	身頃を完成させバランス感覚を身に付ける。復習で習得した技術をまとめる。			
12	23-24	ラグランスリーブのデザインアイテム4	13	ラグランスリーブの考え方を理解し身頃に袖を付ける。			
13	25-26	ラグランスリーブのデザインアイテム5	14	ラグランスリーブの考え方を理解し袖を完成させる。			
14	27-28	ラグランスリーブのデザインアイテム6	15	デザインバランスを完成させ客観バランス感覚を養う。復習で反復練習を行い資料にまとめる。			
15	29-30	まとめ	今まで学んだことを再確認する。				
準備学習(予習・復習)	演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。						
その他(授業に際しての注意点)	基礎であるハサミの使用方法、ピンの打ち方等を習得し、自らシルエットバランスを読み取れる力と感性を養う。また、他の授業制作物でドレーピングを活用することにより、技術向上する。						

授業科目等の概要															
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 3年														
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。														
分類	必修	<input type="radio"/>	選択	<input type="checkbox"/>	配当年次	3	年	学期	通年	<input type="radio"/>	前期	後期			
種別	デザイン						授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="radio"/>	実習			
授業科目	ドローイングⅢ						単位	2単位							
担当教員	舞田 章子						職業実践専門課程：企業との連携								
※実務家教員	<input type="radio"/>	他校講師ならびに自身のコンクール入賞経歴を経て評価を得ている。ドローイングの表現力を最終学年用に伝授する。													
資格検定												必修	<input type="checkbox"/>	選択	<input type="checkbox"/>
授業概要	デザイナーとして他者に提案するスタイル画を描く事はもちろん布の微妙な色使いや、材質を表現できるよう、様々な表現方法を学んでいく。最上級生として各コンテストに応募しその中でコンセプトの書き方、素材の表現方法も学ぶ。またブランドプロデュースの授業内容と連動しオリジナルブランド製品のスタイル画をまとめる。同時に日々のトレーニングによりアパレルデザインとして実販につながるスタイル画法を習得する。※コンテスト作品への対応を行う為、前後期イレギュラーな回数で行うが、通年で換算することとする。														
学習成果	①	正確なアパレルデザイン画を描けるスキルを身につける。						成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果			%		
	②	デザイナーとして他者に伝わるデザイン画を描ける。							2	提出物/期限遵守		80	%		
	③	クリエイティブで感性に伝わるデザイン画を描ける。							3	独創性/習熟度		10	%		
	※	デザイナーに必須なドローイングスキルを身につける。							4	意欲・授業態度		10	%		
使用教材	●KFDオリジナル実習プリント配布 ●ドローイングセット														

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-2	YKKファスニングアワード作品 着彩1		コンテストの傾向を分析し、コンセプトに基づいたスタイル画表現と平面レイアウトを学ぶ。			
2	3-4	YKKファスニングアワード作品 着彩2		ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。予習でエントリーシートも記入し表現力の習熟度を高める。			
3	5-6	ナゴヤファッションコンクール作品		コンテストの傾向を分析し、短期間でスタイル画を仕上げる力を養う。効果的な着彩方法を学ぶ。			
4	7-8	リクローズカップ作品1		コンテストの傾向を分析し、コンセプトに基づいたスタイル画表現と平面レイアウトを学ぶ。			
5	9-10	リクローズカップ作品2		ドローイングによるイメージの具現化を行い、表現能力を高める。復習で伝わりやすい文章になっているか、エントリーシートも確認する。			
6	11-12	日暮里ファッションコンテスト1		コンテストの傾向を分析し、短期間でスタイル画を仕上げる力を養う。効果的な着彩方法を学ぶ。レイアウト力の完成度を高める。予習段階で素材を準備しておく。			
7	13-14	日暮里ファッションコンテスト2		着彩し表現力を高め完成させる技術を身につける。予習・復習として配色や着彩表現の研究を行う。			
8	15-16	全国ファッションデザインコンテスト1		コンテストの傾向を分析し、短期間でスタイル画を仕上げる力を養う。効果的なボーミングを考えレイアウトする。			
9	17-18	全国ファッションデザインコンテスト2		着彩し表現力を高め完成させる技術を身につける。予習・復習として配色や着彩表現の研究を行う。			
10	19-20	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール1		コンテストの傾向を分析し、コンセプトに基づいたスタイル画表現と平面レイアウトを学ぶ。予習で構成を考えておく。			
11	21-22	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール2		独自の視点やアイデアで、設定されたテーマに沿って表現する力を養う。沢山のラフスケッチを描きイメージをアウトプットする力を養う。			
12	23-24	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール3		効果的な人体のボーミングやレイアウトのを検討し、背景を含めた全体の平面構成力を高める。			
13	25-26	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール4		ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。予習・復習で納期に完成させられるよう、計画を立て実行する。			
14	27-28	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール5		表現したいものの効果的な着彩方法を学ぶ。予習段階で画材の種類を決めておく。			
15	29-30	文化服装学院連鎖校全国スタイル画コンクール6		着彩による素材・ディテール表現力を身につける。伝えたいことが明確に表現できているか、客観的に見直し調整を行うことで、主観的な感情やバイアスから離れ、作品を評価する能力を養う。			

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	my brand look1 デザイン画1	自身のブランドイメージをどうスタイル画で表現するか、考察しポーズから描く。予習で3体のバランスを考えておく。
2	3-4	my brand look1 デザイン画2	表現したいものの効果的な着彩方法を学ぶ。予習で画材の準備と手法を考える。
3	5-6	my brand look1 デザイン画3	着彩による素材・ディテール表現力を身に付け完成させる。
4	7-8	my brand look2 デザイン画1	自身のブランドイメージをどうスタイル画で表現するか、考察しポーズから描く。
5	9-10	my brand look2 デザイン画2	コンテストの傾向を分析し、コンセプトに基づいたスタイル画表現と平面レイアウトを学ぶ。予習で構成を考えておく。
6	11-12	my brand look2 デザイン画3	着彩による素材・ディテール表現力を身に付け完成させる。
7	13-14	my brand look3 デザイン画1	自身のブランドイメージをどうスタイル画で表現するか、考察しポーズから描く。表現力を養う。
8	15-16	my brand look3 デザイン画2	再度効果的な人体のポーズやレイアウトの検討を行い、下書きを進める。
9	17-18	my brand look3 デザイン画3	着彩による素材やディテールの表現力を身につけ、3体の完成度を高める。予習で3体の全体バランスを整え、復習で最終仕上げを行う。
10	19-20	全国服飾学校スタイル画コンテスト1	コンテストの傾向を分析し、コンセプトに基づいたスタイル画表現と平面構成を学ぶ。
11	21-22	全国服飾学校スタイル画コンテスト2	着彩による素材・ディテール表現力を身に付ける。予習段階で着彩方法を決めておく。
12	23-24	全国服飾学校スタイル画コンテスト3	仕上げ作業で魅せたい部分をより伝わりやすく表現するためのドローイング力を養う。
13	25-26	my brand デザイン 早描き1	早描きによって流行を抑えたデザイン画を制作し、アイデアを素早く具現化する力を養う。また、短時間で表現の要点を捉えるスキルを身につけ、ブランドデザインに応用できる表現力を高める。
14	27-28	my brand デザイン 早描き2	デザイン画におけるディテール表現や配色の工夫を意識する力を養う。短時間でポイントを押さえた表現ができるようにし、ブランドデザインに応用可能なスキルを向上させる。
15	29-30	ドローイング まとめ	3年間の総まとめ。ドローイングによるイメージの具現化、表現能力を高める。ファイル整理をし、整理整頓力を高める。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		各項目の事前準備としてラフ案提出。各作品は服飾デザインⅢ、パターンメイキングⅢ、ソーイングⅢと連携し文化祭、卒業記念展において発表。又各種コンクールに応募する。また、ブランドプロデュース作品において企業デザイナー用スタイル画力をつける。	

授業科目等の概要														
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科										3年			
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。													
分類	必修	○	選択		配当年次	3	年	学期	通年	○	前期	後期		
種別	服飾造形						授業形態	講義		演習	○	実習		
授業科目	パターンメイキングⅢ						単位	11単位						
担当教員	内田 智子・大古場 真由美						職業実践専門課程：企業との連携			○				
※実務家教員	○ 内田:アパレル会社の企画デザイナーにて、デザイン、パターン、生産管理など一連の実務を行なった後、DIP業務、販売経験を培ってきた、実務を生かし教授する。 大古場:アパレルメーカーでの実務経験で培った知識を伝授する。職業訓練指導員の資格を活かし効率よく技術を教える。また、国家資格技能検定・婦人子供服製造技能士1級で取得した技術を活かし、基礎能力を高め、身につけさせる。													
資格検定											必修	選択		
授業概要	企業パタンナーに求められる、フォルムバランスのとれたデザインパターンの制作、効率的な工業用パターンの制作を学ぶ。アパレル企業、企画者に適応したオリジナルパターンのとらえ方を習得する。各アイテムに対する基本スローパーの考え方を導入する。クリエイション作品など、表現に特化したパターンメイキング法を講義、実技、演習を通して学習する。													
学習成果	① アパレル企業パタンナーに必要なパターンスキルを習得する。		② 独創性のあるクリエイション作品のパターン力を身につける。		③ 企画者としての実務能力を習得する。		※ パタンナーとして仕事をしていく能力の習得		成績評価方法 (右記の評価を基準に平均点で算出)		1	定期試験結果	80	%
											2	提出物/期限遵守	10	%
											3	独創性/習熟度	10	%
											4	意欲・授業態度		%
使 用 材	●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●講座 工業用パターンメイキング ●KFDオリジナル実習プリント配布													

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習(予習・復習)内容			
1	1-11	確認テスト 原型について 胸ぐせダーツの理解	2年間学んできたパターンメイキングを振り返り、習得度を確認する。予習でダーツ移動の操作を確認する。				
2	12-22	オーバーシルエットのシャツトライアル	市場性を意識したサイズバランスを捉える。時間内の中で写真からデザインパターンを読み取る力を養う。復習でもう一度引くことで習熟度が高くなる。				
3	23-33	重衣料・ラグランスリーブのパターン基礎	ラグランスリーブ基礎を学ぶ。また、重衣料である厚地生地の特徴を知りゆとり分量の入れ方なども習得する。教科書を熟読し、授業後に再度パターンを引くことで理解が深まる。				
4	34-44	my brand 重衣料のファーストパターン制作1	ラグランスリーブのコートの作図、厚地コートの平面作図及び仕様への構成力の習熟。正確な平面作図能力の習得。予習で上り寸法を決めておく。				
5	45-55	my brand 重衣料のファーストパターン制作2	厚手素材の仕様に対応し、展開方法など適したパターンへの理解を深め習熟する。				
6	56-66	my brand 重衣料のトワル修正 工業用パターン作成	ターゲットに合わせたシルエット検証ができているか、修正をかける。仕様に合わせて工業用パターンを完成させる。縫製者に伝わるパターンを作図する。量産可能な工業用パターンへ完成させる。				
7	67-77	my brand LOOK1 パターン1	クリエイション作品のパターンを制作し、サイズ感を意識した作図スキルを身につける。また、予習・復習を通して作図のゆとり入れ方を確認する。				
8	78-88	my brand LOOK1 トワル組立て	クリエイション作品のパターンをトワルで確認し、コンセプトの意図やデザインの表現が正しく再現されているか検証する力を養う。また、予習・復習を通して改善点やサイズ感・バランスを振り返る。				
9	89-99	my brand LOOK1 トワル修正	デザインが意図通りに表現できているかを考え、必要に応じて修正する力を養う。また、客観的に作品を評価し、改善点を見つけて反映する力を育てる。				
10	100-110	my brand LOOK1 修正パターン	トワルの修正をパターンでも修正をかけた工業用パターンにする前の段階にする。復習で仕様を考えておく。				
11	111-121	my brand LOOK1 工業用パターン	仕様や工程を理解した上で工業用パターンを作成させる。ノッチの位置や仕様を考慮できているか確認を行う。量産可能な工業用パターンへ完成させる。				
12	122-132	職業実践専門課程 ブランド作品 作図	オリジナリティと市場性を意識したパターンにチャレンジする。予習段階として上り寸法を定め、作図手順を考えて作図に入る。				
13	133-143	職業実践専門課程 ブランド作品 トワル組み立て・修正	トワル組み、シルエットやバランスをみて修正する実務能力を高める。予習復習でデザインを実際のパターンに正しく落とし込んでいるかを検証する。				
14	144-154	職業実践専門課程 ブランド作品 工業用パターン	市場性とデザインに整合の取れた仕様決定能力を磨き、仕様に合わせて工業用パターンを完成させる。縫製者に伝わるパターンを作図する。				
15	155-165	前期試験対策トライアル	トライアル実践を通し、全体のバランス、仕様の正確な読み取り、縫製を考慮したパタンナーとしてのスキルを向上させる。				

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-9	試験解説	前期試験の解説を行い、理解が不十分だった内容の強化を図る。試験後は、できなかった問題や未習得の部分を復習し、理解の定着を目指す。
2	10-18	基礎的なパターン復習	袴・袖・カフスなどの基礎的なパターン作図を行う。仕様を見据えているかを確認しながら、復習も兼ねて基礎力の定着を図る。
3	19-27	my brand LOOK2ファーストパターン1	クリエイション作品のパターン制作を行う。コンセプトデザインに基づき、意図を正確に反映したパターンを作図する。
4	28-36	my brand LOOK2ファーストパターン2	LOOK1とバランスを踏まえて、サイズ感を考慮し制作する。コンセプトを表現出来ているかパターンのシルエットを復習で見直す。
5	37-45	my brand LOOK3ファーストパターン1	クリエイション作品のパターン制作を行う。コンセプトデザインに基づき、意図を正確に反映したパターンを作図する。
6	46-54	my brand LOOK3ファーストパターン2	LOOK1・2とバランスを踏まえて、3体のバランスが取れているか見直す。
7	55-63	my brand LOOK2・3 トワル組み立て1	コンセプトに基づいたデザインを立体として再現する力を養う。デザイン画をもとにパターンへ落とし込む技術を習得する。
8	64-72	my brand LOOK2・3 トワル組み立て2	トワル制作を通して、シルエット・バランス・構造を検証する力を養う。
9	73-81	my brand LOOK2・3 トワル修正	トワル検証を通して、コンセプトに合致したシルエットへ修正・完成度を高める。復習で客観的にデザインがトワルで表現できているか確認する。
10	82-90	my brand LOOK2・3 工業用パターン1	トワル修正を反映し、仕様と工程を踏まえたパターン作成を行う。ノッチの必要箇所を予習で把握しておく。
11	91-99	my brand LOOK2・3 工業用パターン2	デザインと仕様の整合性がとれ、工程を理解した上で工業用パターンを作成させる。復習で抜け漏れがないか確認作業を行う。
12	100-108	デザインパターンメイキング トライアル1	基礎的なパターンメイキング技術を復習し、応用に活かす力を養う。また、デザインを実際のパターンに正しく落とし込んでいるかを検証し、表現力と精度を高める。
13	109-117	デザインパターンメイキング トライアル2	反復作業によって、よりデザインパターンメイキングの正確さと合理性を習得する。復習で仕上げたトワルの修正箇所を把握する。
14	118-125	後期試験対策	ここで更にパターンへの理解を深める。どんなデザインに対してもパターンメイキングできる技術能力を高める。
15	126-135	後期試験解説・まとめ	習得した内容の理解を深める。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		各講義ともに、実習準備として各自1/2パターン、及びトワル作成の課題あり。 プロデュースショー作品は、福岡市障がい者週間記念イベント内において、ファッションショー発表。 ブランド2作品以上と職出しの作品1作品は、卒業記念展ファッションショーで発表。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科										3年		
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。												
分類	必修	○	選択		配当年次	3	年	学期	通年	○	前期	後期	
種別	企画						授業形態	講義		演習	○	実習	
授業科目	ブランドプロデュースⅢ						単位	2単位					
担当教員	内田 智子						職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員	○	アパレル会社の企画デザイナーにて、デザイン、パターン、生産管理など一連の実務を行なった後、DTP業務、販売経験を培ってきた、実務を生かし教授する。											
資格検定												必修	選択
授業概要	世界観のあるブランドを立ち上げ、自分の思いや形、感性をブランドを通して発信させる。これからの市場・社会・経済を踏まえた企画を立案できる力を付け、売れるデザインを生み出すことを目標とする。また、クリエイション作品のポートフォリオ・ブランドの企画書制作も行い、人に伝え視覚的効果を与えるビジュアルデザイン力も身につける。												
学習成果	①	市場の動きを考え、ブランド戦略を考える力を身につける。						成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果			%
	②	売れる商品展開を考える力を身につける。							2	提出物/期限遵守		50	%
	③	伝わる資料作りを考え習得する。							3	独創性/習熟度		30	%
	※	新しい視点で、市場を考えた企画を生み出す力を付ける。							4	意欲・授業態度		20	%
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ●ファッション・マーケティング ●KFDオリジナル実習プリント配布 ●織研新聞・雑誌 												

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-2	my brandの再定義		1・2年次に立ち上げたブランドのビジョンを再考する。そのブランドの定義を明確にし、社会との関わりについて考察する。
2	3-4	my brandの存在意義の明確化		brandステートメントを考える。予習段階で箇条書きで存在意義を掲げておく。
3	5-6	ポジショニングマップの作成		自身のブランドの市場内での立ち位置を可視化する。競合との比較を通して差別化要素を明確にし、戦略的視点を養う。予習段階でMAPの資料を収集を行っておく。そして、授業後に再びMAPの完成度を高める。
4	7-8	ターゲット精査と価格帯の決定		授業前に想定する顧客像を具体化し、商品企画との整合性を確認するターゲットに適した価格帯を設定を行い、戦略的思考を養う。
5	9-10	3年事業計画 3年間の展望		3年間の事業展望を具体的に描き、段階的な成長戦略を設計する力を養う。授業後に事業計画書を完成させ提出。
6	11-12	売上げ目標設定		根拠に基づいた売上目標を設定し、実現可能な計画を立てられるようにする。予習段階でおおよその価格を設定しておく。
7	13-14	ムードボードの作成		ブランドやプロジェクトの視覚的な方向性・世界観を整理するボード作成。写真、色、素材、フォント、テキストなどを集め、感覚的・雰囲気的な共通イメージを可視化。予習で材料を集めておく。
8	15-16	my brand プレゼンテーション準備		自分が作ったブランドや企画をプレゼンすることで、客観的視点を持つ。自己評価や好き嫌いだけで判断せず、論理的に強み・弱みを整理し発表の準備をする。
9	17-18	my brand プレゼンテーション		自身のブランドを客観的・批判的に分析する力を養う。弱点や課題を明確にし、改善策を講ぎ出す思考力を身につける。感情ではなく根拠に基づいた分析力を高める。
10	19-20	課題再定義と改善策立案1		前授業からの課題を再確認して、解決策を考える。明確・実務的に整理する。予習段階で改善箇所を把握しておく。
11	21-22	課題再定義と改善策立案2		現状課題を正しく理解・修正し、具体的な解決策を作る。改善プラン作成。
12	23-24	シーズンテーマの確定		コレクション全体の軸となるシーズンテーマを明確にする。デザイン・素材・カラー・価格戦略と一貫性のある方向性を決定する。テーマは予習で決めておく。
13	25-26	コレクション構成設計		コレクション全体のテーマとの整合性確認しシーズン性・ターゲットとの適合性を検討。全体のストーリー構成を設計する。復習で客観視しブランドとの整合性を図る。
14	27-28	アイテム構成		ブランドや製品ラインにおける各アイテムを考える。単品の企画ではなく、全体としてのバランス・戦略性を意識することが重要。SKUを予習段階で決定させておく。
15	29-30	価格設計 上代設定理由		商品の上代 (販売価格) を戦略的に設定する力を養う。感覚ではなく、根拠に基づいた価格決定ができるようにする。

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-4	販売戦略の具体化1	ターゲット顧客に最適なアプローチ方法を明確にする。商品・ブランドの価値を最大化し、売上や認知度を向上させる。実行可能で評価可能な施策に落とし込む。予習で市場の販売方法を調べておく。
2	5-8	販売戦略の具体化2	ブランドの価値を再確認し、商品展開を踏まえた戦略を決定する力を養う。また、予習・復習を通して、ブランドの顧客に対して的確な戦略かどうかを検証する。
3	9-12	ビジュアル戦略	ブランドの世界観をビジュアルで更により良く伝える。商品や広告に統一して使用。色や質感など印象に与える効果を考慮。ブランドの象徴として、認知と記憶に残るデザインを考える。
4	13-16	my brand ブック制作1	これまで考えてきたブランドをBOOKにまとめる。ページ構成を考え、伝わるBOOKを制作する。構成能力の習熟を図る。予習で参考になる資料を準備しておく。
5	17-20	my brand ブック制作2	ブランドの核となるコンセプトを明確化しビジュアル・文章やMAPで伝える。予習段階でブランドの販売・発信計画を提示し、ブランドの視覚表現を明確化させる。
6	21-24	my brand ブック制作3	ブランドストーリーページの作成。ブランド誕生の経緯、ブランド理念の説明。ブランドの世界観や価値観を文章と図解で整理する。
7	25-28	my brand ブック制作4	ブランド内のアイテム構成をビジュアル化。商品ラインナップ、カテゴリ、ターゲットとの関連性を整理しSKU、価格帯、役割を提示する。ブランド世界観の一貫性を最終確認する。
8	29-32	my brand ポスター制作1	ブランドのコンセプトをポスターで正確かつ魅力的に伝える。職出し作品をポスターに入れる。
9	33-36	my brand ポスター制作2	前授業からの課題を再確認し、より良く伝わるポスターデザインを完成させる力を養う。また、予習・復習を通して表現の伝わりやすさやデザインの効果を検証する。
10	37-40	模擬販売 計画1	模擬販売を実施する前に展示方法を考え、宣伝活動を行い、販売活動の流れを把握し計画を立てる。
11	41-44	模擬販売 計画2	展示方法や宣伝活動の計画をもとに、商品の準備や販売方法を考え、模擬販売の実施に向けた準備を行う。
12	45-48	外部発信準備	ブランドの世界観と一貫性を最優先に考え、模擬販売に向けて準備を行う。ターゲットに響く表現かどうかを必ず確認し宣伝を行う。
13	49-52	模擬販売実施1	ブランドや商品コンセプト、販売方法の初期テスト。顧客対応や販売フローの練習を行い商品の魅力が顧客に伝わるかを検証する。
14	53-56	模擬販売実施2	1回目のフィードバックを反映し、販売戦略・接客・演出を改善しブランド・商品の魅力を最大化して販売体験を行う。
15	57-60	最終講評 まとめ	総合的な振り返り、成功体験や改善ポイントを共有し深める。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		授業意欲として常に美術館・雑誌・新聞などのデザインに関する全ての情報を見て感性を高める。また、織研新聞を常に読みアパレル業界の今、これからの考えられる知識を身につける。 ポートフォリオ・営業台帳は授業外で制作する必要があるため、課題は提出期限を厳守すること。 提出が遅れると課題が蓄積する恐れがある。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 3年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。												
分類	必修	○	選択		配当年次	3	年	学期	通年	○	前期	後期	
種別	企画						授業形態	講義		演習	○	実習	
授業科目	プロデュースショーⅠ						単位	1単位					
担当教員	内田 智子 ・ 大古場 真由美						職業実践専門課程：企業との連携						
※実務家教員	○	内田:アパレル会社の企画デザイナーにて、デザイン、パターン、生産管理など一連の実務を行なった後、DTP業務、販売経験を培ってきた、実務を生かし教授する。 大古場:アパレルメーカーでの実務経験で培った知識を伝授する。職業訓練指導員の資格を活かし効率よく技術を教える。また、国家資格技能検定・婦人子服製造技能士1級で取得した技術を活かし、基礎能力を高め、身につけさせる。											
資格検定												必修	選択
授業概要	ファッション業界で企画に携わるにあたり、表現方法のひとつとしてファッションショーを企画・演出・プロデュースする。3年次ではウォーキング、舞台構成、音楽、照明、プロモーションを含めた立案、演習をクリエーションショー、ワークショップたちばなどのコラボレーションファッションショーを通じて学ぶ。 ※前後期レギュラーな回数で行うが、通年で換算することとする。												
学習成果	①	衣服を美しくみせる表現力の習得。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果			%	
	②	演出によるコンセプトの伝達力を養う。						2	提出物/期限遵守		20	%	
	③	企画案を成功に導くプロセスを学ぶ。						3	独創性/習熟度			%	
	※	ショー運営するにあたり、計画性・実効性を養う。						4	意欲・授業態度		80	%	
使用教材	●DVD (前年度卒業記念展・コンテストDVD等)												

前期授業計画 (4月-9月)				授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容			
1	1-2	ワークショップたちばな様 ファッションショー立案		イベントの目的を理解し、ステージのコンセプトを設定する。他者へ伝えるコンセプトの具体的なビジュアルや言葉表現する力を養う。			
2	3-4	ワークショップたちばな様 現地訪問1		就労支援事業所へ訪問しワークショップたちばなの皆様の活動内容を観察し、気付いた点を整理・共有することで、対象者や環境を理解する観察力を養う。			
3	5-6	ワークショップたちばな様 現地訪問2		現地で得た情報をもとに、どのようなスタイリングやカラーが適しているかを検討し、モデルとなる対象者との対話を通して理解を深めることで、発想力とコミュニケーション力を養う。			
4	7-8	ワークショップたちばな様 現地訪問3		訪問を通して得た気付きや発見を整理し、ファッションデザインとしてどのように表現できるかを検討することで、調査内容をデザインへ展開する思考力を養う。			
5	9-10	ワークショップたちばな様 現地訪問4		傾聴力を養い、相手の思いをくみ取る力を付ける。対話を通し、情報収集力を身に付ける。			
6	11-12	ワークショップたちばな様 グループワーク1		デザインの視点から課題を分析し、解決方法について意見交換を行いながら制作の方向性を定めることで、課題解決力と創造的思考力を養う。			
7	13-14	ワークショップたちばな様 グループワーク2		素材、カラー、シルエットなどの要素を検討し、グループで共有しながらデザイン案を具体化することで、表現力とデザイン構成力を養う。			
8	15	ワークショップたちばな様 デザイン決定		グループで表現するデザイン案を検討し、役割分担や制作計画を立てながら最終的なデザインを決定することで、企画力と実践的な制作力を養う。			
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	ワークショップたちばな様 衣装フィッティング準備	裏方の仕事、ショーの運営を学ぶ。着用者が心地よく試着ができる試着会場の準備を通し、おもてなしの心を育む。
2	3-4	ワークショップたちばな様 衣装フィッティング1	試着をサポートし、着用者がより美しく見えるよう衣服の調整を行う。
3	5-6	ワークショップたちばな様 衣装フィッティング2	コーディネート物も踏まえてモデルさんの意向も考慮しバランスを見る。予習で、コーディネート物の方向性を決めておく。
4	7-8	ワークショップたちばな様 衣装フィッティング3	気配りを行い、フィッティングが終わった後も自ら動き社会人として必要な行動を学ぶ。
5	9-10	ワークショップたちばな様 コラボレートファッションショー本番1	裏方の仕事、ショーの運営を学ぶ。着用者が心地よく試着ができる試着会場の準備を通し、おもてなしの心を育む。
6	11-12	ワークショップたちばな様 コラボレートファッションショー本番2	衣装とモデルに合わせたメイクとヘアセットを行い、モデルの気持ちを盛り上げるサポートを学ぶ。
7	13-14	ワークショップたちばな様 コラボレートファッションショー本番3	チームワークで裏方の仕事をする力を養う。
8	15	ワークショップたちばな様 コラボレートファッションショー本番4	目配り気配りでモデルをサポートし、コミュニケーション力を向上させる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		ショーの企画、準備から片付けまで一連のショー運営を学ぶ。 ※障がい者週間記念の集いイベント及び卒業記念展の状況により変更の可能性あり。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 3年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。												
分類	必修	○	選択		配当年次	3	年	学期	通年	○	前期	後期	
種別	流通・販売						授業形態	講義		演習	○	実習	
授業科目	市場調査Ⅲ						単位	1単位					
担当教員	内田 智子						職業実践専門課程：企業との連携					○	
※実務家教員	○	内田：アパレル会社の企画デザイナーにて、デザイン、パターン、生産管理など一連の実務を行なった後、DTP業務、販売経験を培ってきた、実務を生かし教授する。											
資格検定												必修	選択
授業概要	企業デザイナー又は企画のプロデュース・プランニングを行うにあたり市場のニーズ、時代の推移を読み取る力を養う。又、ブランドプロデュースと連動し、ディテール研究、素材リサーチ、フォルムやカラーの展開、商圏、販促を系統だててまとめる力をつける。及び平面画を描く力をつける。												
学習成果	①	市場から支持される服を見極める力を養う。						成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果			%
	②	市場からデザイン・仕様・カラー展開を調査する力をつける。							2	提出物/期限遵守		90	%
	③	デザインの発想力を養う。							3	独創性/習熟度		10	%
	※	マーケットを見ることにより消費者ニーズを掴み取る							4	意欲・授業態度			%
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●織研新聞 ●WWD ●雑誌 												

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	ハイブランド市場調査1 (デザイナーズブランド)	ハイブランドのデザイン・パターン・素材・縫製仕様を観察し、制作物に活かせる知識を身につける。予習で調査対象ブランドや商品情報の事前確認を行う。
2	3-4	ハイブランド市場調査2 (デザイナーズブランド)	見てきた情報をまとめ資料として整理し、デザインや縫製に反映できる分析力を育てる。
3	5-6	リサーチ報告会	ハイブランドの観察結果を整理し、他者と共有することで考察を深める力を養う。また、自分が伝えたいポイントを明確にし、資料や口頭で的確に表現できるスキルを身につける。
4	7-8	競合ブランドのリサーチ1	競合ブランドをリサーチし、デザインだけでなく縫製仕様まで分析する力を養う。さらに、競合の今期テーマを把握し、服への落とし込みや市場性を考察できるスキルを身につける。
5	9-10	競合ブランドのリサーチ2	調査結果を資料にまとめ、制作物やデザイン戦略に活かす力を育成する。復習では追加でリサーチが必要なブランドも選定し、幅広い情報収集力を高める。
6	11-12	セレクトショップの市場調査1	中価格帯以上のセレクトショップを調査し、感度を高めるとともに、素材・縫製・デザインなどの細かなディテールを収集する力を養う。予習でセレクトショップのSNS等SHOPのイメージを確認する。
7	13-14	セレクトショップの市場調査2	収集した情報を整理し、制作物やデザインに応用できるスキルを身につける。また、復習では、さらに対比させたいショップを観察することで、デザインやディテールの比較分析力を高める。
8	15	トレンドの共有発表	グループワークで見てきた内容を共有することで、他のブランド情報や異なる視点を学び、分析力や比較力を高める。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	ブランドポスター、下げ札、商品タグ等、広報物の調査1	ビジュアルで伝える力のあるブランドをリサーチ分析。配置バランスやブランドの特色をどう表現しているか分析する力を養う。
2	3-4	ブランドポスター、下げ札、商品タグ等、広報物の調査2	ビジュアルで伝える力のあるブランドの広報物はどのような手法で消費者へ伝えているかまとめる。
3	5-6	秋冬の新作商品を調査1	競合ブランドも含む中価格帯以上の秋冬商品を調査し、予習で見学するショップを計画・選定して実施する。
4	7-8	秋冬の新作商品を調査2	上記のブランドとは異なるテイストや客層のブランドで、中価格帯以上の秋冬打ち出し商品を調査。いち早く購入する消費者の動向も見る。
5	9-10	トレンドの共有発表	グループワークで見えてきたものを共有することで、他のブランド情報を知ることができ、プレゼンテーションする力も身に付ける。
6	11-12	販売方法を調査	各ブランドの販売方法を知り消費者に向けてアプローチしているか、興味深いブランドを探し4~6ブランド見つけまとめる。
7	13-14	春の新作商品を調査	春の打ち出し商品を調査。閑散期ではあるが、いち早く並ぶ春の店頭を調査する。春の打ち出し商品の特性を把握する。
8	15	まとめ	これまでに調査してきた情報を整理・分析し、デザインや制作物に活かす力を養う。また、来年度の市場動向も考慮し、戦略や提案に反映できる視点を身につける。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		マーケットを見ることは極めて重要な授業内容である。ここで見てきたものから、制作物に生かしていく必要がある。	

授業科目等の概要

学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 3年											
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。											
分類	必修	○	選択	配当年次	3	年	学期	通年	○	前期	後期	
種別	デザイン						授業形態	講義	演習	○	実習	
授業科目	服飾デザインⅢ						単位	4単位				
担当教員	内田 智子						職業実践専門課程：企業との連携			○		
※実務家教員	○	アパレル会社の企画デザイナーにて、デザイン、パターン、生産管理など一連の実務を行なった後、DTP業務、販売経験を培ってきた、実務を生かし教授する。										
資格検定											必修	選択
授業概要	感性を創作へと作品化する、制作及びコーディネートを含む表現を学ぶ。クリエイション性高い各種コンクール作品に対応する一方で、リアルクローズの製品制作で市場ニーズをとらえたデザイン力をつける。ブランドプロデュース、パターンメイキング、ソーイング、アパレルCAD、ドローイングと連携をし作品発表する。											
学習成果	①	服飾デザイナーとしての資質、問題解決能力を養う。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果		%	
	②	デザインと、社会、環境、経済などとの関連を理解する。						2	提出物/期限遵守		10 %	
	③	主観から離れ客観的な視点でデザインを見る能力を養う。						3	独創性/習熟度		80 %	
	※	デザイナーとしてのポテンシャルを高める。						4	意欲・授業態度		10 %	
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾関連専門講座⑨ ●雑誌 mode et mode他 											

前期授業計画 (4月-9月)

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習 (予習・復習) 内容
1	1-8	コンテストデザイン レイアウトバランス	コンテスト応募に向けて、紙面上のレイアウト構成の基礎を学び、視覚的訴求力・情報整理力・表現意図の明確化を踏まえた構成力を養う。
2	9-12	コンテストデザイン YKKファスニングアワードに向けて1	YKKファスニングアワードに応募する作品のアイデアを発想から、新規性や実現可能性を検討する。
3	13-16	コンテストデザイン YKKファスニングアワードに向けて2	前回のアイデアをもとにブラッシュアップを行う。また、サンプル制作を通じてアイデアを具体化し、改善点を確認する。
4	17-20	my brand コレクションテーマ・コンセプトについて1	自身のブランドにおけるコレクションの方向性や世界観を明確にする。予習段階で構想を練る必要がある。
5	21-22	my brand コレクションテーマ・コンセプトについて2	前回設定したコレクションテーマ・コンセプトをブラッシュアップし、具体的なデザイン方向性を明確にするブランドの世界観と作品との一貫性を確認する。
6	23-24	my brand テキスタイルデザイン	自身のブランドに合ったテキスタイルデザインを企画・制作できる力を養う。ブランドの世界観やコンセプトを生地・模様・組成のデザインに反映させる。
7	25-28	my brand 重衣料デザイン出し	自分のブランドにおける重衣料のデザイン方向性を考え、複数案を予習で作成する。授業ではアイデアを比較検討する基礎力を養い、デザインの幅を広げ、ラフ画を更に描く。
8	29-32	my brand 重衣料デザイン決定	前回のアイデアをもとにブラッシュアップを行い、制作する重衣料のデザインを決定させ、細かなディテールや仕様を考える。
9	33-36	コンテストデザイン ナゴヤファッションコンテスト1	コンテスト応募に向けて、コンセプトの方向性やテーマを明確にする。アイデア発想力と企画力を養い、独自性のあるコンセプトを設定する。
10	37-40	コンテストデザイン ナゴヤファッションコンテスト2	前回設定したテーマ・コンセプトをブラッシュアップし、具体的なデザイン方向性を明確にするアイデアをサンプル制作により具体化し、実現可能性を検討する。
11	41-44	コンテストデザイン リクロースカップ1	既存の衣服や素材を活かし新たな価値を生み出すリデザインのコンセプトを設定する。新規性のある方向性を明確にし、アイデア発想力と企画力を養う。サンプル制作を予習・復習で制作しておく。
12	45-48	コンテストデザイン リクロースカップ2	収集・制作した素材サンプルをデザインに反映させ、作品の魅力は紙面上で表現できる力を養う。デザイン構成を通じて、作品で伝えたい意図を明確化する。
13	49-52	コンテストデザイン 日暮里ファッションコンテスト 全国ファッションデザインコンテスト	コンテスト応募に向けて、コンセプトの方向性やテーマを明確にする。アイデア発想力と企画力を養い、独自性のあるコンセプトを設定する。
14	53-56	コンテストデザイン ポートフォリオ制作1	デザインのコンセプトを整理し、ポートフォリオにまとめる目的を理解し、前回のデザイン課題やアイデアを振り返り、テーマを明確化を行う。ポートフォリオ作成の方向性を決定できる。
15	57-60	コンテストデザイン ポートフォリオ制作2	今まで集めた資料、参考事例、素材サンプルを整理し、どのようにまとめるかを検討する。情報やアイデアを体系的に整理し、ポートフォリオとして効果的に見せる構成力を身につける。

通年

2026年 ファッションクリエイティブデザイン科3年シラバス

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	コンテストデザイン ポートフォリオ制作3	独自の視点やアイデアで、設定されたブランドテーマに沿って表現する力を養う。市場性を捉えたデザイン力を養う。
2	3-4	コンテストデザイン ポートフォリオ制作4	設定したコンセプトを紙面上にどう表現するかレイアウト力を高める。文章などは予習段階で準備しておく。
3	5-6	コンテストデザイン ポートフォリオ制作5	伝えたいことが明確に表現できているか、客観的に見直し調整を行うことで、主観的な感情やバイアスから離れ、作品を評価する能力を養う。
4	7-8	コンテストデザイン ポートフォリオ制作6	テキストとコンセプトの整合性を考え発想力を養う。予習段階で素材を作りこんでおく。
5	9-10	コンテストデザイン ポートフォリオ制作7	3体のバランスを考え、デザイン画のラフ案をだす。常にコンセプトを考慮しデザイン力を養う。
6	11-12	コンテストデザイン ポートフォリオ制作8	ラフ画からデザインを決定させコンセプトデザイン発想を養う。予習段階でラフ画を準備しておく。
7	13-14	コンテストデザイン ポートフォリオ制作9	3体のバランスを考えながら着彩し、デザイン画を完成させる力を学び、ポートフォリオ制作の基礎を習得する。
8	15-16	my brand コレクション再考察	ブランド作品を仕上げていく中で、コーディネートを考える前に自身の作品を客観視しバランスを捉える。
9	17-18	my brand look2・3デザイン出し	カラー構成や、縫製仕様等、細部の確認をし、完成度の高いデザイン画に仕上げる力を習得する。
10	19-20	my brand コレクション コーディネート1	制作したブランドの全アイテムに統一感を持たせるコーディネートを考える。訴求力のある作品発表力を養う。
11	21-22	my brand コレクション コーディネート2	考えたコーディネートに沿って具体的なデザインを決めていく。訴求力のある作品発表力を養う。予習復習で材料の確保や制作の工程を考え計画的に動く。
12	23-24	my brand コレクション コーディネート3	アクセサリーやヘアメイクのコーディネートを考え、全体の訴求力のある作品発表力を養う。
13	25-26	卒業記念展エントリーシート制作1	卒業記念展で制作した作品を紙面上にレイアウトする。予習段階で素材等の材料を準備しておく。
14	27-28	卒業記念展エントリーシート制作2	素材の貼り付けや、最終チェックを行い提出する。伝わりやすいレイアウト力を習熟する。
15	29-30	my brand コレクション 全アイテムの調整・まとめ	年間を通しての服飾デザイン活動を総括する。ブランド作品全体の整合性を高める力を養う。
準備学習 (予習・復習)		演習に関しては、1時間の演習に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、20時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		採点の基本は、上記授業の成果としての制作物、ブランド作品、プロデュースショー作品、デザインバランスに重きをおく。	

授業科目等の概要													
学科	服飾専門課程 ファッションクリエイティブデザイン科 3年												
D P/ 学科人材 育成像	学校教育理念に掲げられている「人間教育と技術教育」を根幹とし、学科では企画・デザイン・商品開発の実務に対応できる実践力を養い、課題解決や目標達成に向けた意思決定と、独自の感性を活かした提案力を発揮できる人材を育成する。 アパレル企業の企画職、総合職、デザイナー、パタンナー、モデリスト、オリジナルブランドの起業を目指す。												
分類	必修	○	選択		配当年次	3	年	学期	通年	○	前期	後期	
種別	総論					授業形態	講義	○	演習		実習		
授業科目	服飾造形論Ⅲ					単位	1単位						
担当教員	内田 智子					職業実践専門課程：企業との連携					○		
※実務家教員	○	内田：アパレル会社の企画デザイナーにて、デザイン、パターン、生産管理など一連の実務を行なった後、DTP業務、販売経験を培ってきた、実務を生かし教授する。											
資格検定												必修	選択
授業概要	アパレル商品が出来るまで、さらに出来てから管理までを講じる。素材の取り扱い、特徴、裁断方法、縫製手順を基本的な知識をベースにして、特殊素材まで応用できる事を目的とする。主に特殊素材として薄物、透ける素材、レース、伸縮素材カットソー応用について学ぶ。またクリエイション作品においてオリジナル素材の取り扱いを実習を通して作品化する。また、他者へ制作依頼する仕様書の書き方を習得する。												
学習成果	①	衣服制作の完成度を高める為の知識と技術を養う。					成績評価方法 (右記の評価を 基準に平均点で 算出)	1	定期試験結果	90	%		
	②	効率的に衣服制作出来る方法を理解する。						2	提出物/期限遵守		%		
	③	アパレル企画職実務の加工出し基礎力を身につける。						3	独創性/習熟度		%		
	※	衣服制作上の基礎知識を正確に習得する。						4	意欲・授業態度	10	%		
使 用 材	<ul style="list-style-type: none"> ●文化ファッション大系 服飾造形講座①②③④⑤ ●文化ファッション大系 アパレル素材論① ●KFDオリジナル実習プリント配布 												

前期授業計画 (4月-9月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	コンテスト作品のテキスタイル研究	コンテストに向けて多様なテキスタイルに触れ、生地特性を活かした表現方法を探究する。ファッション分野にとどまらず幅広い分野に目を向けテキスタイルとなり得る素材の収集・準備を行う。
2	3	仕様書について	縫製仕様書作成の訓練を通してスキル向上を図り、基礎仕様の復習と市場分析による多様な仕様の理解を深める。
3	4-5	重衣料の制作物のディテール資料収集・分析	重衣料のディテールを収集・分析し、仕様内容を正確に把握する。また、市場調査を行い資料を収集することで流行を捉え、次シーズンを見据えた企画力を養う。
4	6-7	重衣料の制作物の仕様書制作	制作物の仕様書を記入することで、縫製を効率的に考える力を身につける。予習では仕様を考えておき、復習では内容が伝わりやすいか確認する。
5	8-9	特殊素材 種類と取り扱い方	取り扱いが難しい素材を制作物に生かす技術を習得する。予習・復習として市場での仕様や仕上がりを観察し理解を深める。
6	10-11	my brand LOOK1 仕様書制作	縫製仕様書作成のトレーニングを行い、スキル向上を目指す。また、仕様を考えながら縫製手順を検討する力を養う。
7	12-13	my brand LOOK1 工程分析	工程分析を行い、縫製作業の効率化を図るとともに、副資材不足を防ぎ、計画的な作業を行えるようにする。
8	14-15	試験対策	習得したことを再確認し、反復学習をする。反復を通じて実務で活用できるレベルまで定着させる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

後期授業計画 (10月-3月)			授業目的・準備学習(予習・復習)内容
1	1-2	職業実践専門課程 職出し副資材準備	他者に縫製を依頼する際に必要な副資材を適切に準備し、内容が把握しやすい資料を作成する。
2	3-4	職業実践専門課程 職出し仕様書制作	他者に縫製を依頼する際の適切な指示方法を学び、縫製者と円滑に業務を進めるための伝達力を養う。復習として指示書が正確に伝わる内容になっているかを確認・修正し、仕様書の完成度を高める。
3	5-6	衣装制作について	衣装制作の特殊仕様を学ぶ。フォーマル衣装や着脱しやすい仕様を把握する。
4	7-8	my brand L00K2 仕様書制作	各自が縫製するブランド作品の仕様書を作成し、効率的な作業を行なうためにタスクを可視化させ生産性を向上させることを学ぶ。
5	9-10	my brand L00K2 工程分析	工程分析を行い、縫製作業の効率化を図るとともに、副資材不足を防ぎ、計画的な作業を行えるようにする。
6	11-12	my brand L00K3 仕様書制作	縫製仕様書作成トレーニングを行ない、スキル・スピード向上を目指す。
7	13-14	my brand L00K3 工程分析	工程分析を行い、縫製作業の効率化を図るとともに、副資材不足を防ぎ、計画的な作業を行えるようにする。
8	15	試験対策	習得したことを再確認し、反復学習をする。反復を通じて実務で活用できるレベルまで定着させる。
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
準備学習 (予習・復習)		講義に関しては、1時間の講義に対し、教室外における2時間程度の準備または学習を必要とすることを考慮し、15時間の授業をもって1単位とする。	
その他 (授業に際しての注意点)		講義と実習が混在するカリキュラムで実習においては実習の効率化、初期段階より後半の習熟度に重きをおく。	